

鳥羽市観光基本計画  
— 資料編別冊 —

鳥羽の観光史略年表

## 鳥羽の観光史略年表

年月日	事 項
<b>文化6（1809）年</b>	
9月 1日	第52回伊勢神宮ご遷宮。9月4日には外宮の遷御が執り行われる。
<b>文政5（1822）年</b>	
- - 月 - - 日	日和山に方位石が建てられる。大阪堺と江戸を往来する海上交通の要所であり、人・物・情報が集まる港町として発展。遠州灘、熊野灘を渡る風待ち港、避難港としての役割を果たす。文政年間の作成と思われる諸国の港の番付表『国々港くらべ』には、1番である大関の泉州堺の次ぎに關脇として鳥羽港があげられている。
<b>文政12（1829）年</b>	
9月 2日	第53回伊勢神宮ご遷宮。9月5日には外宮の遷御が執り行われる。
<b>嘉永2（1849）年</b>	
9月 2日	第54回伊勢神宮ご遷宮。9月5日には外宮の遷御が執り行われる。
<b>安政5（1858）年</b>	
1月25日	御木本幸吉が、鳥羽で代々続くうどん屋「阿波幸」の長男として生まれる。
<b>明治2（1869）年</b>	
3月 5日	鳥羽藩主稲垣長敬、版籍奉還を願い出る。
6月17日	稲垣長敬、鳥羽藩知事に任ぜられ、従来通り志摩全国と伊勢度会、多気、飯野三郡の長官となる。8月20日に鳥羽城内に藩庁を置く。
9月 4日	第55回伊勢神宮ご遷宮（内宮・外宮）
9月 - - 日	近藤真琴が明治政府の海軍訓練所を申しつけられ、12月に元一橋下屋敷内に攻玉塾を開校する。
<b>明治3（1870）年</b>	
2月 - - 日	樽船70艘が鳥羽に入港。的矢から針仕兼（はしりがね）がきて、本町、大里町をはじめ全町が賑わう。
5月24日	英国の軍艦が的矢に入港する。乗組員が松尾・菅島で鹿狩を行い、日和山・二見浦を見学するなどして6月14日に出帆する。
<b>明治4（1871）年</b>	
4月 5日	鳥羽郵便役所が設置され、取締役に強力宣助が就任する。
4月17日	堅神観音寺の波切松が枯死したため伐採される。
7月14日	廃藩置県により、鳥羽藩を廃して鳥羽県が置かれる。
11月22日	鳥羽県を廃し、度会県に合併の布告が出される
12月 - - 日	鳥羽八王子社を賀多神社と改称する。
<b>明治5（1872）年</b>	
5月25日	明治天皇が軍艦「龍驤」で鳥羽港に入港。第二丁卯艦に乗り換え、伊勢大湊から伊勢神宮を参拝し、27日に鳥羽港を出港する。
6月 - - 日	国崎村の神宮御贄調進、御潜神事が廃止される。
- - 月 - - 日	松阪の小津清左衛門ら3名が、郵便蒸気船会社を鳥羽町に設立する。
<b>明治6（1873）年</b>	
3月15日	鳥羽郵船会社が創立され、東京郵船会社と連携しながら汽船（錫懐丸）による月2回、鳥羽～品川間の運行を開始する。
7月 1日	明治政府が招いた灯台建築技術者R.H.ブランドンによって建築されたレンガ造りの様式灯台「菅島灯台」が点灯する。7月8日には西郷隆盛以下、政府高官も多数列席し落成式が挙行される。

<b>明治 8 (1875) 年</b>	
1月 - - 日	鳥羽郵便役所が鳥羽郵便局と改称される。国内郵便為替の取り扱いも開始される。
3月 20 日	鳥羽元丸ノ内と岩崎町を合併して錦町と改称する。
6月 - - 日	英国軍艦シルバー号が鳥羽港に入港する。
- - 月 - - 日	「船宿渡世調査書」には13軒の船宿名が記録されている。
<b>明治 9 (1876) 年</b>	
1月 - - 日	度会県の巡查屯所が鳥羽に設置される。
3月 - - 日	栗原亮一等による『草奔雑誌』が発刊される。明治11年、栗原は板垣退助等と共に自由民権運動を起こす。
4月 - - 日	藤田米蔵等により、鳥羽城の堀の埋め立てが行われる。
<b>明治 10 (1877) 年</b>	
1月 25 日	明治天皇が軍艦「高尾」で横浜から神戸に向かう途中、暴風雨に遭い鳥羽港に入港。翌26日に錦町字唐人門棧橋から上陸し常安寺に宿泊。27日鳥羽港を出港する。
2月 - - 日	山田警察署鳥羽分署が置かれる。
<b>明治 11 (1878) 年</b>	
2月 3 日	東京から参宮客が大勢来る。山田古市は大繁盛で、鳥羽からも古市へ出稼ぎが相次ぐ。
9月 1 日	三重県内物産博覧会が津公園で開催され、鳥羽地域からも答志村の乾淡菜(イガイを煮て干した物)などが出展される。
9月 - - 日	東京の福沢辰蔵が鳥羽町に造船所を開設する。後に鈴木商店を経て神鋼電機鳥羽工場となる。
<b>明治 12 (1879) 年</b>	
7月 - - 日	コレラが流行し、三重県下の死者1115人。鳥羽では岩崎と焼飯坂に検疫所をもうける。
- - 月 - - 日	山田警察署鳥羽分署が鳥羽警察署として独立。鳥羽町錦町の宮瀬方を仮庁舎にする。この年、鳥羽町に日本型船舶447隻、小浜村に169隻の船舶が入港。
<b>明治 13 (1880) 年</b>	
1月 6 日	近藤真琴が航海測量習練所を東京の芝神明町に移して「商船學」と称し、開校式を行う。
8月 13 日	西洋式帆船「商行丸」が石鏡沖で座礁。自力で離礁して14日に鳥羽港に入港する。
<b>明治 14 (1881) 年</b>	
8月 20 日	近藤真琴が鳥羽町藤之郷赤崎に攻玉社分校鳥羽商船学を開校する。
12月 11 日	「志勢同盟会」が結成され、第1回会合が山田館町角屋で開催される。
<b>明治 15 (1882) 年</b>	
5月 - - 日	志勢同盟会による『志勢雑誌』創刊号が発刊される。
6月 15 日	鳥羽電信分局が設置され、電信事務が開始される。
<b>明治 16 (1883) 年</b>	
3月 1 日	第1回水産博覧会が東京で開催され『三重県水産図解』が出品される。
<b>明治 17 (1884) 年</b>	
2月 - - 日	鳥羽町に伊藤書店が開業する。
<b>明治 18 (1885) 年</b>	
4月 28 日	駅伝営業取締規則が布達される。駅伝営業人組合の設置が義務づけられ、答志英虞郡取締所が鳥羽町に設置された(明治15年の人力車取締規則、馬車取締規則は廃止となる)。
8月 4 日	暴風雨のため鳥羽港内で千石積日本形船1隻、小舟12隻が破船する。
<b>明治 19 (1886) 年</b>	
6月 4 日	コレラが流行し、鳥羽町で21人、小浜村で25人、答志村で15人など91人が罹患。内75人が死亡した。11月18日に終息する。

- - 月 - - 日	鳥羽漁業組合が設立される。 志摩国海産物改良組合が設立される。 答志・英虞両郡の海參（いりこ）製造業者による「志摩国海參営業者組合」が認可される。
<b>明治 2 0 (1887) 年</b>	
2 月 - - 日	豪雨と高潮のため、鳥羽町の人家約 3 分の 1 が浸水する。
3 月 1 0 日	鳥羽電信分局を鳥羽電信局と改称する。
3 月 - - 日	鳥羽街道（二見～鳥羽間）が突貫工事で開通する。 英照皇太后が鳥羽を来訪。常安寺に 2 泊される。
7 月 5 日	答志英虞郡雑魚組合、答志英虞郡介藻組合、答志英虞郡海鼠（なまこ）組合、石花菜（てんぐさ）組合の 4 漁業組合が認可される。
8 月 - - 日	鳥羽町 2 0 8 9 - 2 番地に鳥羽警察署新庁舎が完成する。
<b>明治 2 1 (1888) 年</b>	
6 月 - - 日	第 2 回全国水産品評会が東京で開催される。志摩国海産物改良組合（代表・御木本幸吉）が「改良海參」「真珠」を出品。2 等賞を受賞する。
1 1 月 1 5 日	山田裁判所鳥羽出張所が錦町に設置される（安濃津治審裁判所鳥羽登記所を改称）。
<b>明治 2 2 (1889) 年</b>	
2 月 1 1 日	大日本帝国憲法の公布を祝って、鳥羽町では本町・八百万楼を会場に祝辞朗読演説会が催される。
4 月 1 日	鳥羽町・堅神村・小浜村が合併して鳥羽町に、答志村・桃取村・菅島村が合併して答志村となる。 また、加茂村、鏡浦村、長岡村、坂手村、神島村の新村が生まれる。
6 月 - - 日	答志英虞郡の雑魚組合、介藻組合、海鼠組合、石花菜組合の 4 漁業組合が統合して三重県答志英虞郡漁業組合が結成される。
1 0 月 2 日	第 5 6 回伊勢神宮ご遷宮（内宮）。1 0 月 5 日には外宮の遷御が執り行われる。
1 0 月 - - 日	鳥羽の有志により、城山に近藤真琴翁の記念碑が建立される。
1 1 月 - - 日	鳥羽消防団が結成される。
<b>明治 2 3 (1890) 年</b>	
1 月 1 5 日	西洋形帆船（4 0 0 トン積、乗組員 2 1 人）が飛鳥沖で座礁。乗組員は鳥羽・熱田間回航「運貨丸」に救助される。
4 月 1 日	第 3 回国内勸業博覧会（東京）に御木本幸吉が「真珠及び真珠貝の生活標本」を出品する。
5 月 1 0 日	鳥羽電信局を鳥羽郵便電信局と改称する。
5 月 - - 日	志摩尚志会の『会誌』第 1 号が発刊される。
9 月 - - 日	御木本幸吉が相島（現在のミキモト真珠島）で半円真珠養殖の実験を開始する。
- - 月 - - 日	『明治 2 3 年三重県答志英虞郡治一覽』によれば、この年の鳥羽港への入港船舶数は、蒸気船 1 5 3 隻、風帆船 2 1 5 隻、日本型船 9 6 5 隻で合計 1 3 3 3 隻と記載されている。
<b>明治 2 4 (1891) 年</b>	
7 月 2 9 日	皇太子が軍艦「浪速号」で鳥羽港に入港。8 月 2 1 日まで二見浦「賓日館」に滞在。8 月 2 0 日には鳥羽日和山を遊覧し、同日鳥羽港から帰還する。
1 0 月 - - 日	御木本幸吉、広島牡蠣 1 万個を移入し、県下に分与する。
- - 月 - - 日	山崎徳之助が浦村航路（鳥羽～本浦間）の運航を開始する。
<b>明治 2 5 (1892) 年</b>	
3 月 - - 日	日和山登山道に桜の植栽が行われる。
- - 月 - - 日	寺本久作が久清丸で石鏡航路の運航を開始する。
<b>明治 2 6 (1893) 年</b>	
7 月 1 1 日	御木本幸吉、鳥羽の相島で実験中の施術員から半円真珠を発見。養殖真珠第 1 号となる。
<b>明治 2 7 (1894) 年</b>	
9 月 1 5 日	御木本幸吉、貝付半円真珠の養殖に成功し、半円真珠養殖法の特許を出願する。
- - 月 - - 日	神島～答志間の郵便輸送に当たっていた天野干乗が神島航路の運航を開始する。

<b>明治28(1895)年</b>	
8月--日	8月から10月にかけて答志、的矢、波切、片田の各町村でコレラが発生。患者51名の内、35名が死亡する。
<b>明治29(1896)年</b>	
1月27日	明治27年に御木本幸吉が出願した真珠素質被着法(半円真珠)の特許権(第2670号)が許可される。
7月14日	山田銀行鳥羽支店が設立される。
--月--日	三重銀行支店が設立される。
<b>明治30(1897)年</b>	
5月31日	志摩郡答志村が、答志村、桃取村、菅島村の三村に分村する。
11月30日	株式会社鳥羽商会(石炭売買業)が鳥羽町に創業する。
--月--日	鳥羽に海務署が設置される。 柳田国男が伊良湖から神島を来遊。後に紀行文『遊海島記』にまとめられる。
<b>明治31(1898)年</b>	
10月13日	鳥羽演劇合資会社(演劇場賃貸業)が鳥羽町に創業される。
10月15日	五二会主催による三重県製造品品評会が約3週間にわたって、宇治山田町で開催され、志摩郡からも42点が出品された。
12月--日	御木本幸吉が明治天皇に半円真珠を献上する。
<b>明治32(1899)年</b>	
3月--日	東京京橋区弥左衛門町(現・銀座並木通り)に御木本真珠店が開業する。
5月29日	三重県遠洋漁業株式会社が鳥羽町に創業(明治31年6月6日農商務省認可)する。102トンの西洋型帆船(乗組員25~27人、無動力)で創業を開始。漁獲物は主に、鮪、鰹、鰺、鱈、オットセイなど。
<b>明治33(1900)年</b>	
4月2日	合資会社志摩魚問屋が鳥羽町で創業する。
4月20日	大阪商船による鳥羽~熱田間の運行が開始される。汽船2隻で毎日1回運行。往復とも大野、四日市、津、神社、二見に寄港する。
9月22日	合資会社鳥羽魚市場が鳥羽町で創業する
10月1日	娼妓の外出が禁止される(ハシリガネが差し止められる)。
--月--日	御木本幸吉がパリ万博に半円真珠を初めて出品する。
<b>明治34(1901)年</b>	
10月--日	兵庫県三田の九鬼隆輝氏(旧三田藩主)が答志の九鬼嘉隆の墓を修理し、鳥羽常安寺で300年祭を執りおこなう。
<b>明治35(1902)年</b>	
5月--日	鳥羽町に那須写真館が開業する。志摩郡内の写真店第1号となる。
12月27日	小浜漁業組合が設立される。
<b>明治36(1903)年</b>	
2月27日	相差漁業組合が設立される。以後同年中に、千賀堅子、国崎、神島、石鏡、畔蛸、桃取、浦村、菅島、船津村の各漁業組合が設立される。
8月--日	歌人・長塚節が鳥羽から船で熊野に向かう。
--月--日	緒明菊三郎(東京)が鳥羽赤崎対岸の安楽島の埋立に着手する。
<b>明治37(1904)年</b>	
2月--日	セントルイス博覧会に出品を兼ねて、御木本幸吉が斎藤、久米の両名を市場調査に派遣する。
3月19日	日本画家、嶋谷自然(本名・藤四郎)が坂手町に生まれる。
4月--日	旧鳥羽藩の藩士、門野幾之進が千代田生命保険相互会社を創設し社長に就任する。

10月 7日	明治30年からアジア旅行を始めたイギリス人博物学者のリチャード・ゴートン・スミスが答志島を訪問。島民や海女達との交流を克明な文章と写真で日記に記す。
10月 9日	『ニューヨーク・ヘラルド新聞』に半円真珠の発明と真珠の養殖過程が報道される。
<b>明治38(1905)年</b>	
- 月 - 日	志摩郡水産組合が設置される。 鳥羽町の「錦座」が全焼する。 鳥羽町の「扇座」が全焼する。
<b>明治39(1906)年</b>	
4月 - 日	佐々木信綱が志摩を巡遊する。
7月21日	国内外を市場に、缶詰などの水産物加工を目的とした東洋水産株式会社が鳥羽町に設立。
12月11日	参宮鉄道株式会社が鳥羽線延長と同時に、鳥羽港と三州蒲郡間の航海業開始を申請。後日申請は不許可となる。
12月13日	東京銀座4丁目3番地に御木本真珠店2階建洋館が新築され移転する。
<b>明治40(1907)年</b>	
3月 - 日	東京上野で開かれた「東京勸業博覧会」に御木本幸吉が「軍配扇」を出品する。 鷹羽龍年の漢詩碑が、鳥羽城跡(現鳥羽小学校裏門口)に建立される。
4月 1日	東京区橋区築地3-6に、御木本金細工工場が創設される。
10月 - 日	参宮線が国有鉄道になる。
- 月 - 日	鳥羽町の旅館「錦浦館」が新築される。
<b>明治41(1908)年</b>	
2月13日	御木本幸吉が真円真珠「明治式」(38式)特許権(第13673号)を取得する。4月には、カタログ誌『真珠』第1号を発刊する。
6月25日	御木本幸吉が市場調査のため、小林力彌を欧米に派遣する。
10月18日	鳥羽商船校友会の主催により、錦浦館前の海岸で端艇競漕が開催される。
11月 3日	明治38年に全焼した扇座が鳥羽自益谷に再建され、こけら落としに板東蓑助が来演する。
- 月 - 日	鳥羽町の旅館「長門館」が新築落成する。
<b>明治42(1909)年</b>	
4月 - 日	鳥羽町中之郷に百五銀行鳥羽支店が設立される。
6月11日	合資会社鳥羽造船所による鳥羽～蒲郡間の定期航路が開設される。
6月15日	鳥羽漁業組合が設立。以後、同年中に坂手、答志、安楽島、答志和具の各漁業組合が設立される。
10月 2日	第57回伊勢神宮ご遷宮(内宮)。10月5日には外宮の遷宮が執り行われる。
10月 - 日	国鉄参宮線の山田～鳥羽間の工事が着工される。
- 月 - 日	山田銀行と三重銀行が合併する。
- 月 - 日	鳥羽城の堀でもあった妙慶川に架かる相橋が鉄橋になる。
- 月 - 日	橋本才吉により、答志航路が開設される。
- 月 - 日	鳥羽造船所による一般家庭への電力供給が始められる(12月末で247戸、街灯155灯)。
<b>明治43(1910)年</b>	
2月11日	鳥羽郵便局で電話交換業務が開始される。加入台数35台。
4月 8日	御木本幸吉により、多徳島で第1回真珠供養が挙行される。
5月 1日	神島灯台が点灯する。
11月14日	皇太子殿下(大正天皇)が多徳島を訪問する。
- 月 - 日	鳥羽町自益谷に玉突場が開設される。
<b>明治44(1911)年</b>	
5月 1日	鳥羽町錦町に伊勢新聞社鳥羽支局が開設される。
6月 - 日	坂手村で赤痢発生。同年中に114名が死亡する。
7月21日	国鉄参宮線の山田～鳥羽間が開通する。この時代に伊勢志摩地方にこれだけの鉄道網が整備されたことは、伊勢神宮が国民の心のよりどころとして如何に大きな存在であったかを物語っている。
11月24日	相差菅崎の八正道沖の暗礁に駆逐艦「春雨」が座礁。司令大瀧道助海軍中佐以下45名が殉職した。長岡村、安乗村及び付近住民による決死的な救難作業が行われる。
- 月 - 日	鳥羽にゴム輪を使った人力車が現れる。

<b>明治45(1912)年</b>	
3月15日	鳥羽日和山山麓に鳥羽導灯(灯台)の“低灯”が建設される。翌年3月には“高灯”が建設される。
4月--日	鳥羽町に三重沃度製造株式会社が設立される。
6月--日	加茂村安楽島で赤痢が発生。患者総数は50人に達する。
--月--日	片山弥一郎と斎藤米造が桃取～小浜～鳥羽の巡航路の運航を開始する。 鳥羽町の赤崎に旅館「待月楼」が新築される。
<b>大正2(1913)年</b>	
1月5日	英国ニューボンドストリートに御木本真珠店ロンドン支店(卸売)が開設される。
1月19日	鳥羽鍼灸按摩業者によって鍼灸按摩講習所が設けられ、開校式が挙行される。
2月10日	南極探検隊函南丸が菅島灯台下で座礁する。
8月--日	鳥羽町に遊覧船組合が設置される。
--月--日	神島村で赤痢が発生。感染者は35人におよぶ。
--月--日	答志航路が焼玉エンジンの発動機船になる。
<b>大正3(1914)年</b>	
1月--日	明治45年7月に起工した五知峠開削工事が完工する。
11月7日	TYK式無線電話鳥羽局が竣工。11月23日に答志局、12月16日に神島局が竣工。同16日に鳥羽～答志～神島間でTYK式無線電話の試験的な取り扱いが開始される。世界で初めての無線電話の実用化となった。
<b>大正4(1915)年</b>	
3月--日	株式会社戊申貯蔵銀行鳥羽代理店が設立される。
--月--日	川岸松四郎が坂手航路の運航を開始する。
<b>大正5(1916)年</b>	
3月--日	株式会社鳥羽魚商會が設立される。
4月11日	神島電信局が設置され、和文の一般公衆電報の発着信取り扱いが開始される。
11月15日	中国南京路31号に御木本真珠店上海支店が開設される。
<b>大正6(1917)年</b>	
6月--日	鳥羽町宮瀬方に事務所を置く暖海詩社から、月刊誌『みさき』が創刊される。
11月11日	平井太郎(江戸川乱歩)が、父の知人の世話で鳥羽造船所電機部へ入社する。
12月20日	鳥羽町錦町から出火。中之郷にまで延焼し、警察署など焼失戸数は184戸に及んだ。
--月--日	東洋遊園地株式会社が設立される。
<b>大正7(1918)年</b>	
5月--日	株式会社鳥羽造船所は、株式会社帝国汽船造船部鳥羽造船工場と改称される。
11月7日	鳥羽造船工場の労働者による暴動が起こる(鳥羽暴動)。
11月11日	平井太郎(江戸川乱歩)編集の造船工場機関雑誌『日和』の創刊号が発刊される。翌8年5月12日号の第3号をもって廃刊となる。
11月--日	御木本幸吉、五ヶ所湾養殖場で全巻式による真円真珠を採取し好成績を得る。
--月--日	四日市銀行の支店が新築される。 農工銀行の支店が開設される。 沢田惣四郎が鳥羽～菅島間の菅島航路(一往復)の運航を開始する。
<b>大正8(1919)年</b>	
1月15日	御木本幸吉が「全巻式」の特許権(第33640号)を取得する。この年、養殖真円真珠を初めてロンドン支店で売り出す。
1月--日	平井太郎(江戸川乱歩)が鳥羽造船工場を退社する。
4月11日	大正6年の鳥羽大火で消失した鳥羽警察署新庁舎が鳥羽町岩崎に完成する。
11月--日	磯部村の作田久治等によって志摩自動車会社が設立され、鳥羽～鵜方間の乗合自動車の運行が開始される。
--月--日	日東製氷鳥羽工場が設置される。

<b>大正 9 (1920) 年</b>	
4月15日	加茂村大字河内の丸山庫蔵寺本堂その他が、国の重要文化財に指定される。
12月26日	答志局で一般電話の交換が開始される。
<b>大正 10 (1921) 年</b>	
1月26日	「明治天皇行幸記」(明治10年1月25日) 記念碑を常安寺前に建立、除幕式が行われる。
11月 - - 日	民間航空の水上機「参宮号」が浜名湖～鳥羽間(鳥羽町小浜に着水)の運航を開始する。
- - 月 - - 日	鳥羽 - 蒲郡間汽船が運航される。 鳥羽町堅神、小浜に電灯がひかれる。
<b>大正 11 (1922) 年</b>	
9月 - - 日	伊良子清白が鳥羽町小浜の村医として赴任する。
- - 月 - - 日	神島航路の動力船、「神通丸」が建造される。 桃取航路(桃取～小浜～鳥羽)の巡航船を動力船にする。
<b>大正 12 (1923) 年</b>	
2月 - - 日	株式会社鳥羽仲買魚問屋が設立される。中之郷海岸に営業所を設け、朝夕2回魚市場が開かれた。
8月 - - 日	志摩電気鉄道の計画趣意書が出される。
9月 - - 日	鳥羽遊覧船組合を鳥羽遊覧株式会社に改組。昭和17年頃には機械船5隻、和船5隻を所有し、鳥羽湾付近の名勝地を案内する。
- - 月 - - 日	菅島航路の動力船「正福丸」が建造される。 中之郷海岸の埋め立てが行われる。
<b>大正 13 (1924) 年</b>	
5月 - - 日	鳥羽婦人会が設立される。
6月18日	志摩電気鉄道発起人会が開催される。
7月 - - 日	鳥羽町が加茂村大字船津落口に上水道の水源を設ける。
8月22日	鳥羽町役場掲示場へ天気予報の掲示を始める。
10月 - - 日	鳥羽滞在中の艦隊乗組員から赤痢患者14名が発生。隔離病棟に収容する。
11月 5日	波切～鳥羽間をコースに、郡内各町村の対抗駅伝競走が開催される。
- - 月 - - 日	英国ロンドン・リージェントストリートに御木本真珠店の小売店が開設される。
<b>大正 14 (1925) 年</b>	
2月11日	鳥羽町の上水道が完成し、水源地において通水式が挙行される。特に飲料水における衛生面が改善され、観光を始め各種産業にも好影響を与える。
3月15日	志摩電気鉄道株式会社の設立事務所が鳥羽町役場に置かれ、設立に関する一般事務が執られる。
4月20日	日系米国市民の日本見学団14名が来鳥。日和山及び答志村で海女の作業を見学する。
5月16日	鳥羽町でチブスが発生し、隔離病棟を開く。12月9日に閉舎するまでに51名が入舎、内9名が死亡。
7月 - - 日	日和山登山道が改修される。 鳥羽町に製氷会社が設立される。
12月 1日	神島村に神島郵便局が設置される。
- - 月 - - 日	鳥羽で発刊されていた『南開新聞』は『志勢新聞』と改題し、紙面も拡大される
<b>大正 15 (1926) 年</b>	
4月10日	国鉄鳥羽駅の改修工事が完了し、新駅舎が完成する。
5月20日	志摩電気鉄道株式会社が設立される。
6月 - - 日	鳥羽町の各字青年団体の親睦と鳥羽青年会との連携を目的に錦港倶楽部が設立される。
8月15日	鳥羽～東京間の直通列車が運転を始める。
8月26日	菅島村に電灯が点火される。
8月 - - 日	福江～鳥羽間の航路を開設するため、福江町長等が来鳥。旅館「錦浦館」で意見交換が行われる。
9月 1日	南勢銀行鳥羽支店が開設される。
9月 - - 日	鳥羽～阿児町鶴方間の志摩乗合自動車が、浜島に乗り入れる。
11月12日	大正14年11月に着手された鳥羽大山祇神社の造営が終わり遷座式が挙行される。
- - 月 - - 日	答志航路が、橋本六蔵・浜田惣吉の経営になる。 米国フィラデルフィア万国博覧会に「御木本五重の塔」が出展される。



<b>昭和2(1927)年</b>	
1月25日	米国ニューヨーク5番街に御木本真珠店ニューヨーク支店を開設する。
4月15日	真珠湾交運株式会社が設立され、自動車運輸事業の営業を開始。12月には鳥羽湾の遊覧事業を開始する
6月--日	戦艦長門、陸奥ほか第一艦隊が鳥羽港外に停泊。同月24日と25日の両日に渡って一般観覧が許可される。
7月3日	大阪毎日新聞・東京日々新聞共催の「日本新八景」の選定が行われる。「日本八景」応募推進団体として鳥羽町の有志による「八景講」が設立され活動が続けられた。“鳥羽港”は入選こそ果たせなかったが、『日本百景』の一つに選ばれ、全国的レベルの観光地に名を連ね、昭和の夜明けにふさわしい観光鳥羽の新発足となる。
--月--日	西村幸十郎が三幸丸で菅島航路を開業する。
<b>昭和3(1928)年</b>	
1月18日	御木本幸吉彰徳碑が相島に建てられる。
4月1日	鳥羽町の観光宣伝を目的に「八景講」を発展的に改組し「鳥羽保勝会」を結成する。
7月23日	志摩電気鉄道の鳥羽～真珠港間が開通。志摩地方との交流・連携に大きな影響を与える。
10月--日	フランスのパリに御木本真珠店パリ支店を開設する。
--月--日	相島を「真珠ヶ島」と名づける。
<b>昭和4(1929)年</b>	
1月--日	鳥羽町大里の宮瀬規矩が主宰する白鳥短歌会の月刊短歌誌『白鳥』が創刊される。この短歌誌には、伊良子清白も深くかかわる。
4月4日	鳥羽町の所有地「相島」を御木本幸吉に売却する。
4月--日	大阪商船株式会社の「大阪～名古屋航路」が摂陽商船会社に継承され、鳥羽港に寄港する。
6月--日	志摩通運会社が設立される。本店は鳥羽町に、支店を阿児町賢島に置く。
7月23日	志摩電気鉄道の鳥羽～真珠港(賢島)間25kmが開通する。
9月3日	三重県下で初めての鉄筋校舎「鳥羽尋常高等小学校」が完成する。
9月25日	イタリアのボンベイに御木本真珠店ボンベイ支店を開設する。
10月2日	第58回伊勢神宮ご遷宮(内宮)。10月5日には外宮の遷御が執り行われる。
<b>昭和5(1930)年</b>	
10月--日	鳥羽港修築期成同盟会が結成される。
--月--日	城山稲荷神社以北を城山小公園とし、桜の植栽を行う。
<b>昭和6(1931)年</b>	
3月17日	参宮急行電車の大阪～宇治山田間が全線開通する。
9月--日	岩城源一郎作詞、伊野伶晃作曲『鳥羽小唄』、『漁夫の唄』がコロンビアレコード社で制作され発売される。
--月--日	米国ロスアンゼルスに御木本真珠店ロスアンゼルス支店が開設される。 御木本隆三が東京日比谷に「20人の同志」を得て、“東京ラスキン協会”を設立する。
<b>昭和7(1932)年</b>	
12月16日	鳥羽港の修築起工式が開催される。
--月--日	石鏡航路が久清丸と併行して木村春之助によって春高丸で就航する。
<b>昭和8(1933)年</b>	
1月31日	西村正彦編『志陽第2号』が鳥羽町郷土史研究会から発行される。(創刊年月不明)
2月26日	日和山エレベーター株式会社の設立総会が行われる。7月工事起工。
3月14日	鳥羽町本町から出火。賀多神社前付近まで14戸あまりを類焼する。
11月2日	常安寺奥書院が明治天皇行在所として文部省から指定される。
--月--日	東京湾汽船による蒲郡～伊勢・鳥羽航路が開設される 米国シカゴに御木本真珠店シカゴ支店を開設。シカゴ万国博覧会に「ワシントンの生家」を出展。 後にスミソニアン博物館に寄贈される。
<b>昭和9(1934)年</b>	
1月19日	東海空輸飛行機着水場の件で小浜と鳥羽の両漁業組合代表者会議が開催される。

2月18日	鳥羽町の中村浅平が鉄道の活魚車を使用し、海産魚の輸送を始める。主にフグ。鳥羽駅から兵庫駅まで、輸送時間10時間13分。成績105匹中12匹が死亡。
4月13日	鳥羽～小浜間の交通の便を図る渡船場（字浜田・字カウジムラ）の設置について知事認可が出され、6月16日から町営の渡船が開始される。
4月 - -日	鳥羽保勝会として最初の本格的な観光宣伝ポスター、リーフレットを印刷し、全国に配付する。
7月 - -日	日和山エレベーター完成。廣楽園と日和山をつなぎ遊園地とする。高さ51m。運営は日和山エレベーター株式会社。
8月19日	鳥羽町主催で、県下参加の真珠島一周競泳大会が開催される。
9月21日	室戸台風が襲来。鳥羽でも全壊家屋5戸など被害を被る。
9月 - -日	山田空雷作詞、須藤五郎作曲『鳥羽音頭』がポリドールレコード社から発売。歌手は東海林太郎、新橋喜代三。
11月26日	保証責任鳥羽信用組合の設立総会が開かれ、同月28日から事業が開始される。
12月 6日	桃取局の電信事務が開始される。

## 昭和10（1935）年

4月13日	漁業振興と漁場愛護の気持ちを高めることを目的に、大日本水族愛護同盟会が設立される。本部を鳥羽町に置き、初代会長には石原円吉氏が選ばれる。
10月 1日	鳥羽観光案内所が設置される。
- -月 - -日	東洋遊園地（株）の“樋の山遊園地”を観光客の誘致と憩いの場を目的に、“鳥羽町遊園地”として一般公開がされる。

## 昭和11（1936）年

3月21日	樋の山登山道路を改修するため改築が進められていた洗濯場地蔵尊のお堂が竣工し、一ノ谷地藏尊と改称され入仏式が行われる。
3月26日	樋の山遊園地道路（登山道路）の開通竣工式が行われる。
4月24日	鳥羽港（現在の伊勢湾フェリー前周辺）の修築竣工式が行われる。
9月 - -日	真珠湾交通株式会社が志摩通運から、浜島～鳥羽航路の営業権を譲受する。
11月 - -日	戦時下の情報統制の中で鳥羽町及び付近一帯が空中及び高所からの撮影禁止区域に指定される。
- -月 - -日	鳥羽港振興会が組織される。

## 昭和12（1937）年

1月 1日	本格的な誘客宣伝事業を実施するため「鳥羽保勝会」を「鳥羽観光協会」と名称変更する。
3月27日	鳥羽水族館が開館。竣工開館式が挙行される。
5月 3日	鳥羽観光協会、鳥羽港振興会の共同主催による“観光祭・港まつり”が開催される。花火、仮装行列など、同月9日までの1週間にわたって盛大に実施される。
5月 - -日	鳥羽町で赤痢が発生。患者三十数名。6月11日に終息する。
6月 2日	皇太后（貞明皇后）が6月7日に鳥羽を行啓されるため、岩崎海岸から御木本真珠島まで浮橋を設置する。
12月24日	相差村の菅崎に駆逐艦春雨遭難の記念碑が建立される。
- -月 - -日	吉川与之助が定期船浦村航路を開業する。 米国サンフランシスコに御木本真珠店サンフランシスコ支店を開設。パリ万国博覧会に兼用装身具「矢車」を出展する。

## 昭和13（1938）年

3月 - -日	愛知商船株式会社の神風丸による蒲郡～篠島～師崎～二見～鳥羽航路が就航する。
4月 3日	イタリア政府派遣訪日親善使節団が鳥羽町を訪問。歓迎会が開催される。
4月18日	昨年行われた“観光祭”が時局に応じて“観光報国週間”として開催される。
7月13日	ボーイスカウト・ドイツ少年団が鳥羽町を訪問。御木本真珠ヶ島で御木本幸吉や鳥羽ミナト健児団との友好交歓が行われる。
7月 - -日	門野幾之進生誕記念碑が鳥羽町の旧宅跡に建立される。

## 昭和14（1939）年

3月30日	菅島局の電話交換が開始される。同7月21日には坂手局の電信事務が開始される。
- -月 - -日	米国ニューヨーク万国博覧会に御木本真珠店が「自由の鐘」を出展する。

## 昭和15（1940）年

1月30日	菅島村と鶴田石材の間で菅島村上福浦の石材採取契約が締結される。
-------	---------------------------------

6月30日	菅島村と谷口合同組合との間で菅島村村山の石材採取契約が締結される。
7月7日	奢侈品（贅沢品）の製造販売禁止令により、真珠養殖及び細工品の販売が困難になる。10月には真珠養殖事業が禁止され、所蔵真珠全量が封鎖される。
11月 - - 日	五十鈴川汐合橋～二見～鳥羽～波切街道に至る県道宇治山田鳥羽線が竣工する。
12月2日	昭和自動車有限会社（現三交タクシー株式会社）が設立される。
<b>昭和16（1941）年</b>	
3月 - - 日	大阪電気軌道と参宮急行電鉄を合併し、関西急行電鉄となる。
5月22日	答志島の九鬼嘉隆墓が県の文化財に指定される。
7月 - - 日	関急・志摩電・志摩航運による「志摩ハイキング黒潮コースクーポン券」が発売される。
10月21日	坂手町の砲台跡が県の文化財に指定される。
<b>昭和17（1942）年</b>	
4月1日	名古屋大学理学部附属臨海実験所が菅島に開設される。
6月2日	厚生省人口局の吉江体練課長（国立公園主管課長）が志摩国立公園候補地を2日間にわたり視察。
6月10日	志摩郡鳥羽町に同坂手村が合併する。
6月18日	志摩郡町村長会議において「志摩国立公園期成同盟会」の結成を決議。8月1日「同期成同盟会」が発足する。
7月10日	第7回日本観光連盟第7回総会に、鳥羽観光協会副会長、理事の2名が出席する。
8月12日	厚生省田村剛博士が国立公園指定準備のため2日間にわたり志摩管内を視察する。
12月12日	三重県議会杉本英一議長から、志摩国立公園の指定について厚生大臣他関係方面に具申する。
<b>昭和18（1943）年</b>	
3月1日	衆議院請願委員会で志摩国立公園指定の請願が採択される。
7月 - - 日	鳥羽～桃取航路、鳥羽～浦村航路、鳥羽～坂手航路が愛知商船株式会社に移管される。
8月7日	厚生省から新設する国立公園の候補地の一つに志摩を選定した旨の通達がされる。
9月11日	三重県から志摩国立公園の正式申請を厚生省に提出。戦局が悪化し、国立公園事務は停止する。
9月 - - 日	真珠湾交通株式会社が自動車運輸事業を三重乗合自動車株式会社に譲渡する。
10月7日	日和山エレベーター株式会社が電力消費規制により営業を休止する。
- - 月 - - 日	志摩郡町村長会から衆議院請願委員会へ「志摩国立公園」指定の請願を提出する。
<b>昭和19（1944）年</b>	
2月11日	志摩電気鉄道、三重乗合自動車など6社を合併して、三重交通株式会社が設立される。鳥羽には三重交通（株）鳥羽支社が設けられる。
4月 - - 日	真珠湾交通株式会社が鳥羽湾交通株式会社と合併して志摩航運株式会社となる。
6月1日	関西急行電気鉄道株式会社が近畿日本鉄道株式会社と名称を変更する。
12月7日	東南海大地震（M7.9）が発生する。
<b>昭和20（1945）年</b>	
8月15日	終戦。 厚生省衛生局保健課の所管で国立公園事務が再開される。
9月 - - 日	御木本幸吉、終戦と同時に真珠養殖・真珠加工を多徳島で開始する。
<b>昭和21（1946）年</b>	
1月1日	天保8年（1830年）に、伊勢市古市に割烹料理店を開業し、明治初年に伊勢市大世古に移転し、旅館を開業した老舗「戸田家」が、鳥羽佐田浜に「戸田家旅館鳥羽別館」を開業する。
3月 - - 日	戦時のため運休していた志摩海運株式会社による「鳥羽 - 安乗間」の運航が再開される。
4月4日	厚生省石神甲子郎技師が志摩国立公園の候補地を視察する。
4月23日	志摩国立公園に宇治山田市沼木村を編入するよう宇治山田市議会で決議し、県に要請する。
5月20日	志摩国立公園に宇治山田市の沼木村を区域追加し、申請時の呼称「志摩国立公園」を「伊勢志摩国立公園」と改める。
10月18日	G・H・Q美術記念課長ボリス少佐、国立公園係長ボパム大尉、厚生省石神技師が鳥羽・志摩を2日間にわたって視察する。
11月20日	伊勢志摩国立公園指定。戦後の伊勢志摩地域における観光産業の開発に大きな力となる。
12月15日	国立公園指定祝賀会が開催される。鳥羽町では、緑のアーチ、紅白の垂れ幕、紅提灯、花飾りで全町を装飾。打上花火や、とば音頭の手踊り、仮装行列、御輿を繰り出すなど多彩な祝賀行事が繰り広げられた。また、式典には厚生次官、G・H・Q、運輸省、内務省の関係者も列席し執り行われ

	たほか、久米 正雄、舟橋聖一、河上徹太郎等文化人も参列し、「志摩八景」が発表された。
12月21日	三重交通による鳥羽～二見間、二見～山田間のバス運行が再開される。
- - 月 - - 日	近畿日本鉄道が上本町発宇治山田行き“パールズ号”を運行。宇治山田から三重交通のバスを使って二見経由鳥羽へ。鳥羽では志摩航運で鳥羽湾めぐりをして真珠島に寄るモデルコースが出来る。
<b>昭和22(1947)年</b>	
3月1日	戦時のため休止していた日和山エレベーターの営業が再開される。
8月7日	財団法人伊勢志摩国立公園協会が設立される。10月18日には宇治山田商工会議所で創立総会を開催する。
8月20日	神島村に村営発電所が設置される。
10月 - - 日	志摩航運株式会社が合名会社の矢湾航運を合併する。
<b>昭和23(1948)年</b>	
1月15日	伊勢志摩国立公園協会の事務所を三重県庁から、鳥羽町大字鳥羽2380番地へ移転する。
3月 - - 日	三重県都市計画課、近畿日本鉄道株式会社、三重交通株式会社等が中心となり『伊勢志摩国立公園建設計画案』を立案。計画は、「道路計画」「バス計画」「海上計画」「航空計画」「施設計画」「産業開発計画」の6つの柱からなる大規模な総合計画であった。この計画は、5月23日に開催された伊勢志摩国立公園協会の総会でも議決されている。
3月31日	伊勢市倉田山で“平和博覧会”が2ヶ月間の会期で開催される。博覧会開催中、三重交通が伊勢志摩国立公園一周観光バスを運行し、観光客が増大する。
5月1日	鳥羽海上保安署が設置され、翌年1月に名古屋海上保安部検査課の鳥羽分室が設置される。
10月5日	御木本隆三による「鳥羽ラスキン協会」が設立される。
11月 - - 日	愛知商船株式会社の朝夕丸が、名古屋～鳥羽～蒲郡航路に就航する。
<b>昭和24(1949)年</b>	
2月18日	御木本真珠株式会社の設立総会が開かれ、これまでの個人経営から法人組織へと改組される。また、戦後の御木本を支えたもう一つの柱である御木本真珠店も、同年5月25日に個人経営から株式会社に改組された。
4月15日	新指定の国立公園「伊勢志摩」をテーマに、東宝教育映画製作所による教育映画のロケーションが伊勢・鳥羽・志摩の各地で始まる。制作・戸田金作、脚本監督・本田猪四郎、撮影・河村清。7月2日に宇治山田市で試写会が開催された。
6月1日	逓信省が郵政省と電気通信省に分離するのに伴ってが鳥羽電報電話局と鳥羽郵便局に分割される。
7月18日	近畿日本鉄道の大阪～宇治山田間に、特急列車の運転が開始される。
10月4日	三重交通の鳥羽～山田間急行バスにトレーラー・バスが登場する。
12月15日	国道167号線の宇治山田～鳥羽間「二見トンネル」が開通する。
<b>昭和25(1950)年</b>	
4月23日	とばみなとまつり「パールカーニバル」開催。開催趣旨に「戦後5年を経て、依然食糧・物資の不足は続き、地元唯一の大企業である神鋼電機は不況にあえぎ、町財政は苦しく、将来の鳥羽町発展を期するには、観光事業の振興以外には生きる途なし」として、鳥羽町及び鳥羽観光協会の共催で開催したと記載されている。対外宣伝、観光客誘致につなげることを目的に、4月23日～5月7日までの14間にわたるイベントが行われた。近鉄・三重交通両社の物心両面にわたる積極的な協賛も得て、国内外に大きな反響を呼んだ。「鳥羽十景」が選定される。
5月25日	駐日米軍司令官ウオーカー中将夫妻を迎え、真珠島の開島式を挙げる。以後、連合軍やその家族がしきりに訪れ、観光地鳥羽の発展と共に新しい国民外交の場としての活動が再開される。
6月1日	鳥羽海上保安署が鳥羽海上保安部と改称され、同年8月に警備救難課と海事検査課の2課が設置される。
8月 - - 日	愛知商船株式会社が、鳥羽～坂手航路を鳥羽町に譲渡する。
<b>昭和26(1951)年</b>	
2月 - - 日	鳥羽文化団体協議会から『詩人 伊良子清白』が刊行される。
3月12日	有限会社御木本真珠ヶ島設立。鳥羽町相島を「自然と科学の行楽地・御木本真珠ヶ島」として開館。養殖真珠の過程から海女作業、ネックレスになるまでを公開。入場料(30円)を取って一般公開を開始。岩崎棧橋から真珠ヶ島までの海上輸送に“真珠号”1隻を建造する。
4月3日	志摩観光ホテルが三重県・近畿日本鉄道、三重交通の出資によって営業を開始。これを機会に、宇治山田～賢島間に座席指定の特急バスが運行を開始する。7月には『国際観光ホテル整備法』による登録を受ける。

4月 - - 日	志摩航運株式会社が志摩観光汽船株式会社と社名を変更する。
5月 9日	東宝映画『青い真珠』のロケが5月9日から6月30日まで鳥羽志摩全域で行われる。近畿日本鉄道及び三交志摩交通はロケ地を一周する「青い真珠号」を8月25日から9月14日まで運航。
8月16日	愛知商航株式会社が経営する定期船「坂手 - 鳥羽間」の運航休止に伴い、鳥羽町が運航権等を引き継ぎ継続させる。
10月 - - 日	伊勢志摩国立公園協会が「伊勢志摩ポスター（はまゆう）」2000枚を製作。B3版。デザインは加藤金四郎。
11月30日	伊勢志摩国立公園協会から中村精三著『志摩の地名の話』が刊行される。
<b>昭和27年（1952）</b>	
3月31日	愛知商船株式会社が、鳥羽～桃取航路、鳥羽～本浦航路を伊勢商船株式会社に譲渡する。
4月10日	三重交通が伊勢志摩国立公園定期観光バスの運行を開始する。
4月14日	伊勢志摩国立公園協会主催の「観光懇談会」が鳥羽町で開催される。
5月26日	NHKドラマ『君の名は』取材のため、菊田一夫、古閑祐司、巖金四郎等が鳥羽～波切～和具などを視察。シナリオでは、主人公「春樹」の姉は鳥羽で文具店を営んでいることになっている。
6月 1日	三重交通の鉄道部門、志摩線（鳥羽～賢島間）に急行電車が運行される。
7月 - - 日	中之郷に志摩劇場（鳥羽東映）ができる。
8月25日	伊勢志摩国立公園協会が定期総会を開催し、観光客の増加と観光事業の進展に伴う事業の充実を図るため、理事を10名から16名に、評議員を60名から70名に増員することを決定。
9月 6日	御木本真珠ヶ島にケンブリッジ大学ラグビーチームが来島。21日にはオックスフォード大学ラグビー部チームが、23日には中華特使一行が来島する。
11月 3日	御木本真珠ヶ島にフランス大使夫妻来島。14日にはオランダ大使夫妻が来島する。
- - 月 - - 日	定期船答志、和具の両航路を一つにして答和航運合資会社が経営にあたる。
- - 月 - - 日	鳥羽10景が選定される。「日和山の惜春」「常安寺の晩鐘」「樋ノ山の大観」「金胎寺の村雨」「城山の明月」「加布良古水道のあけぼの」「真珠島の春雨」「主水山の潮音」「志摩松島の夕映」「加茂川の青嵐」。
<b>昭和28（1953）年</b>	
2月24日	御木本真珠ヶ島に皇太子殿下が来島。
2月 - - 日	三島由紀夫が神島町に約1ヶ月滞在し、小説『潮騒』の執筆を行う。
4月 5日	御木本真珠ヶ島にパキスタン大使来島。7日にはブラジル大使が来島。
5月 1日	保勝会が鳥羽天然色版工八ガキ（7枚組）1000組を作成する。
6月 7日	ラッキーセブン釣漁競技会が鳥羽湾を会場に実施される。
7月 - - 日	鳥羽湾納涼船が運航される。
8月 1日	菅島灯台事務所と鳥羽導灯事務所を統合し、鳥羽航路標識事務所が設置される。
8月29日	御木本真珠ヶ島にドイツ大使館員一行が来島する。
9月17日	日本交通公社宮部幸三中部支社長を講師に、サービス講習会が開催される。
9月23日	異常潮位による高潮で、鳥羽町で400戸が浸水する。
9月24日	御木本真珠ヶ島にタイ国内務大臣一行が来島する。
9月25日	台風13号来襲。東海・近畿地方に大被害をもたらす、鳥羽地方に災害救助法が発動される。
9月29日	国有鉄道、東京～鳥羽の直通急行列車「伊勢号」が復活する。 鳥羽発19時50分 東京着6時8分、東京発23時15分 鳥羽着8時57分。
10月 2日	第59回伊勢神宮ご遷宮。ご遷宮総合対策委員会（会長・知事）を県庁内に設置。遷宮記念の観光映画『お伊勢まいり』全2巻を製作。鳥羽町も協賛分担金を支出する。10月5日には外宮の遷宮が執り行われる。 伊勢志摩国立公園切手（第1次）が発行される。デザインは「夫婦岩」「大王崎灯台」「海女と浜木綿」で、5円切手と10円切手は各400万枚。小型シート切手は20万枚を発行。
11月25日	御木本真珠ヶ島で御木本幸吉の銅像除幕式が挙行される。
11月30日	国の離島振興審議会で、答志・桃取・神島・菅島の4か村に離島振興法の適用が承認される。
- - 月 - - 日	漁業振興と漁村青年教育を目的に、財団法人東海水産科学協会が設立される。
<b>昭和29（1954）年</b>	
3月31日	“お伊勢博覧会”が伊勢市と伊勢商工会議所の共催でスタート。会期2ヶ月の入場者は45万人。宿泊者は二見・鳥羽にまで及び、伊勢と志摩は一つという認識が全国に広まった。三重交通の“伊勢志摩周遊バス”が運行される。
4月16日	御木本真珠ヶ島にパキスタン大使来島。27日にはトルコ大使が来島する。
6月 1日	鳥羽町、加茂村、鏡浦村、相差村、菅島村、桃取村、答志村、神島村の1市7町による町村合併促進協議会が設立される。

6月 - -日	ラジオ三重にて「観光鳥羽の夕べ」が放送される。
7月 - -日	三島由紀夫原作『潮騒』(第1作)が東宝映画で製作される。監督：谷口千吉氏、主演：青山京子、久保明。10月27日には鳥羽東映劇場で試写会が開催される。
7月 1日	伊勢志摩国立公園協会直営のキャンプ村を8月30日まで鳥羽市竜宮島に開設。当時、伊勢志摩地域のキャンプ場は三重交通直営の朝熊山キャンプ場のみであったが、これを契機に横山、越賀、安乗、御座、阿児の松原など相次いで開設されることになる。
7月17日	御木本真珠ヶ島にイタリア大使が来島。22日にはタイ在日大使夫妻が来島。
8月 7日	香山滋原作・本田猪四郎監督の東宝映画、第1作『ゴジラ』のロケーションが、海上保安庁第4管区海上保安本部の協力を得て鏡浦村石鏡を中心に始まる。
8月11日	御木本真珠ヶ島に三島由紀夫、黛敏郎が来島する。
9月21日	真珠王御木本幸吉翁が逝去(96才)する。
9月 - -日	“観光の鳥羽”ポスター1000部を作成。 駅前通りに“すずらん灯”が建設される。
10月24日	三重交通(株)の鳥羽線池の浦地内でバスが転落。死者13名、重軽傷者37名を出す。
11月 1日	鳥羽町・加茂村・鏡浦村・長岡村・菅島村・答志村・桃取村・神島村の1町7ヶ村により、市制を施行。鳥羽市が誕生。“海洋観光都市”を目指して都市づくりが始まる。 町村合併により、町営「坂手航路」と村営「神島航路」を保有船舶4隻で市営定期航路として事業を引き継ぐ。

### 昭和30(1955)年

2月16日	御木本真珠ヶ島にブラジル特命全権大使サンパウロ総領事が来島する。
3月25日	名古屋市金山体育館で郷土芸能発表会が開催され、答志町海女10名が鳥羽音頭で参加する。
3月26日	毎日新聞社主催の“東海新市名勝早回り競争”が行われ、中村みのりミス鳥羽が出場する。
4月 7日	桃取町の童子、楠路脇、奈佐のヤマトタチバナが県の天然記念物に指定される。
5月 1日	これまで観光協会会長は、歴代鳥羽町長が兼務をしてきたが、会長は会員から選出するべきものであるとの、中村幸吉市長の政治姿勢もあり、会員からの初代会長に古賀弁吾氏が就任する。
5月15日	合資会社丸幸商店による鳥羽水族館が開館。ペンギン、アシカを始め、マダイ・ブリ・イシダイなど近海魚50種300点を飼育。昭和30年代の鳥羽の新しい観光ルートとして“鳥羽湾巡り～真珠島～水族館”が定着していった。翌31年12月に株式会社鳥羽水族館が設立される。
7月10日	答志島「長者が浜」を鳥羽市観光協会指定の海水浴場にし、“海女のいる海水浴場”をキャッチフレーズに、天王寺鉄道管理局の推薦を受け、特設舞台での歌や漫才、朝日新聞社縁鼓舞ターによる落下傘投下など盛大な浜開が行われた。また、志摩観光汽船、観光鳥羽汽船の両社が毎日3回交互に就航。旅客の輸送にあたった。
8月 6日	鳥羽市、鳥羽観光協会の共催による“鳥羽湾納涼花火大会”を開催。万年豊作、会場安全祈願、磯笛の鳴る海女姿などの仕掛け花火に深夜まで賑わった。
9月11日	御木本真珠ヶ島にポルトガル公使一行が来島する。
10月 9日	御木本真珠ヶ島にネパール王子夫妻が来島。16日にはドイツ大使夫妻及び領事館夫妻が来島。30日にパキスタン大使夫妻が来する来島する。
11月15日	御木本真珠ヶ島に元ポーランド首相が来島する。
11月 - -日	鳥羽の鉄工業組合、商業会、保勝会(後の観光協会)の三団体によって鳥羽商工会が設立される。昭和33年に社団法人に改組される。

### 昭和31(1956)年

1月13日	桃取町に集団赤痢が発生する。3月17日に終息する。
2月10日	米国ニューヨークに御木本真珠ニューヨーク支店が開設される。
2月23日	愛知商船株式会社が愛知観光船株式会社と改称する。
3月 1日	「美しく楽しい歌」をテーマに、鳥羽の風景や風俗史蹟を盛り込んだ「海の都・鳥羽」を象徴する新しい“歌”を全国から募集。応募作品は250点を超えたが、該当作品がなくサトウハチローが作詞、松田トシが作曲した『(新)鳥羽音頭』を8月に日本コロムビアレコードから発売する。
3月 - -日	志摩観光汽船株式会社が観光鳥羽汽船有限会社から事業を譲受する。
4月 9日	鳥羽市観光協会、鳥羽市商工会(鳥羽商工会議所の前身)、みやげもの組合等で「鳥羽みやげものコンクール」を開催。特選「西村一八堂「磯の花」、推薦「パールまんじゅう」「ブローチ真珠貝型」、「鯛みそ」。
5月 - -日	初代民間人会長の古賀氏の就任が2年目に入り、協会の事業運営も自主的・活発化し、今日の観光協会の基礎となる事業活動が始まった。
5月 - -日	全日本観光連盟より石原円吉氏が観光功労者表彰を受賞する。
6月28日	河内町の「庫蔵寺鎮守堂と棟札5点」が国の重要文化財に指定される。
6月 - -日	鳥羽観光協会内にプラスバンドが編成される。メンバーには志摩観光汽船の職員を中心に、市職員

	その他有志により構成。駅前での団体客の歓送迎などに活躍した。
8月9日	金比羅宮鳥羽分社が完成。観光と信仰のメッカとすべく4日間にわたり、奉納獅子、宝探し、花火大会、みこし練り、仮装行列、奉納蹴まり、奉納柔道・剣道試合などの諸行事が繰り広げられた。また、近鉄提供奉納演芸会は境内特設ステージで、花菱アチャコ、笠置シズ子等人気タレントが出演。人気をよんだ。
11月13日	石原円吉伊勢志摩国立公園協会長、田川亮三重県商工水産部長らによる「伊勢志摩はどう発展すべきか」をテーマにした座談会が東海ラジオで放送される。
11月15日	御木本真珠ヶ島に元ポーランド首相ミュライチック夫妻が来島する。
11月30日	答志島のTYK式無線電話が廃止される。
12月--日	新「鳥羽音頭」の普及を図るため、各旅館対抗の“鳥羽音頭踊りコンクール”が「美しま」旅館で開催される。

### 昭和32(1957)年

3月1日	昭和31年の秋に名古屋市観光宣伝隊が鳥羽市を訪れた時の縁もあって、名古屋テレビ塔3階催物会場で“鳥羽パール展”を15日間の日程で開催。真珠工程の図解や統計図表、模造真珠で作ったテレビ塔の模型展示の他、鳥羽の特産品、土産物等の即売会も行われた。
3月3日	伊勢志摩国立公園指定10周年記念事業として“第1回全日本実業団対抗駅伝大会”が、外宮～鳥羽～賢島間・往復83kmのコースで開催される。4時間27分58秒で八幡製鉄が優勝。以後、毎年開催される。
3月13日	答和航運合資会社が経営する定期船「答志-鳥羽間」の運航休止を受けて、航路権等を市に移し市営航路として運航を引き継ぐ。
3月24日	御木本真珠ヶ島にイラン経済大臣一行が来島。28日には山下清画伯が来島する。
5月7日	菅島町の沢田三郎と西村幸三が経営する定期船「菅島-鳥羽間」の運航休止を受けて、航路権等を市に移し市営航路として運航を引き継ぐ。
6月23日	東京都内に4日間の日程で宣伝キャラバン隊を派遣する。
7月8日	東海汽船“橘丸”が鳥羽港に入港する。
7月10日	関西方面に京都1泊、2日間の日程で宣伝キャラバン隊を派遣する。
7月23日	定期航路運航計画特別委員会を設置する。
9月12日	9月21日から運行される「鳥羽～名古屋間・週末快速列車“志摩号”」宣伝のため、伊勢志摩国立公園協会と共催で、名古屋、豊橋、一ノ宮、岐阜、大垣方面に答志町海女10名を加えるキャラバン活動を展開する。
9月21日	鳥羽～名古屋間・週末快速列車“志摩号”の運行開始。毎週土・日曜日に運行。 土曜日・下り名古屋発13:00、鳥羽着15:47。 日曜日・上り鳥羽発15:10、名古屋着18:04。
10月14日	石鏡町の木村春之助、河村喜之助が経営する定期船「石鏡-鳥羽間」の運航休止を受けて、航路権等を鳥羽市に移し市営航路として運航を引き継ぐ。
10月18日	和歌山方面に宣伝キャラバン隊を派遣する。
11月11日	御木本真珠ヶ島にアジア極東経済の一行が来島する。
-月--日	伊勢志摩国立公園協会が昭和26年から製作してきた伊勢志摩観光ポスターを、この年から春秋2回発行。国鉄の全国主要駅、近畿日本鉄道沿線、三重交通沿線など各方面に掲示する。

### 昭和33(1958)年

1月1日	志摩観光汽船が「初日の出」拝観船を就航する。
2月28日	伊勢商船株式会社が経営する定期船「桃取-鳥羽間」及び「本浦-鳥羽間」の運航休止を受け、航路権等を市に移し市営航路として運航を引き継ぐ。
2月--日	鳥羽商工会が社団法人に改組される。
3月13日	御木本真珠島に英国BBCテレビが来島。16日にビルマ使節団、24日にイラン経済大臣、26日にベトナム使節団、27日にレバノン商議所会頭が来島する。
4月19日	御木本真珠ヶ島に前スイス建設大臣プラント氏来島。27日にイタリア大使夫妻が来島する。
5月8日	御木本真珠ヶ島に米国マッカーサー大使夫妻と令嬢が来島する。
5月29日	岡山、姫路、神戸、和歌山方面宣伝キャラバンを2泊3日で実施する。
6月22日	北関東、東北方面に宣伝キャラバン隊を5泊6日の日程で派遣する。
6月26日	御木本真珠ヶ島にビルマ文部大臣が来島する。
8月9日	国鉄鳥羽駅前大鳥居建立献納祭が挙行される。
8月14日	御木本真珠島にトルコ大使アンドレマン氏来島。16日にブラジル大使夫妻、スペイン大使夫妻、が来島する。
9月5日	御木本真珠ヶ島にフランス領事夫妻、ブラジル領事夫妻が来島する。
10月15日	御木本グループによる「御木本幸吉翁生誕百年祭式典」が御木本真珠ヶ島で挙行される。

11月15日	御木本真珠ヶ島にブラジル総領事夫妻が来島。16日にローマ法王庁総長一行が来島する。
12月15日	賀多神社の能面42面、能装束76領が三重県の有形文化財に指定される。

### 昭和34(1959)年

3月15日	イルカ島海洋遊園地が開園する。
6月 - 日	鳥羽商工会と観光協会が共同で『観光地商店街診断』を実施する。
6月18日	御木本真珠ヶ島にフランス文化使節団が来島する。
7月 4日	紀勢本線全線開通(7月15日)のPRを兼ね、大阪アベノ近鉄百貨店で“南近畿観光展”が開催された。観光協会から答志町海女10名や観光船マリナールが参加。民謡踊りや鳥羽湾遊覧ガイドを披露した。
7月25日	東京後楽園球場で第30回都市対抗野球大会が開催され、三重交通野球部が出場。スタンドで鳥羽の海女一行が繰り広げた「鳥羽音頭」の声援はマスコミに大きく取り上げられ、鳥羽の観光宣伝に一役かった。
8月 7日	御木本真珠ヶ島にカナダ大使が来島。
8月20日	伊勢志摩が重要観光地帯に編入されることが決定する。
9月26日	伊勢湾台風襲来。死者1246人、行方不明27人、負傷者4625人など三重県災害史上空前の大被害をもたらした。本市の被害も死者1人、負傷者78人、全壊家屋174戸、半壊家屋558戸、床上・床下浸水986戸におよび、農水産業はもちろん観光地鳥羽も壊滅的な被害を受けた。被害総額は約20億円。当時の市の予算額の10倍に達した。災害救助法発令される。
9月28日	伊勢湾台風災害復旧対策特別委員会が設置される。
10月 6日	伊勢湾台風災害復旧状況を説明するため、鳥羽市観光協会役員代表が大阪市内旅行代理店を訪問。鳥羽への送客を要請した。
12月 1日	岐阜・豊橋方面に宣伝キャラバン隊を派遣する。

### 昭和35(1960)年

3月13日	御木本真珠ヶ島にデンマークのピーター殿下夫妻が来島。28日には国際新聞協会の一行158名が来島する。
3月18日	伊勢志摩国立公園協会等が『伊勢志摩の観光診断』を日本観光協会に依頼。18日から4日間の日程で、鳥羽・二見・伊勢の調査が行われる。ハネムーンの地として南紀白浜、伊勢志摩の周遊コースが脚光を浴びていた時代であるが、全国各地で“観光地”づくりが進められ、観光地間の競争が激化し始めたことを受けて、長期的な観光の指針を得るためのものであった。
4月 6日	御木本真珠ヶ島にフランスマルセイユ市長夫妻が来島する。
5月 1日	御木本真珠ヶ島に5カ国(アルゼンチン、ベルギー、イタリア、レバノン、スペイン)大使夫妻一行が来島。17日には、リーダーズダイジェスト副社長が来島する。
5月13日	伊勢新聞社主催の新観光三重10選にイルカ島が第10位に選ばれる。
5月20日	伊勢志摩国立公園協会と三重県観光連盟の共同制作による観光映画『伊勢志摩への招待』の撮影が開始される。同35年度の観光映画コンクールで最優秀賞を受賞する。
5月24日	南米チリ沖に発生した地震(M8.5)による津波(チリ津波)が、伊勢湾南部から熊野灘の沿岸にかけて襲来。真珠、海苔、カキなどの養殖施設は壊滅的な被害を受けた。また、「坂手-菅島海底電信ケーブル」が切断される。
6月15日	国鉄鳥羽駅前に市営観光案内所を設置する。
6月22日	日東航空による木本～賢島間の航空定期便が就航する。
28日	御木本真珠ヶ島にソ連フェドレンコ大使一行が来島する。
7月10日	第1回養殖真珠発明記念祭が開催される。真珠数当クイズ、ムキ貝抽選、写生大会、発明工展、鼓笛隊パレードなど10日～11日の両日は観光客や市民1万人で賑わう。
7月20日	岩崎通り一帯に水銀灯を建設。点灯式が挙行される。
8月 3日	御木本真珠ヶ島にアメリカABC放送副社長夫妻が来島。11日にパキスタン大使、31日にノルウェー大使が来島する。
8月 5日	全国屈指のヨットレース「第1回・鳥羽パールレース」が開催される。
8月19日	鳥羽市観光協会の理事会が開催され、組織内に「総務部」、「宣伝誘致部」、「受入対策部」の専門部を設置し、誘客宣伝活動の強化を図ることが決議された。
8月26日	鳥羽水族館に半地下式のトンネル型プール「アクアランド」が完成。完成式が行われる。
10月17日	御木本真珠ヶ島に川口松太郎、池島信平、亀井勝一郎、菊田一夫氏が来島する。
11月 1日	観光協会、鳥羽商工会の事務所を岩崎青年会館に移転する。
11月12日	御木本真珠ヶ島にネパール皇帝妃殿下が来島する。
11月15日	豊橋～浜松～静岡(1班)、長野(2班)、広島～倉敷～岡山～姫路(3班)、和歌山～大阪～神戸(4班)に2泊3日の日程で、4班に分けて宣伝キャラバン隊が派遣される。



<b>昭和36(1961)年</b>	
1月20日	加茂干拓事業の潮止工事が完了する。
2月24日	大山康晴王将と二上達也八段の第10期王将戦7番勝負第4局が、2日間に渡って小浜町の旅館・待月楼「きはる」で開催される。
3月1日	京都～鳥羽間を結ぶ「とば号」、紀伊勝浦と結ぶ「志摩号、くまの号」のディーゼル車が運行を開始。春の観光シーズンに向けた明るい話題として報道された。
4月1日	三重急行自動車が宇治山田～鳥羽～賢島間“特急バス”の運行を開始。同年以降、地元のバス利用客や観光客の増加に合わせてバス路線が伸長。バス輸送が伊勢志摩のほぼ全域を包含するまでに発展する。
5月31日	「伊勢志摩国立公園診断」に関する研究会を開催する。
6月3日	御木本真珠ヶ島にネパール皇帝一行が来島する。
7月12日	東京虎の門会館において、都内旅行代理店を招き観光PR・商談会が開催される。
7月14日	御木本真珠ヶ島にオーストラリア大使が来島。15日にラオス大使が来島する。
7月21日	国鉄鳥羽駅開業50周年を祝い、鳥羽駅構内にディーゼル機関車の展示、一等寝台車の一般公開などが行われた。
9月16日	第2室戸台風襲来。志摩地域の被害は35億円に上った。
11月17日	御木本真珠ヶ島に英国アレクサンドラ王女一行が来島。天皇・皇后両閣下ご訪問等の公式行事を終えた後真珠島を来訪。真珠島来訪は王女の特別の希望であったと言われ初めての国賓訪問となった。
12月5日	日和山山頂に「無線電話発祥記念碑」が建立され除幕式が行われる。
<b>昭和37(1962)年</b>	
1月2日	NHK名古屋のテレビ番組『日本の春』で、東京・長崎・神戸などと共に、真珠のふるさと鳥羽が放映される。
3月1日	三重交通の伊勢志摩国立公園周遊定期観光バスBコースが新設され、運行が開始される。
3月8日	ホテル「鳥羽観光センター」が岩崎町に開業する。
3月15日	鳥羽市が「交通安全都市宣言」を決議する。
3月--日	鳥羽温泉組合の設立総会が開催される。
4月1日	御木本真珠ヶ島に木造平屋330平方メートルの「パールミュージアム」が開館する。
4月21日	鳥羽水族館に3階建の新館が完成。事務所、売店、海洋博物館、食堂を一新する。
5月20日	天皇、皇后両閣下が来島。19日に加茂小学校で休憩され、21日に鳥羽から熊野市へ巡幸される。
6月27日	御木本真珠ヶ島に宇宙飛行士グレン中佐夫妻が来島。
7月20日	金刀比羅宮鳥羽分社例大祭が開催される。8月11日までの23日間にわたって、会場パレード、水着コンテスト、海女コンクール等のイベントが繰り広げられる。
8月1日	愛知観光船株式会社(現・名鉄海上観光船株式会社)による“水中翼船”大鵬丸62トンが名古屋～鳥羽間、蒲郡～鳥羽間の就航を開始。また9月22日には志摩観光汽船株式会社(現・志摩勝浦観光船株式会社)の“水中翼船”パールクイン号87トンが名古屋～鳥羽～蒲郡間を就航する。
8月19日	三重県及び鳥羽の地元民が一体となった「近鉄線乗り入れ促進協会」が結成される。
9月29日	御木本真珠ヶ島に米国証券アナリスト一行100名が来島する。
11月5日	年末年始旅客誘致のため、北陸班、北関東班、南関東班、東関東班に分かれ、宣伝キャラバン隊が派遣される。
<b>昭和38(1963)年</b>	
1月--日	加藤金一郎デザインの伊勢志摩ポスター「海女」が、昭和37年度観光ポスターコンクールで最優秀賞を受賞する。
1月5日	鉄筋コンクリートの安楽島橋が完成し、河野一郎建設大臣を迎え渡り初め式が挙行される。それまで「渡し船」を交通手段としていた鳥羽南部地方、特に安楽島地区の観光開発にも大きな影響を与えた。
1月23日	鳥羽商工会議所の設立が認可される。臨時総会が開催され鳥羽商工会を解散し、鳥羽商工会議所を設立する。
1月29日	答志島縦断道路(県道答志桃取線)が五カ年計画で起工する。
3月28日	陸上自衛隊第10師団第10施設大隊によって進められてきた、安楽島～今浦道路の第一期工事(安楽島町から今浦砥谷の浜)幅員6m、延長2043メートルが完成する。
4月6日	御木本真珠ヶ島にオランダの王位継承者ベアトリック女王が来島。同王女は、訪日後、天皇・皇后両閣下との会見等公式訪問を終え来島したもので、アレクサンドラ王女に次ぐ国賓の来訪となった。
7月1日	神島八代神社の「鉄獅噛文金銅象嵌鍔形」が国の有形文化財に指定される。
7月5日	伊勢志摩をテーマに法政大学が観光調査を実施する。
7月29日	伊勢志摩をテーマに学習院大学が観光調査を実施する。

8月 3日	伊勢志摩をテーマに上智大学が観光調査を実施する。
8月10日	答志町に集団赤痢が発生。9月30日に終息する。
8月16日	NHKテレビで『新日本百景・伊勢志摩』が放送される。
8月21日	伊勢志摩をテーマに早稲田大学が観光調査を実施する。
9月16日	愛知観光船株式会社が名鉄海上観光船株式会社と社名を改称する。
9月30日	鳥羽水族館に伊勢湾のスナメリ2頭が入館。鳥羽水族館におけるスナメリ研究が幕を開ける。
10月 9日	名鉄海上観光船株式会社の水中翼船「豊橋～鳥羽航路」が認可され、鳥羽～蒲郡航路を豊橋まで延長する。
12月25日	石鏡簡易水道が完成する。衛生面の改善と共に観光振興にも大きな役割を果たす。

## 昭和39(1964)年

3月 7日	鳥羽主水山に、鳥羽国際ホテルが開業する。
3月15日	第2次伊勢志摩国立公園切手が発行される。デザインは「宇治橋」「三ツ島」で、5円と10円の2種類。発行部数は各1400万枚。
3月25日	鳥羽市が「衛生都市宣言」を決議する。
3月26日	御木本真珠ヶ島にネパール国王女が来島する。
3月28日	アラスカ地震による津波でカキ養殖に被害がでる。
4月 3日	鳥羽温泉協同組合によって開発された「鳥羽温泉」の給湯が始められ、4月14日まで市内で「温泉まつり」が繰り広げられた。湯元は岩倉町地内の井水で、水質検査の結果、単純硫黄泉と判明。温泉協同組合加盟旅館は19軒。温泉街の実現を目指したが、湯量が乏しく数年で廃泉のやむなきに至った。総事業費7000万円。
4月 4日	国連ワインズマン調査団が県下を視察。後に国連調査団報告書(ワインズマンレポート)で、伊勢湾架橋が提案される。 伊勢湾自動車航送船株式会社(伊勢湾フェリー株式会社の前身)が資本金1億円で設立される。8月26日に「鳥羽丸」が、9月21日に「伊良湖丸」が進水する。
4月18日	坂手町に「鳥羽市水産研究所」開設され、クロダイ、アワビ、ワカメ、ノリの人工採苗などの研究が開始される。また、菅島に設置されている名古屋大学臨海実験所や神島、菅島の青年団養殖研究部と連携した水産振興活動が始まる。
4月20日	答志町に鎌田保吉、橋本善七の歌碑が建立される。
4月 - 日	伊勢志摩観光経済調査が実施される。
5月16日	御木本真珠ヶ島にインドネシア・スカルノ大統領夫人一行が来島。25日にイギリス大使、26日にセイロン大使、27日にベルギー・ポルトガル・レバノン大使が来島する。
5月 - 日	勝浦観光汽船株式会社と志摩観光汽船株式会社が合併し志摩勝浦観光船株式会社に商号を変更する
6月19日	昭和37年から着工されていた安楽島～今浦道路の第二期工事(今浦砥谷の浜から今浦区内)が完成し、総延長3785メートルの前線が開通。第1期工事1400万円、第2期工事1200万円。
7月 4日	第2回定例市議会の議案第68号で『鳥羽市税条例の一部改正』が上程され、「入湯税にかかる規程の追加」が可決される。入湯税額は入湯者一人30円、施行は同年8月1日からと定められた。
7月 5日	三重県立博物館・立教大学博物館学講座・鳥羽水族館による“答志町及び大築海島の考古・民俗・地質・生物調査”が開始される。
7月16日	御木本真珠ヶ島にスエーデン大使が来島する。
8月 7日	御木本真珠ヶ島に韓国朴大統領家族が来島。13日にはスウエーデン大使が来島する。
9月 1日	神島町に152キロワットの島内発電所が完成。神島漁業協同組合から中部電力株式会社に運営が移管される。
9月19日	鳥羽電報電話局が自動化される。加茂、坂手両局を合併し、すべてダイヤル通話となる。
9月27日	御木本真珠ヶ島に新築された「パールホール」の記念式典が行われる。
10月 6日	常陸宮、華子同妃殿下が来島。鳥羽国際ホテルに宿泊される。
10月20日	三重県観光開発(株)によって進められてきた“伊勢志摩スカイライン”が完成。標高553m、幅員6.5m、延長16.3kmのバス道路は、伊勢志摩の観光開発に大きな役割を果たした。
10月21日	御木本真珠ヶ島に東京オリンピック聖火採火者アレカ・カツェリ夫人(ギリシャ・俳優)が来島。
11月 7日	伊勢湾自動車航送船株式会社のフェリーポート「鳥羽～伊良湖間航路」が就航する。
- 月 - 日	三島由紀夫の『潮騒』第2作が日活で製作される。森永健次郎監督、吉永小百合、浜田光夫主演。鳥羽市議会にて入湯税の市条例を設置。入湯税を徴収する。

## 昭和40(1965)年

1月24日	渥美半島・志摩半島・西遠地域総合開発促進期成同盟会が豊橋市、鳥羽市など3市3町の官民で組織される。
2月 7日	御木本真珠ヶ島にフランス国会議員一行が来島する。

3月25日	鳥羽と岐阜を結ぶ国鉄急行“いすゞ号”が運行される。両市長のメッセージ交換など観光振興への期待が寄せられた。
4月1日	三重交通志摩電車線が近畿日本鉄道に移管。近鉄志摩線となる。 内田造船株式会社鳥羽ドックが開業する。
4月7日	御木本真珠ヶ島にフランス知事一行が来島。18日にフランス元首相エドガー・フォール氏一行が来島する。
4月--日	国道167号線(鳥羽～伊勢間)に第1回観光植樹として、トベラ・桜・夾竹桃など1743本が植樹される。
5月10日	詩人藤浦洸の仲介によって、伊勢志摩国立公園と西海国立公園の姉妹公園が提携される。佐世保市で挙行された式典に三重県知事を始め51名の使節団が出席する。
7月2日	御木本真珠ヶ島に韓国李観光局長が来島。9日にフランス大使フラニソコ・ミソク氏来島。21日に国際ライオンズクラブ会長キャンベル夫妻が来島する。
7月5日	日本交通公社関東支社を招き、観光PR・商談会が開催された。
7月14日	東京、北陸方面に宣伝キャラバンの派遣が行われる。
7月17日	伊勢湾自動車航走船株式会社による鳥羽湾納涼船が運航される。
9月1日	鳥羽市の住居表示整備事業が開始される。これまでの旧鳥羽町名が鳥羽1丁目等の新表示となる。 伊勢市、鳥羽市、尾鷲市、熊野市、新宮市など県域を超えた市町と、JR、近畿日本鉄道、三重交通、熊野交通による「伊勢熊野観光連絡協議会」が発足。広域連携の誘客宣伝活動が開始される。
10月3日	御木本真珠ヶ島に米国のミュージカルの女王と言われるメリー・マーチン女子及び世界ホテル協会会長が来島する。また、9日に作家大木啓一郎、11日に台湾物産展親善使節団、18日に国際ロータリークラブ会長ペテクンゲル、25日にスイスのシーゲル・ヘグナー社長夫妻、28日にIOCブランデー会長が来島する。
10月7日	伊勢湾自動車航走船株式会社による伊勢湾一周ドライブクーポンが発売される。
11月8日	鳥羽湾口で水中翼船「パールクイン」と「王将」が霧雨のため衝突。乗客8名が負傷する。
11月9日	御木本真珠ヶ島に小林桂樹、加東大介、フランキー堺、森繁久弥、三木のり平の各氏が来島する。
12月1日	お伊勢さん初詣誘致キャラバンを、伊勢・二見・鳥羽の共同で実施する。
12月9日	鳥羽3丁目の鳥羽城跡が三重県の「史跡」に指定される。
12月20日	藤田観光株式会社によるホテル鳥羽小涌園が安楽島町に開業する。

## 昭和41(1966)年

3月10日	2年目の観光植樹実施。国道167号線の路傍(岩倉町～賢島)に夾竹桃1897本が植えられる。 植樹期間は3月31日まで。
3月21日	鳥羽市と米国カリフォルニア州サンターバーバラ市が姉妹都市提携を決議する。
3月25日	鳥羽と岐阜を結ぶ国鉄急行「すずらん号」が走る。
3月--日	志摩劇場(鳥羽東映)が閉鎖される。
4月11日	御木本真珠ヶ島にニュージーランド大使夫妻が来島。21日にアルゼンチン大使夫妻が来島する。
5月1日	スイス・チューリッヒにMIKIMOTO PEARLS LTDを現地法人として開設する。
5月15日	御木本真珠ヶ島にオーストラリア西州首相と駐日大使が来島。16日にミスアメリカ、19日にオーストラリア鉄道管理局長ブラウン氏が来島する。
5月23日	吉田一郎鳥羽市観光協会長と幸治隆三重県観光課長が、「20周年を迎えた伊勢志摩国立公園」と題する記念対談を行いNHKテレビで放送される。
6月10日	中村幸吉鳥羽市長を団長とする観光関係者一行24名が、アメリカ合衆国カリフォルニア州サンターバーバラ市を訪問。同15日に国際姉妹都市提携に調印する。 二見観光汽船が、「二見浦丸」で二見～鳥羽間の不定期航路の営業を開始する。
6月24日	御木本真珠ヶ島にソ連漁業大臣イシコフ夫人が来島する。
7月9日	御木本真珠ヶ島にベトナム大使、ネパール大使が来島する。
9月6日	10カ国151人が参加した「太平洋学術会議」の海中公園特別シンポジウムが鳥羽小涌園で開催される。
9月23日	台風24号による集中豪雨におそわれ鳥羽市の被災者は1275人と大きな被害を受ける。
10月1日	米国サンターバーバラ市ドン・マックスグリブレイ市長一行が姉妹都市鳥羽を来訪。以後、相互に使節団が行き来をすることになる。
10月14日	浦村町本浦の簡易水道が完成。衛生面の改善と共に観光振興にも大きな役割を果たす。
10月16日	御木本真珠ヶ島にソ連ヤスノフ第一副首相が来島。24日にイタリー大使夫妻、29日にナイジェリア大使夫妻が来島。
10月--日	オーストラリア・シドニーにMIKIMOTO PEARLS(AUST) PTA LTDを現地法人として開設する。
11月1日	御木本真珠ヶ島にオーストラリア放送委員会アサー・G・ラウンズ夫妻が来島。
12月21日	鳥羽～坂手島間の海底送水管敷設工事が完成。長年の課題であった飲料水の問題が解決し、衛生面の改善と共に観光振興にも大きな役割を果たすことになる。

昭和42(1967)年	
1月22日	国連ワインズマン調査団が来島する。
2月12日	御木本真珠ヶ島にソ連大使夫妻が来島する。
3月2日	御木本真珠ヶ島にカナダ大使が来島。28日にはイラン水電力大臣ロハニー及び作家三島由紀夫氏が来島する。
3月22日	鳥羽・志摩地域の26漁協で組織する志摩北部漁協同盟会が反対決議をしてきた「伊勢湾口タンカー専用航路の設置」に関し、鳥羽市議会も反対決議を全会一致で採択する。
4月6日	御木本真珠ヶ島にパキスタン大使来島。18日にマレーシア商工大臣夫妻、25日にカンボジア大使、28日にノーベル物理学賞受賞ウエルナー・ハイゼンベルグ博士夫妻が来島する。
5月6日	御木本真珠ヶ島に米国大使ジョンソン夫妻、同英国BBC放送TV映画取材班が来島。7日にはオーストラリア港湾大臣夫妻、12日に世界主要新聞会議一行、14日に作家邸永漢氏、23日にユーゴスラビア大使が来島する。
6月3日	昭和37年頃から原因不明の真珠貝の斃死が目立ち、昭和41年には桃取町、坂手町で斃死率が60%に達した。鳥羽市水産研究所と三重県水産試験場が鳥羽湾での斃死の原因調査を開始する。
6月9日	東海、名古屋、中部日本放送の電波を中継する坂手島鳥羽テレビジョン放送局が完成する。
7月11日	安楽島町に市営海水浴場(砥谷の浜)を設置する。
7月15日	御木本真珠ヶ島にネパール国王ヒレンドラ皇太子来島。
7月22日	伊勢湾口架橋計画について三重・愛知両県で共同調査を実施することが決定。10月20日に愛知県・三重県・伊勢市・鳥羽市で構成する「伊勢湾口道路調査委員会」が設立され、昭和43年7月12日には伊勢湾口大橋の構想が発表される。
8月9日	近畿日本鉄道の志摩線ルートが決定される。伊勢市議会は延長に反対する。
8月10日	二見観光汽船が二見～鳥羽間の定期航路の営業を開始する。
8月22日	東急観光を招き、観光PR・商談会を開催する。
9月25日	京都・関西方面にキャラバン隊が派遣される。
10月5日	御木本真珠ヶ島に米国ロングビーチ市市長夫妻が来島。7日にタイ国内務大臣、22日にサウジアラビア交通大臣が来島する。
10月9日	三重交通の「鳥羽-安楽島間」のバスが運行される。
12月1日	御木本幸吉が鳥羽名誉市民第1号に推挙される。
12月4日	日本交通公社を招き、観光PR・商談会が開催される。
12月6日	伊勢・二見・鳥羽の共同で、お伊勢さん初詣誘致キャラバン隊を名古屋、岐阜、岡崎、静岡方面に派遣する。
12月21日	御木本真珠ヶ島にフランス映画女優のフランソワ・ローゼ女史が来島する。
12月29日	小浜町の浜辺橋が完成。渡り初めが行われ、三重交通バスの「鳥羽-小浜間」が運行される。
12月31日	伊勢志摩スカイライン入り口に歓迎塔を建設する。
昭和43(1968)年	
1月22日	御木本真珠ヶ島にソ連副首相パイバコフ夫妻が来島。27日に韓国政府情報局嚴寅鐘、鑑氏来島。
1月25日	養殖真珠発明75周年を記念して真珠王幸吉の偉業を讃える『ミキモトの歌』が発表される。
2月3日	答志漁港八幡橋の渡り初めが行われる。
2月22日	御木本真珠ヶ島に韓国日報政治部次長・鄭光謀氏等、韓国婦人記者一行が来島する。
2月24日	関東・中国方面に、鳥羽・伊勢・二見の2市1町共同キャラバンを4日間の日程で実施する。
3月6日	鳥羽1丁目の旅館「錦海楼」(木造2階建630㎡)が全焼する。
3月16日	御木本真珠島にドイツ大使夫人、ニュージーランド大使、イタリー大使来島。24日にソ連インテリリスト副総裁ブラジチースキー氏が来島する。
4月11日	御木本真珠ヶ島に米国合衆国知事団一行が来島。15日にはスペイン大使夫妻及びチリ大使夫妻が来島する。
5月8日	御木本真珠ヶ島にハンガリー大使夫妻が来島する。
6月11日	伊勢湾フェリー塩田専務を団長とする一行8名が22日までサンタバーバラ市を訪問する。
6月26日	近畿日本ツーリストを招き、観光PR・商談会が開催される。
7月16日	御木本真珠ヶ島にイギリス大使夫妻が来島する。
8月23日	安楽島地区開発のために8年間運航されてきた「市営小涌園航路」が廃止となる。
8月24日	鳥羽水族館の入館者が1000万人を達成する。
9月1日	鳥羽市連合青年団による第1回青年演劇発表会が鳥羽小学校講堂で開催される。
9月19日	北陸方面宣伝キャラバン隊が派遣される。
10月25日	御木本真珠ヶ島にオーストラリア大使、オーストラリア港湾局長一行が来島する。
11月1日	鳥羽市が「市民憲章」を制定する。 伊良子清白の詩碑が小浜町に建立される。

11月30日	菅島簡易水道が完成。長年の課題であった飲料水の問題が解決し、衛生面の改善と共に観光振興にも大きな役割を果たすことになる。
12月9日	日本交通公社を招き、観光PR・商談会が開催される。
<b>昭和44(1969)年</b>	
2月13日	御木本真珠ヶ島にブータン王国王妃一行が来島する。
3月14日	御木本真珠ヶ島にネパール王女一行が来島。20日に駐日インド大使夫妻、21日にインド総領事夫妻が来島する。
4月26日	御木本真珠ヶ島にイラン外務大臣アルデシル・ザ・ヘディ閣下他各局長が来島する。
4月--日	新全国総合開発計画「主要整備開発事業の構想」に伊勢湾連絡橋の調査が位置づけられる。
5月4日	御木本真珠ヶ島にインドネシア外相視察団一行が来島。18日オーストラリア首相夫人、20日オーストラリア開発局一行が来島する。
5月16日	鳥羽市営定期船の発着場を岩崎から佐田浜に移転する。
5月--日	志摩勝浦観光汽船株式会社の鳥羽湾めぐり乗り場を岩崎から佐田浜に移転。15日には市営定期船の発着場を岩崎から佐田浜に移転する。
5月--日	名鉄海上観光汽船株式会社による、師崎～伊良湖間のカーフェリーが営業を開始する。
6月23日	東京、東北、北関東に宣伝キャラバン隊が派遣される。
7月7日	日本旅行を招き、観光PR・商談会が開催される。
7月11日	カンボジア王国シアヌーク元首第一王女一行が御木本真珠島を訪問する。
7月22日	客船ホーパークラフトが鳥羽～西浦～蒲郡間の運行を開始。志摩勝浦観光船「ひかり」、名鉄海上汽船「白鳥」が就航。60.8kmを50分で運行する。
7月23日	名古屋テレビの人気番組「アフタヌーンショー」(司会・桂小金治)に真珠島の養殖真珠の核入れ、採取作業、真珠の話などが放映される。
9月2日	北陸、北関東方面に4泊5日の宣伝キャラバン隊が派遣される。
9月--日	岩崎町の神鋼電機鳥羽工場が1丁目の新工場団地へ移転する。
11月1日	市の象徴を制定する。(木：やまとたちばな、鳥：かもめ、花：はまなでしこ)
11月21日	“日和山方位石”、“答志岩屋古墳”、“坂手町あやめ池”などが市の文化財に指定される。
12月7日	鳥羽青年会議所の承認伝達式が鳥羽市民体育館で挙行される。
12月9日	日本交通公社関西支社を招き、観光PRと商談会が開催される。
12月26日	三重県、志摩マリンレジャー、伊勢湾フェリー、名鉄海上観光船、鳥羽市開発公社の出資による第3セクター「株式会社鳥羽港湾センター」が設立される。
<b>昭和45(1970)年</b>	
3月1日	近鉄鳥羽線の宇治山田～鳥羽間13.2kmと、志摩線の鳥羽～賢島間25.1kmの営業運転が開始される。この開通によって、名古屋、大阪、京都、奈良から鳥羽・賢島まで、直通特急の運行が実現。すでに数年前から観光開発がすすめられており、賢島カントリークラブ、志摩マリンランド、賢島スポーツランド、合歡の郷、英虞湾巡り遊覧船、キャンプ場、海水浴場、宿泊施設などが次々に誕生した。
3月11日	伊勢湾自動車航送船の新造船「志摩丸」が進水する。4月26日から就航。
3月29日	御木本真珠ヶ島にオーストラリア運輸大臣一行が来島する。
4月1日	東海海運局鳥羽支局が開局する
5月1日	埋め立て工事が進められてきた新鳥羽港の名称募集で「鳥羽港佐田浜」に決定される。 志摩開発有料道路(通称：パールロード)関係地域の計画的な推進を図るとともに、パールロードの建設及び経営に協力することを目的に、財団法人三重県志摩開発公社が設立される。
5月2日	御木本真珠ヶ島に太平洋一周をはたした「チタ三世号」が寄港。8日にノルウエー漁業大臣夫妻、16日に西ドイツのアウスブルグ市長、17日にシンガポール商工会議所会頭一行、24日に西ドイツ国会議員団一行が来島する。
6月21日	御木本真珠ヶ島にヨルダン王国王妃一行及びカナダ上院議長一行が来島する。
7月11日	御木本真珠ヶ島にミキモトパールブリッジが完成。渡り初め式が行われた。橋長62.84m、橋幅3m、満潮面からの高さ6.3m。
7月14日	バス運行事業者を招き、観光PRと商談会が開催された。
7月21日	佐田浜埋立地に建設中の鳥羽港湾センタービル、鳥羽パールビルの開館式が挙行される。例年開催されてきた“みなとまつり”は、佐田浜鳥羽新港の開港を記念し、自衛隊パレード、大名行列、民謡踊り、獅子舞、青年団演劇発表会、花火大会、奉納演芸大会など25日まで5日間に渡って盛大に開催された。
8月6日	姉妹提携を結んだ九州西海国立公園に、水谷市長を団長とする伊勢志摩国立公園親善使節団28名が、佐世保市・平戸市を訪問。現地観光関係者と交流を深めた。

9月 8日	御木本真珠ヶ島にフランス国会議員団一行が来島。29日ソ連邦のピアニスト、スピヤトラフ・リヒテル氏が来島する。
11月23日	御木本真珠ヶ島にインド大使夫妻が来島する。
11月27日	関東、北陸方面に宣伝キャラバン隊が派遣される。
12月 1日	佐田浜市営駐車場が完成し営業を開始。中心市街地の駐車場不足の解消を図る。 鳥羽・伊勢・二見の2市1町による“お伊勢さん初詣宣伝キャラバン”が派遣される。 パールロード第1期工事(鳥羽～磯部町間、全長18.2km)が着工する。
12月25日	相差簡易水道が竣工する。飲料水の問題が解決し、衛生面の改善と共に観光振興にも大きな役割を果たした。

## 昭和46(1971)年

2月25日	御木本真珠ヶ島が「真珠ヶ島」の「ヶ」を抜いて、有限会社御木本真珠島と商号を変更する。
3月28日	菅島町の“しろんごまつり”が市の民俗文化財に指定される。
4月 2日	御木本真珠島に世界卓球選手団53カ国630人が来島。21日にベルギー大統領夫人一行、29日にシドニー市長一行が来島する。
4月 5日	“新鳥羽十景”が選定される。
4月13日	浦村町今浦に上水道が完成。飲料水の衛生面の改善と共に観光振興にも大きな役割を果たす。 三重交通(株)鳥羽バスターミナルが新設される。
4月14日	新鳥羽警察署庁舎が船津町に完成する。
5月12日	御木本真珠島にスエーデン王女クリスティナ内親王殿下が来島する。
6月 2日	伊勢志摩南紀観光協議会の総会が大阪市で開催される。
6月13日	近鉄鳥羽駅前に、三重交通鳥羽バスターミナルが完成する。
6月23日	東京都内旅行代理店等との招待懇談会が旅館「錦海楼」で開催される。
6月27日	御木本幸吉の生涯を歌にした『志摩の海』の発表会が御木本真珠島で開催された。御木本幸吉の銅像の前で、歌手の村田英雄氏が披露する。
7月13日	鳥羽志摩の漁民による「きれいな海をとり戻す」漁船パレードが実施される。
7月17日	三交興業が安楽島町安久志に鳥羽シーサイドホテルを開業する。
9月 6日	佐田浜公園完成。名古屋市の彫刻家徳川泰明作の海女と童子の像が建立される。
9月 7日	天皇、皇后両陛下が渡欧の前に来島。伊勢神宮参拝後、鳥羽国際ホテルに宿泊された。
10月 4日	新鳥羽消防署庁舎が船津町に完成する。
10月14日	御木本真珠島にハワイ州下院議員団一行が来島。16日に南アフリカ総領事大使、23日にポルトガル大使及び米国ロングビーチ市長一行が来島する。
11月15日	4日間の日程で、姫路～岡山～広島(1班)、徳島～松山～高知(2班)、東京～千葉～水戸～宇都宮(3班)に宣伝キャラバン隊が派遣される。
12月 7日	鳥羽1丁目(主水山)に財団法人東海水産科学協会「海の博物館」が開館する。
- - - - 日	三島由紀夫の『潮騒』第3作が東宝で製作される。森谷司郎監督、小野里みどり、朝比奈逸人主演。

## 昭和47(1972)年

1月23日	御木本真珠島にスペインのドン・ファン・カルロス殿下夫妻が来島。26日にソ連外務大臣グロムイコ夫妻一行が来島する。
2月25日	御木本真珠島にオーストラリア国会議員団一行が来島する。
3月 8日	御木本真珠島にマレーシア商工務局長一行が来島。14日にオーストラリア商工会議所一行、30日に中近東バーレン商工局長一行が来島する。
3月14日	国鉄参宮線「紀伊号」が廃止される。午後9時、鳥羽駅発“さよなら列車”が発射。鳥羽市長、観光協会会長ほか地元関係者が花束を贈呈するなどして送迎した。
4月25日	ホテル・ゴルフ場・マリナーなど観光施設の開発と経営を目的に、名古屋鉄道、大成建設、三重ビジターズ推進機構、鳥羽市開発公社、中部電力等の出資による第三セクター「中部伊勢志摩開発株式会社」が設立される。
5月 7日	伊勢湾や熊野灘沿岸で魚類が大量死する。鳥羽では海女作業が中止になる。
5月 9日	インド大使夫妻一行が御木本真珠島を訪問する。
5月10日	不動産の取得、レジャー観光施設及びホテル施設の開発や経営等を目的に、西洋環境開発、西部デパート、三重ビジターズ推進機構、鳥羽市開発公社が出資した第三セクター「株式会社志摩東京カウンティ」が設立される。
5月13日	インド総領事一行、同クエート大使一行が御木本真珠島を訪問する。
5月15日	常陸宮、秩父宮、三笠宮及び同妃等が来島。伊勢神宮参拝の後、国崎町の熨斗あわびづくりを見学。前日は、鳥羽小涌園で宿泊。
7月12日	御木本真珠島にポルトガル大使夫妻一行が来島。16日に駐日米大使夫妻一行が来島する。

8月17日	御木本真珠島にソ連総領事一行が来島。19日にはソ連大使館員一行が来島する。
8月25日	ホテル・ゴルフ場・マリナーなど観光レクリエーション施設の開発と経営を目的に、近畿日本鉄道、三重交通、近鉄興業、三重ビクターズ推進機構、鳥羽市開発公社等の出資による第三セクター「南鳥羽開発株式会社」が設立される。
9月11日	フランス国会議員団が御木本真珠島を訪問。23日にはフランス上院議員団一行が訪問する。
9月30日	鳥羽～答志島海底送水管の敷設工事が竣工する。長年の課題であった飲料水の問題が解決し、衛生面の改善と共に観光振興にも大きな役割を果たすことになる。
11月3日	答志文化保存会の発起によって、答志島八幡神社の入り口に“柿本人麿の歌碑”が建立される。
11月21日	御木本真珠島にソ連知事団一行が来島。26日にアルゼンチン大使一行、29日にアフガニスタン王国ビルキス内親王夫妻が来島する。
12月20日	パールロード第2期工事（磯部町三ヶ所～阿児町鶴方間5.5km）が着工される。
- 月 - 日	映画館「朝日座」が閉鎖される。

## 昭和48（1973）年

3月31日	パールロード第1期工事区間（鳥羽～磯部町間、全長18.2km）が完成。翌日のオープンに先立ち“麻生の浦大橋”の渡り初め式が行われた。麻生の浦大橋は、ニールセン型ローゼ桁橋で主径間196.55m、則径間275m。麻生の浦湾に浮かぶカキ養殖筏と白い橋の美しいコントラストが新しい観光資源として話題を呼んだ。この道路の開通によって、陸の孤島と呼ばれていた浦村町、石鏡町、国崎町、相差町など、南鳥羽地域の観光開発計画が脚光を浴びるようになる。
3月 - 日	志摩勝浦観光船株式会社が勝浦地区を分離し、近鉄志摩観光汽船株式会社に商号を変更する。
3月 - 日	近鉄鳥羽駅前～中之郷間バイパス工事が完成する。
4月1日	パールロードの第1期工事シーサイドライン（鳥羽市浦村町今浦～磯部町三ヶ所・延長18.3km）が供用を開始。開通式及び、箱田山のレストハウス「鳥羽展望台」の開館式が挙行される。
4月11日	パールロード開通に伴い、三重交通株式会社がバス運行を開始する。
4月15日	駐米バンコク大使一行が御木本真珠島を訪問。22日に駐日オランダ大使夫妻及び駐日エジプト大使夫妻一行が訪問する。
5月17日	伊勢湾自動車航送船株式会社の新造船「渥美丸」が進水する。
6月1日	伊勢湾自動車航送船株式会社が「伊勢湾フェリー株式会社」と改称される。 韓国の李鎮海市長が来訪する。
6月4日	本浦～今浦航路の廃止届けが東海海運局に提出される。
7月7日	菅島灯台100周年記念式典が挙行された。菅島灯台は明治6年に建てられた円形煉瓦造りの様式灯台で、建設当時のまま現存する灯台としては我が国最古のものである。
7月19日	クエート国会議員団一行が御木本真珠島を訪問。8月10日には駐日クエート大使夫妻一行が訪問。
8月2日	皇太子殿下同妃殿下が来島。御木本真珠島を訪問される。
9月17日	初めての東北地方宣伝キャラバンを実施。海女4名を同行し、5日間の日程で仙台、盛岡、八戸、青森、秋田を巡回訪問する。
9月28日	ぶらじる丸誘致特別委員会が設置される。
9月 - 日	ぶらじる丸、佐田浜港付近係留反対の請願が提出される。
10月2日	第6回伊勢神宮ご遷宮（内宮）。10月5日には外宮の遷宮が執り行われる。
10月9日	『鳥羽市民の環境と自然を守る条例』が制定される。
11月15日	トンガ王国タウファアハウ・ツホー4世国王、同王妃が御木本真珠島に来島。18日にはチェコスロバキア外務大臣・駐日大使が来島する。
11月16日	鳥羽市と鳥羽市観光協会とで、国道167号線（鳥羽1丁目鳥羽駅付近）に高さ13m、鉄骨製の歓迎塔を建設する。

## 昭和49（1974）年

1月6日	国鉄鳥羽駅付近から出火。駅舎1600平方メートルを全焼。付近の日和山エレベーター、森井商店ほか一部を類焼。日和山エレベーターはこの日の類焼によって休業となり、その後再開されることはなく昭和57年に撤去された。
1月23日	海洋思想の普及涵養や観覧施設・展望施設の経営等を目的に、大阪商船三井船舶、商船三井客船、近畿日本鉄道、鳥羽市開発公社等が出資して第三セクター「鳥羽ブラジル丸観光株式会社」が設立される。
2月7日	中原誠王将と米長邦雄八段の第23期王将戦7番勝負第3局が、2日間にわたって戸田家別館で開催される。
2月21日	フランソワ・グザヴィエ・オルトリ欧州共同体委員長一行が御木本真珠島を訪問する。
5月5日	安楽島町安久志に“植物児童公園”が開園する。
5月20日	国道167号線とバイパスをつなぐ安楽島大橋の完成を祝う“渡り初め式”が挙行された。橋の完成で、利便性が高まり、安楽島地区、南鳥羽地区への観光開発に大きな役割を果たすことになった。

5月28日	フランス政府派遣大使アンドレ・マルロー夫妻が御木本真珠島を訪問する。
6月12日	タンザニア国農林水産大臣一行が御木本真珠島を訪問する。
7月5日	鳥羽港佐田浜に南米への移民船だった大阪商船三井船舶所有の豪華客船を改修した、海洋博物館“鳥羽ブラジル丸”がオープンする。
8月7日	中国大使館リー主席参事官が御木本真珠島を訪問する。
10月1日	オーストラリアのニューサウスウェールズ州政府副首相チャールズ・カトラー卿、同州ルーラル銀行オリバー会長一行が御木本真珠島を訪問する。
11月1日	伊勢湾フェリーの鳥羽基地が完成し新基地に移転。同時に開業10周年記念式典が挙行された。姉妹都市サンタバーバラ市のディビッド・シッフマン市長が来島する。
11月4日	御木本真珠島が開島23年8ヶ月で来島2000万人を記録する。

## 昭和50(1975)年

1月26日	鳥羽水族館に貝類の殿堂「寺町コレクションホール」が完成。3800種を公開する。
2月3日	駐日カナダ大使ヒスキャンベル夫妻、同大使館スミス参事官一行が御木本真珠島を訪問する。
2月9日	ソビエト貴金属公団クルーチコ・フェデルキリリョフ副総裁、ソビエト外国貿易局クズネットオフ局長が御木本真珠島を訪問する。
2月16日	デンマーク文部大臣、駐日ベルギー大使館参事官一行が御木本真珠島を訪問する。
2月27日	中原誠王将と米長邦雄八段の第24期王将戦7番勝負の第5局が、2日間に渡って戸田家別館で開催される。
3月21日	オーストラリア総領事パーソンズ夫妻が御木本真珠島を訪問する。
3月--日	鳥羽イルカ島にトンネルが開通。新たな海水浴場として脚光を浴びる。
4月9日	オーストラリアのニューサウスウェールズ州政府公共事業大臣夫妻が御木本真珠島を訪問する。
5月11日	英国女王エリザベス二世陛下、エディンバラ公フィリップ殿下ご夫妻が来島する。御木本真珠島を訪問され鳥羽国際ホテルで宿泊。昭和46年に訪英された天皇・皇后両陛下への答礼として5泊6日の日程で訪日。東京から京都を経て鳥羽に着かれ、翌12日は羽田空港から帰国された。
7月13日	御木本幸吉の妻、うめ夫人の胸像除幕式が御木本真珠館で行われる。胸像は高さ68cm、台座とも179cm。制作者は船越保武氏。作家・有吉佐和子氏も列席する。
9月14日	米国ロスアンゼルス市会議員一行が御木本真珠島を訪問する。
10月10日	伊勢志摩スカイラインの通行車両が250万台を記録する。
10月14日	昭和49年1月6日の火災によって全焼した国鉄新鳥羽駅舎が完成し営業を開始する。
10月26日	第30回国民体育大会「みえ国体」が伊勢市を主会場に6日間にわたって開催される。開会式を終えられた天皇・皇后両閣下が鳥羽水族館を訪問。県下13市5町3村の63会場で28競技が開催され、全国から17,359人の若人が参加。鳥羽市内での延べ宿泊選手数は関係者を含め8,624人で、この宿泊者受け入れには鳥羽旅館組合の献身的な働きがあった。
11月1日	鳥羽カントリークラブがオープンする。
11月8日	第11回全国身体障害者スポーツ大会車椅子バスケットボールが鳥羽体育館で開催され、皇太子殿下、同妃殿下が臨席。殿下は戸田家別館に2泊された。
12月8日	4日間の日程で大宮～川越～熊谷～前橋～高崎～浦和(1班)長野～松本～諏訪～富士～静岡(2班)に宣伝キャラバン隊が派遣される。
12月19日	近鉄鳥羽線・志摩線の複線化及び改良工事が完成。五十鈴川駅で完成式が行われ、21日から運航が開始される。輸送量の増加、輸送時間の大幅な短縮が図られた。
12月25日	答志町観光宣伝隊が、海女7名を同行し名古屋市内でワカメなどの特産品を配るなど誘客宣伝活動を実施した。
--月--日	三島由紀夫の『潮騒』第4作が東宝・ホリ企画で製作される。西河克己監督、山口百恵、三浦友和主演。 ドイツ・フランクフルトに現地法人ミキモト・アメリカが設立される。

## 昭和51(1976)年

3月31日	菅島～鳥羽間の海底送水管敷設工事が完成。衛生・観光両面の長年の課題が解消する。
4月28日	駐日スエーデン大使が御木本真珠島を訪問する。
5月3日	ロスアンゼルス商工会議所一行が御木本真珠島を訪問する。
5月10日	第2回臨時市議会の議案第42号で『鳥羽市税条例の一部改正』が上程され、「入湯税にかかる規程の削除」が可決される。
5月22日	第1回「レディスパック」打合せが開催される。シーズンオフの誘客対策として新企画・「レディスパック」商品を作成。 商品名称：「鳥羽レディスパック」 期間：9月1日～20日、12月1日～28日(但し、土曜日・祝日前日を除く) 対象：3名以上の女性グループ。



	特典：一泊二食3400円、観光施設入館料の2割引、土産物・飲み物一割引。
7月 1日	パールロード第2期工事奥志摩ライン(磯部町三ヶ所～阿児町鶴方間5.5km)の供用を開始する。
7月 2日	日本作家クラブ(会長・山手樹一郎)のメンバー33名を招待。理事長陣出達郎氏、日本画家今村恒美、推理作家城昌幸氏など“歴史散策”と名付け、市内遊覧や意見交流が行われた。
8月 3日	観光地美化キャンペーンを鳥羽駅前で行う。観光客に団扇、ワッペンなどを配付する。
8月25日	5名編成で、千葉～船橋～大宮～浦和～前橋～高崎(関東班) 水戸～宇都宮～郡山～福岡～仙台(東北班) 神戸～尼崎～加古川～明石～姫路(関西班)にキャラバン宣伝隊が派遣される。
10月 1日	名古屋～鳥羽間(名鉄海上汽船) 鳥羽～西浦～蒲郡間(近鉄志摩観光汽船)の水中翼船の運航が中止される。
10月 2日	フランス上院議員団が御木本真珠島を訪問する。
10月11日	伊勢湾フェリーの航路、鳥羽～師崎航路(海上約30km、90分)が営業を開始する。
10月21日	伊勢志摩スカイラインの通行車両が300万台を記録する。
11月13日	スリランカのバンダラナイケ首相が御木本真珠島を訪問する。
11月15日	九鬼水軍資料館「鳥羽海賊資料館」が1丁目に開設される。
11月20日	鳥羽市、伊勢市、二見町3地区の観光協会会長会議及び伊勢神宮大宮司との懇談会が開催される。
11月23日	ベルギーの総領事度ルー氏が御木本真珠島を訪問する。
12月 1日	新企画「鳥羽レディスパック」の冬の商品を実施。12月28日まで28日間。宣伝媒体に、婦人雑誌とタイアップするなど連日マスコミに取り上げられ、鳥羽のPR効果は大きかったが、平日に限定したこともあり9月・12月の合計実績数は104組633人であった。
12月 8日	鳥羽市観光協会による年末年始旅客受入れ対策会議が開催される。
- -月 - -日	鳥羽市議会で入湯税の条例を廃止する。

## 昭和52(1977)年

1月19日	近鉄関係者との旅客誘致招待懇談会が開催される。						
1月21日	国鉄天王寺鉄道管理局関係者との旅客誘致招待懇談会が開催される。						
2月 8日	伊勢志摩国立公園区域の拡張と再編成が行われる。伊勢市中心部の2,135haを削除し、南島町海岸部3,323haと地先海面19,100haを新たに追加する。						
2月19日	神島漁業協同組合が合成洗剤追放を決議する。海洋汚染の学習会と自然保護の活動が活発に繰り広げられる。						
2月26日	春に実施される国鉄重点宣伝地域指定に伴う観光懇談会を市民文化会館で開催する。						
3月10日	旅行評論家久保田弘子氏を招き、観光講演会が市民文化会館で開催される。						
3月18日	鳥羽観光会館ビル株式会社「鳥羽一番街」オープンする。						
3月28日	三重県無形民俗文化財に神島の“ゲーターまつり”が指定される。						
4月 6日	モーリタニア漁業大臣アブダラヒ・イスマエル氏一行が御木本真珠島を訪問する。						
4月20日	「観光地鳥羽の海を美しく」をモットーに、市・商工会議所・観光協会を中心に「鳥羽清港会」が設立される。						
5月11日	国鉄の重点宣伝事業の一つ『旅の手帖』掲載記事の取材が行われる。						
5月20日	鳥羽水族館にフィリピンから雌のジュゴンが入館する。困難な飼育へのチャレンジが開始される。						
5月25日	米国知事団一行が御木本真珠島を訪問する。						
5月27日	九鬼水軍という郷土の歴史を題材に、現代風のリズムとして創作した「鳥羽九鬼水軍太鼓」の命名発表会が開催される。						
5月28日	三笠宮寛仁殿下が御木本真珠島を訪問する。						
5月29日	ソ連のパトリシェフ貿易大臣、駐日ソ連大使一行が御木本真珠島を訪問する。						
6月 5日	海の自然教室「写生大会」がイルカ島海洋遊園地において開催される。						
6月16日	鳥羽市観光協会企画宣伝部会が開催され、シーズンオフ対策委員会(委員15名)が発足する。						
6月19日	鳥羽市民文化会館の1階に休日応急診療所が開設される。						
6月27日	4名編成で、大宮～熊谷～浦和～前橋～高崎～宇都宮(北関東班) 長野～松本～新潟(甲信越班)に宣伝キャラバン隊が派遣される。						
7月26日	第19回自然公園大会が大王町登茂山で開催される。						
7月27日	常陸宮妃殿下、駐日メキシコ大使が御木本真珠島を訪問する。						
8月18日	国鉄重点宣伝指定地域事業として、7連ポスター約3000枚が全国国鉄主要駅に掲出される。また、昨年のレディスパックにあわせ、老人グループを対象とした“鳥羽敬老パック”を実施することになり、その対策委員会を観光協会内に設置。期間は9月20日から年末年始を除く翌年の3月20日まで。チラシ20万枚、ポスター1000枚を作成。この年の宣伝費の大半を投入し、シーズンオフの誘客宣伝事業を展開した。なお、レディスパックは昨年の反省に基づき、土・祝日の前日も対象とし、料金設定は下記の通りとなった。						
	<table border="0"> <tr> <td>旅 館 区 分</td> <td>平日・日曜日</td> <td>土・祝日前日</td> </tr> <tr> <td>国際観光旅館連盟旅館</td> <td>5,000</td> <td>7,000</td> </tr> </table>	旅 館 区 分	平日・日曜日	土・祝日前日	国際観光旅館連盟旅館	5,000	7,000
旅 館 区 分	平日・日曜日	土・祝日前日					
国際観光旅館連盟旅館	5,000	7,000					

	日本観光旅館連盟旅館	4,000	6,000
	民宿・旅館	3,000	3,000
9月11日	米国ロスアンゼルス市長トム・ブラットレー氏が御木本真珠島を訪問する。		
9月27日	サウジアラビアのナウワーク殿下が御木本真珠島を訪問する。		
9月 - -日	名鉄海上観光汽船(株)が運行する蒲郡～鳥羽間ホーバークラフトが一時休止となる。		
10月12日	フランスのナポレオン太妃が御木本真珠島を訪問する。		
11月13日	ドイツ民主共和国の首脳ギュンター・ミッターク氏一行が御木本真珠島を訪問する。		
11月15日	「国際観光文化都市の整備のための財政上の措置等に関する法律施行令(昭和52年政令第308号)」に基づき、日光市、長崎市と共に鳥羽市が「国際観光文化都市」の指定を受ける。		
11月17日	レディス、敬老パック実務担当者(フロントマン)を対象にした取り扱い説明会が開催される。		
12月7日	伊勢志摩観光会議主催の観光懇談会及び宣伝キャラバンが3日間にわたって東京都内で開催される		
12月14日	パックミニキャラバンが2日間にわたって大阪、名古屋で実施される。		
12月16日	名古屋鉄道及び関連グループ会社との誘致招待懇談会を開催。名鉄側41名、地元側42名が参加。		

### 昭和53(1978)年

1月21日	豪州連邦議員団、エジプトアラブ共和国大使館参事一行が御木本真珠島を訪問する。		
1月24日	第2回パックミニキャラバンが2日間の日程で、大阪～京都～奈良～名古屋～岐阜～岡崎～豊橋及び県内で実施される。		
2月22日	伊勢熊野観光展が大阪市難波町「虹のまち」で1週間にわたって開催される。		
3月4日	メキシコの水産大臣ラファエル夫妻、メキシコ大使一行が御木本真珠島を訪問する。		
3月6日	鳥羽市、鳥羽商工会議所、鳥羽市観光協会の代表が、国鉄本社、運輸省等を訪問し、「緑の窓口」設置の陳情活動を実施する。		
3月20日	レディスパック、敬老パックが終了する。11月～3月までの実績は、レディスパックは126件542人、敬老パックは276件9614人となった。		
4月23日	フランス大使一行が御木本真珠島を訪問する。		
4月29日	ミキモト真珠発明85周年を記念して“ミキモトパールクラウン”を制作。ミキモトパール872個、ダイヤモンド188個を使用。4月29日～5月10日まで「真珠と王冠フェア」を開催する。		
5月1日	米国・ニューヨークに現地法人ミキモト・アメリカが設立される。		
7月10日	御木本幸吉夫妻を描いた絵画「待望のとき」が完成。幸吉記念館で一般公開。制作・伊藤正義画伯。		
8月1日	英国総領事夫妻一行が御木本真珠島を訪問する。		
10月1日	神島町に歌人佐藤佐太郎の歌碑が建立され除幕式が挙行される。		
10月8日	ブラジルサンパウロ州農務長官ノウヒジオメイニ氏一行が御木本真珠島を訪問する。		
11月2日	鳥羽市観光協会50周年記念式典を三重県副知事等を招き鳥羽市民文化会館で盛大に挙行。第2部では、立教大学岡本伸之教授の「観光の動向と観光事業のあり方について」と題した記念講演のあと、「1980年代の鳥羽の観光はどうあるべきか」をテーマに、岡本教授、三重県民局長、天王寺鉄道管理局旅客課長、近畿日本鉄道企画室部長、名古屋鉄道営業本部鉄道部長によるパネルディスカッションが開催される。		
11月3日	メキシコ大統領夫人カルメン・ロマーノ氏一行が御木本真珠島を訪問する。		
11月8日	美智子妃殿下、紀子様母子が御木本真珠島を訪問する。		
11月30日	イタリアの外務大臣一行が御木本真珠島を訪問する。		
12月3日	チェコスロバキア連邦会議議長アロイス・インドラ氏一行が御木本真珠島を訪問する。		

### 昭和54(1979)年

3月20日	三重交通から「美しく伊勢志摩キャンペーン」記念乗車券が発売される。		
3月23日	常安寺の稲垣家歴代の墓碑及び霊廟が鳥羽市の文化財に指定される。		
6月7日	伊勢湾架橋促進期成同盟会が結成される(愛知、三重両県内の8市19町村及び経済関係団体で構成)。9月には、伊勢湾口道路調査委員会を伊勢湾口道路建設促進協議会に改組する。		
8月11日	鳥羽～神島海底送水管の敷設工事が竣工する。衛生・観光両面の長年の課題が解消する。		
9月2日	名鉄海上観光船のホバークラフト「エンゼル」による蒲郡～鳥羽間の運行が廃止される。		
11月10日	九鬼水軍太鼓保存会の設立式典が鳥羽市民文化会館で行われる。		

### 昭和55(1980)年

4月1日	鳥羽水族館にジュゴンプール、海洋プール、アザラシプール、海ガメプール、研究室など最新設備を備えたマーメイドプール(990㎡)が完成。待望のジュゴン雌雄の同居飼育が実現する。		
4月17日	動物園、遊園地などの観光レクリエーション施設の開発と運営を目的に、鳥羽市開発公社、三重ビクターズ推進機構、近畿日本鉄道、三重交通等の出資による第3セクター「株式会社鳥羽自然動物遊園」が設立される。		

11月11日	御木本真珠島が有限会社から株式会社に組織を変更する。
<b>昭和56(1981)年</b>	
1月22日	大山康晴王将と米長邦雄八段の第30期王将戦7番勝負の第2局が、2日間に渡って戸田家別館で開催される。
2月18日	伊勢湾フェリー株式会社の新造船「伊良湖丸」が進水する。7月4日から就航。
4月22日	答志島旅館組合による“たい網観光”が初操業される。
5月17日	日ソ学術交流の一環として、モスクワ動物園からバイカルアザラシが鳥羽水族館に入館する。
6月29日	大明東町に市民の森が完成する。
7月11日	イルカ島にフリッパープールが開園する。
- -月 - -日	伊勢志摩地域を訪れる観光客への不当行為を防止し、快適な観光地をつくることを目的に、2市8町による不当行為防止対策協議会が組織される。
<b>昭和57(1982)年</b>	
7月 - -日	株式会社志摩東京カウンティにより「白浜海水浴場」が開設される。
9月30日	昭和49年の類焼によって営業を休止していた日和山エレベーターが撤去される。
10月11日	御木本真珠島の来島者が3000万人を達成する。
10月15日	鳥羽1丁目の「SF未来館」営業禁止本訴訟を津地方裁判所伊勢支部へ提出。同61年7月14日に和解となる。
11月22日	伊勢湾フェリー株式会社による車両輸送台数が250万台を突破する。
12月 1日	伊勢志摩スカイラインにおいて“第1回伊勢志摩中日ジョギング大会”が開催される。
<b>昭和58(1983)年</b>	
3月15日	三重交通の伊勢志摩定期観光バスに「海の幸ロマンの味覚」、「パールロードと潮騒の味覚」の2コースが新設される。
4月19日	航空自衛隊機が菅島町大山に激突。死者14名。島内消防団を始め救助・探索活動が行われる。
6月 6日	伊勢神島八代神社の祭祀遺物が国の有形文化財・考古資料に指定される。
10月 3日	鳥羽水族館にアラスカから野生のラッコ4頭が入館。新設されたオーシャンホールで10月16日から公開される。
10月 - -日	鳥羽市観光協会、旅館組合がテレフォン案内を開始する。
11月24日	伊勢湾フェリー株式会社の新造船「伊勢丸」が進水する。翌年3月20日に就航。
<b>昭和59(1984)年</b>	
2月23日	日本で初めてラッコの赤ちゃんが誕生する。「チャチャ」と命名されて3月17日から母親と共に公開。全国の人気者となる。
3月30日	鳥羽1丁目に「観光歓迎塔」が設置される。鉄骨造、高さ14メートル。
5月 - -日	御木本隆三が生涯をかけて収集したラスキンに関する書籍や各種の文献・絵画等を保存・活用し、ラスキン思想を普及することを目的に、財団法人「ラスキン文庫」が東京筑地に開設される。
8月 - -日	8月から12月にかけて異常湧水となり、計4回延べ75日間に及ぶ給水制限を実施。観光産業にも大きな打撃を与えた。
10月27日	鳥羽水族館の有料入館者が2000万人を突破する。
<b>昭和60(1985)年</b>	
2月19日	答志町の「寝屋子制度」を鳥羽市文化財に指定する。
2月24日	鳥羽水族館のラッコ「チャチャ」の満1歳を記念してキング・レコード松下丸子さんの「ラッコは海の子」の新曲発表会が開かれる。
4月19日	海の博物館が収蔵する「伊勢湾・志摩半島・熊野灘の漁労用具」6879点が、国の重要有形民俗文化財に指定される。
9月 1日	御木本真珠島に「真珠博物館」(延べ床面積2493㎡)が開館する。
10月26日	第39回全国レクリエーション大会が3日間の日程で開催される。本市ではインディアカ、ゲートボールの2種目が行われた。
- -月 - -日	三島由紀夫の『潮騒』第5作がホリ企画で製作される。小谷承靖監督、堀ちえみ、鶴見辰吾主演。工業所有権制度100周年を記念して実施された“日本の偉大な発明者・10傑”に御木本幸吉が選ばれ、特許庁2階ロビーにレリーフが掲示される。
<b>昭和61(1986)年</b>	
3月 - -日	答志町の八幡橋が完成する。

4月27日	市街地の駐車場不足を補うことを目的に建設が進められていた、鳥羽市開発公社の佐田浜第三駐車場がオープンする。
6月20日	鳥羽市が「非核平和都市宣言」を決議する。
11月12日	フランス・パリに現地法人ミキモト・フランスが設立される。
<b>昭和62(1987)年</b>	
1月27日	鳥羽水族館のスナメリが長期飼育世界記録(4871日)を達成する。
	近鉄鳥羽駅前に「総合観光案内板」が設置される。
4月15日	フィリピン・アキノ大統領から日・比友好の印として贈られた雌のジュゴン「セレナ」が来日する。
5月31日	浩宮さまが国崎町の御料鮎調整所を訪れる。
5月 - -日	ホテルエクスピア鳥羽の敷地内に贅遺跡公園がオープンする。
7月 1日	南勢水道の一部通水が始まる。日量7690立方メートルを受水。異常渇水期と夏の観光シーズンの深刻な水不足が解消される。
12月20日	鳥羽青年会議所による『鳥羽21世紀ビジョン「夢ランド」構想』がまとめられる。
12月22日	世界祝祭博覧会推進特別委員会が設置される。
12月28日	志摩加茂五郷の盆祭行事が国の無形民俗文化財に指定される。
<b>昭和63(1988)年</b>	
1月28日	中村修王将と南芳一棋聖の第37期王将戦7番勝負第2局が、2日間に渡って戸田家別館で開催される。
4月28日	小浜半島の開発を目的とした「鳥羽小浜プロジェクト研究会」が設置される。
6月 - -日	建設促進運動の強化を図るため、伊勢湾口道路建設促進協議会と伊勢湾架橋促進期成同盟会を統合し、伊勢湾口道路建設促進期成同盟会を設立する(愛知県、三重県及び愛知・三重両県内の8市19町村、8経済団体に発足)。
7月 9日	『三重サンベルトゾーン構想』が全国のトップを切って、総合保養地域整備法(リゾート法)に基づく基本構想の第1号として承認される。伊勢志摩を含め、過疎化の進む三重県南部の活性化策の切り札として大きな期待がされた。
7月21日	世界的なトランペッターである日野皓正氏、ジャズボーカリストの中本マリ氏等を招いて、第1回パールアイランド・ジャズフェスティバルが御木本真珠島を会場に開催される
<b>昭和64・平成元年(1989)年</b>	
1月30日	南芳一王将と島朗竜王の第38期王将戦7番勝負第2局が、2日間に渡って鳥羽シーサイドホテルで開催される。
4月26日	通産省の「ふるさと産業50選」に御木本真珠島が選定される。
5月12日	鳥羽市観光協会青年部会設立総会が開催される。
6月 7日	鳥羽商工会議所青年部設立総会が開催される。
7月21日	サンタバーバラ市の観光使節団シーラロッジ市長一行が来鳥する。
9月11日	建設省(中部地方建設局名四国道工事事務所)による伊勢湾口道路の気象観測調査を開始する式典が神島町で開催される。
11月 - -日	マイタウン岩崎商店街による『鳥羽市・マイタウン岩崎商店街～まちづくり計画策定事業報告書』が作成される。 三瀬谷ダム、宮川ダムの放流による海況変化が問題視される。ダム放流時には鳥羽市及び市内漁協関係者に放水連絡をするよう三重県に対し陳情が行われる。
12月 - -日	鳥羽市内の宿泊施設事業者から、温泉掘削申請が三重県に提出される。以後、平成14～15年にかけて、小浜、鳥羽、安楽島、答志、浦村、相差など市内の各地域から温泉掘削申請が提出される。
- -月 - -日	観光業と地域の活性化を目的に、“第1回・相差天王くじら祭”が開催される。 神島が「日本の秘境100選」に選定される。雑誌『旅』9月号の創刊750号を記念してJTBがシンポジウムを開催。岡田喜秋、C・W・ニコル、立松和平、辺見じゅん、椎名誠の各氏によって「いま日本の秘境100選」が選定された。
<b>平成2(1990)年</b>	
5月15日	芸術文化作品の展示施設、ホテル・スポーツ施設、温泉保養施設、マリーナ等の開発と経営を目的に、鳥羽市、清水建設、大林組、近畿日本鉄道、日本郵船などが出資した第3セクター「鳥羽小浜開発株式会社」が設立される。
7月 2日	新鳥羽水族館の第1期部分が竣工。同月17日にオープンセレモニーが行われ、翌15日からオープン。新水族館は延べ面積1万7700㎡、飼育動物は約600種、7万匹にのぼり日本最大級の水族館となった。

7月26日	7月3日のダム放水により、汚濁水と大量のゴミ・枯れ木が桃取漁港内や海岸に漂着。ダム放水に係る対策協議会を開催する。
9月15日	鳥羽水族館のジュゴン「じゅんいち」が長期飼育の世界記録を更新（10年10ヶ月をクリア）。
10月15日	新鳥羽水族館の入館者が早くも100万人を突破する。
11月 - - 日	ふるさと創成を活用した文学賞である“第1回マリン文学フェスティバル”が開催される。
12月14日	鳥羽水族館が開館35年で入館者3000万人を突破する。
- - 月 - - 日	市内の交通停滞を緩和するために、大明東町に臨時駐車場を設置。ミキモト真珠島付近まで遊覧船で送迎する“シャトルボート”の運行を開始する。
<b>平成3（1991）年</b>	
1月28日	米長邦雄王将と南芳一棋王の第40期王将戦7番勝負第2局が、2日間に渡って鳥羽シーサイドホテルで開催される。
3月20日	鳥羽1丁目に「鳥羽駅ミニパーク」が整備される。平成2年に完成した公衆トイレ、ライオンズクラブ第36回年次大会記念事業として寄贈された太陽電池時計台に続いて、水飲み場、東屋、ベンチ、などが設置された。
11月29日	三重県知事公室から宮川ダムの放水と海況変化や漂着ゴミとの因果関係は無いとの回答が出される
<b>平成4（1992）年</b>	
1月27日	南芳一王将と谷川浩司竜王・棋聖・王位の第41期王将戦7番勝負第2局が、2日間にわたって戸田家別館で開催される。
4月 1日	観光ピーク時に車で市内へ訪れる観光客の利便をはかり、併せて市内の交通停滞を緩和するための対策を講じることを目的に、鳥羽市観光交通対策協議会が設置される。 秩序あるリゾート整備を促進することを目的に、三重県を中心に鳥羽市、志摩5町等も参画して「財団法人三重県リゾート振興公社」が設立される。
7月14日	海の博物館の新館が浦村町大吉に完成し、鳥羽1丁目から移転、オープンする。この年、社会や文化に大きな貢献を果たした個人や団体の活動に贈られる日本文化デザイン賞を受賞する。
8月 3日	御木本真珠島が来島4000万人を達成する。
8月 - - 日	（株）志摩東京カウンティの“志摩芸術村”構想の一環として進められてきた、海洋療法施設とホテルを併設した「タラサ志摩」がオープンする。
10月 3日	コロンブスが乗船した帆船「サンタマリア」号の復元船がスペインを出発。アメリカ大陸から太平洋を経て日本の各地を航海する途中で鳥羽港に寄港。田川三重県知事等を中心に歓迎式典が開催された。歓迎レセプションや船内見学会などの諸行事が行われ、7日に鳥羽港を出港する。
11月 6日	近鉄中之郷駅舎が完成。鳥羽・中之郷間（1.0km）の複線運転が開始される。
11月11日	白木町～磯部町五知を結ぶ近鉄志摩線の青峯トンネルが貫通する。
<b>平成5（1993）年</b>	
2月18日	観光客の行き来も多い鳥羽港の港湾センター前に「佐田浜公衆トイレ」が設置される。
3月17日	近鉄志摩線のスピードアップが図られる（最高120km/h・従来は90km/h）。
4月 1日	“養殖真珠発明100周年・フェスティバルイベント～パールドリーム100夢広場”が11月30日までの会期で開催される。期間中に、パールドリーム100幸吉くじ、桂三枝師匠の創作落語「花いちもんめ」、仲代達矢主演で御木本幸吉の生涯を描く「五粒の真珠」のテレビドラマ、真珠ファッションショーなど多彩な事業が繰り広げられた。
5月 - - 日	第11次道路整備五カ年計画が決定し、伊勢湾口道路の「事業の具体化」が明記される。
7月11日	真珠養殖発明100周年記念として、真珠王御木本幸吉翁のブロンズ像が近鉄鳥羽駅前に建立され、除幕式が行われる。彫刻及び製作は佐藤勲氏。
9月 1日	近鉄志摩線の加茂～五知間（5.5km）の複線運転開始。青峯トンネルの使用が開始される。
10月 1日	御木本真珠島が御木本幸吉記念館を中心に島内整備を行い、グランドオープンの式典を開催する。
10月 2日	第61回伊勢神宮ご遷宮（内宮）。10月5日には外宮の遷宮が執り行われる。
11月 - - 日	旧鳥羽岩崎町・本町を中心に第1回“やったらんかい嘉隆まつり”が開催される。
12月 2日	11月13日～15日にかけての宮川ダム放水が原因と見られる流木・ゴミ等により、黒ノリ養殖に深刻な被害が出る。各漁協からの出合いで1週間をかけて処理。被害想定額は1億円を超えることから三重県に災害支援の要望書を提出する。
- - 月 - - 日	建築設計内藤廣氏及び海の博物館が日本建築学会賞と吉田五十八賞を受賞する。
<b>平成6（1994）年</b>	
2月 2日	谷川浩司王将と中原誠前名人の第43期王将戦7番勝負第3局が、2日間に渡って鳥羽シーサイドホテルで開催される。
3月15日	近畿日本鉄道の上本町～賢島間及び、名古屋～賢島間で「伊勢志摩ライナー」の運転が開始される。

3月24日	JR鳥羽駅前に鳥羽市内全域を紹介する「観光案内板」が設置される。
3月25日	鳥羽・伊勢・二見の2市1町の官民で組織する「伊勢志摩観光宣伝協議会」と、伊勢志摩の2市8町の官民で組織する「伊勢志摩の旅宣伝協議会」など類似団体の力を一つに結束させることを目的に三重県・伊勢市・鳥羽市及び両市の商工会議所・観光協会や、県リゾート振興公社、日本交通公社、近畿日本ツーリスト等が中心になって「伊勢志摩コンベンション推進機構」を組織。広域での誘客宣伝活動を開始する。
3月 - - 日	1市7町（鳥羽市、磯部町、阿児町、大王町、志摩町、浜島町、南勢町、南島町）の沿道環境整備を推進するための地域づくり戦略プロジェクト『鳥羽・奥志摩バイロード景観整備事業報告書』がまとめられる。 三重県地域振興部観光リゾート推進課によって『伊勢志摩国際観光モデル地区整備実施計画』がまとめられる。
4月10日	鳥羽水族館が全館完成。全館オープンセレモニーが行われる。
4月17日	伊勢自動車道伊勢二見鳥羽ラインが供用を開始する。国道42号線の交通渋滞の解消をはじめ、地域の観光・産業の発展と民生の安定にも大きな貢献をはたした。
4月22日	磯部町に志摩スペイン村（全体面積113ha）のテーマパーク「バルケスパニーヤ（34ha）」と「ホテル志摩スペイン村」がオープンする。
7月 1日	鳥羽水族館に普通車400台、バス35台を収容できる立体駐車場、デベストリアンデッキ「テラス167」が完成する。
7月22日	世界祝祭博覧会「まつり博・三重 94」が伊勢市を主会場に108日間にわたって開催される。来場者351万人。鳥羽水族館パビリオンは入館者95万人を数えた。
10月10日	近畿日本鉄道の「伊勢志摩ライナー」がブルネル賞の推薦賞を受賞する。」
12月 - - 日	伊勢湾口道路を地域高規格道路の候補路線（三遠伊勢連絡道路）として建設省が指定する。

## 平成7（1995）年

2月 1日	谷川浩司王将と羽生善治名人・竜王・棋聖・王位・王座・棋王の第44期王将戦7番勝負第3局が、2日間にわたって戸田家で開催される。
2月20日	立命館大学経済学部地域経済ゼミナール『観光開発と地域経済～三重県鳥羽市の事例研究』が発行される。
3月31日	鳥羽水族館が入館者40,404,040人を達成する。該当者には開館40周年を記念して海外旅行がプレゼントされた。
3月 - - 日	鳥羽商工会議所・鳥羽まちづくり委員会・商業活性化ビジョン策定委員会による、『熱中街（ツノ）宣言～魅力ある商店街をめざして』鳥羽市商業活性化ビジョン策定報告書がまとめられる。
4月26日	パールロード鳥羽展望台に鳥羽一郎・山川豊氏兄弟の歌謡活動における功績を称えた「歌碑」が建立され、序幕式が行われる。この「歌碑」は、市、鳥羽商工会議所、鳥羽市観光協会、鳥羽一郎後援会などの諸団体が歌碑建立委員会が組織され準備が進められてきたもので、「歌碑」には星野哲郎作詞、船村徹作曲の『兄弟船』が揮毫された。
7月20日	近鉄志摩観光汽船（株）が新造大型遊覧船「フラワーマーメイド（199t）」と中型船「チャッピー（69t）」を鳥羽湾めぐりに就航させる。
8月 1日	鳥羽水族館が夏休みの特別企画として同月20日まで夜間営業「ナイト魚ッチング」を実施。飼育担当者によるガイドツアーも行われる。
9月 - - 日	海の劇場、鳥羽一郎全国コンクール等各種イベントをおりませた“鳥羽マリンコールキャンペーン”が約3ヶ月間の会期で開催される。
10月 6日	近鉄志摩観光汽船（株）が新造大型遊覧船「竜宮城（199t）」を鳥羽湾めぐりに就航。また、10月8日には、スペイン大航海時代を思わせる帆船タイプの「エスペランサ（199t）」を英虞湾めぐりの遊覧船として就航させる。
10月11日	10月1日のダム放流が原因と思われるゴミ・雑木が黒ノリの種網にからみつく被害が発生。地元漁民等が3日間をかけて処理。三重県に対し改善と処理支援を要請する。

## 平成8（1996）年

2月 1日	谷川浩司王将と羽生善治名人・竜王・棋聖・王位・王座・棋王の第45期王将戦7番勝負第3局が2日間に渡って鳥羽シーサイドホテルで開催される。
3月15日	近畿日本鉄道の京都～賢島間で「伊勢志摩ライナー」の運転が開始される。
3月 - - 日	伊勢志摩コンベンション推進機構の果たすべき役割を探るために実施された『コンベンションの誘致と伊勢志摩地域の活性化に関する調査』がまとめられる。
4月 1日	鳥羽水族館がPR活動の一つとしてインターネットホームページを公開する。同時にネット通販をスタートさせる。
4月27日	都市計画道路岩崎樋の山線の整備に伴う岩崎・大里町のまちづくりを推進するために「2丁目まちづくりを考える会」が発足し、活動を開始する。

5月 - -日	鳥羽ブラジル丸が鳥羽港佐田浜に係留してから22年間の営業を停止する。
6月 5日	環境庁主催の「日本の音風景100選」に「海女の磯笛」が選定される。
6月 6日	鳥羽シーサイドホテル新館が開業する。
7月14日	鳥羽市安楽島町の砥浜海岸で大型恐竜の骨化石が発見される。後日の調査で、我が国では最大級の草食恐竜ティタノサウルスという竜脚類の仲間「鳥羽竜」と命名された。
7月20日	第11回「海の祭典」が16日間の日程で開催される。20日に客船「日本丸」、26日には「飛鳥」が入港。同日、鳥羽港沖では俳人黛まどか氏等を交えた帆船日本丸船上句会も開催される。また、27日には「手こぎ船の競争」が実施され、翌年からは鳥羽市観光協会が複製した小早舟（さっぱ）を用いた「九鬼水軍鳥羽サッパ競争」として「鳥羽みなとまつり」の日に実施される。
11月 2日	伊勢志摩国立公園指定50周年記念式典が、県営サンアリーナを会場に盛大に開催される。この日を前後して12月中旬まで「記念オートキャンプ大会」「伊勢志摩国立公園写真展」「近代洋画に見る国立公園」「伊勢志摩50タイムカプセル」「鯛島・神島エコ・ウオーク」「クリーン伊勢志摩・一斉清掃」など多彩な行事が展開される。
11月17日	鳥羽市民の森で市民500人が参加し「円吉桜」の植樹会が催される。この植樹会は、石原円吉翁が昭和33年から逝去するまで15年間にわたって、この伊勢志摩国立公園の自然を保護するために私財を投じて桜の苗木を送り続けた、その意志を受け継ぐことを目的に実施されたもの。調査の結果、円吉翁が贈った桜は9481本に上り、今も千本余が現存することが確認された。
11月25日	近畿日本鉄道（株）の職制に「伊勢志摩支社」が新設される。
12月20日	恐竜の調査研究と恐竜をまちづくりに活用することを目的に「鳥羽恐竜研究振興会」が設立される。
12月 - -日	鳥羽青年会議所による『住みたいまち訪れたいまち鳥羽～自然と文化を大切に開発によるまちづくり』がまとめられる。

## 平成9（1997）年

3月 - -日	財団法人三重県リゾート振興公社が策定委員会を設け検討を続けてきた『21世紀・伊勢志摩活性化ビジョン・提言～新しい時代を拓く観光・リゾートへの取り組み』がまとめられる。 三重県大型化石発掘調査団から『三重県鳥羽市産恐竜化石発掘調査中間報告書』が発行される。
5月17日	第1回「伊勢・新御師塾」が開講。実践女子大学松田教授を講師に、年間3～4回を継続的に開催。塾は「より源流に、より本質に」を軸に、観光や地域経済を支えるプロデューサーに必要な幅広い見識と、物事の本質をとらえる洞察力、企画力、発想力を学び合う場として活動を開始する。
7月31日	鳥羽市を代表する観光資源の一つ「三ッ島」を川鵜の被害から守るための、三ッ島保全対策事業検討専門委員会が設立され、第1回委員会が開催される。
9月29日	日中友好25周年を記念して、「鳥羽恐竜展 97」が12月14日まで鳥羽水族館本館跡地で開催される。中国上海自然博物館の協力を得て、アジア最大級のマメンチサウルスや日本初公開となる蒙古鳥状類の恐竜脚化石なども展示された。
10月 - -日	都市計画の指針となる『鳥羽市都市マスタープラン』が策定される。
11月 - -日	体験農園、ハーブ園、交流センター、キャンプ場、遊歩道などを柱にした『坂手農林ふれあいパーク基本構想提案書』がまとめられる。
12月 8日	11月26日及び29日のダム放流が原因と思われる雑木・ゴミによる黒ノリ被害が発生。各漁協出会で4日間をかけて処理。三重県知事に対し改善と処理支援を要請。
- -月 - -日	離島観光の支援策として離島宿泊者の佐田浜第1駐車場無料化事業が開始される。 鳥羽港を基地にカジキ釣りを競う「第1回鳥羽ビルフィッシュトーナメント」が開催される。

## 平成10（1998）年

3月 - -日	三重県交通政策課による『ミニ新幹線導入可能性調査（その1）』がまとめられ、名古屋～鳥羽間のミニ新幹線誘致活動が動き出す。 鳥羽志摩地域中部新国際空港海上アクセス促進協議会による『中部新国際空港海上アクセス路整備調査業務報告書』がまとめられる。
5月22日	宮川水系からと思われる大量の流木・ゴミが答志島海域及び桃取漁港に漂着。各漁協出会で5日間をかけて処理。三重県知事に対し現状把握と処理支援について要望書を提出する。
5月30日	スタンフォード大学客員研究官の鬼頭誠氏を講師に、地域振興セミナー「21Cの伊勢・鳥羽・志摩～中部国際空港とミニ新幹線構想」が、かもめホールで開催される。
10月10日	みえ歴史街道構想を推進する事業として「みえ歴史街道フェスタ」が約1ヶ月間の日程で開催される。本市でも「鳥羽の速費・鳥羽秘宝探検隊」のイベントが行われた。
11月 1日	日本の灯台50選に神島灯台と菅島灯台が選定される。
11月 6日	海の博物館が、建設省設立50周年記念事業「日本公共建築100選」に選定される。
11月20日	伊勢志摩国立公園自然ふれあい推進協議会が設立される。
11月24日	離島漂着ゴミへの対策要請を受けて、県農林水産商工部、県土整備部、地域振興部、環境部、企業庁の5部による「河川と海の流木ゴミ対策連絡調整会議」が設置される。

1 1月 - - 日	市役所の若手職員による『鳥羽市における集客交流産業の活性化策』討議報告書がまとめられる。
1 2月 8日	鳥羽水族館と中国上海自然博物館による「中日姉妹博物館友好協定」の締結協定書調印式が鳥羽水族館エントランスホールで行われる。
- - 月 - - 日	第1回“鳥羽魚まつり”が開催される。
<b>平成11(1999)年</b>	
1 1月 1日	近畿日本鉄道(株)が上本町～賢島間光ファイバーケーブルの賃貸事業を開始する。
2 2月 7日	鳥羽花と緑の育樹会が、市街地の魅力を高めようと城山に桜35本を植栽する。4月3日には城山公園で、第1回“夜桜祭り”が開催される。
3 3月 8日	鳥羽市観光協会青年部10周年記念事業の一環で「伊勢鳥羽志摩のこれからのまちづくりと交通体系を考える」をテーマに講演会が開催される。
3 3月19日	近鉄鳥羽駅舎のリニューアルに伴い、改築を進めてきて「観光案内所」が完成する。鉄骨平屋建て21.4平方メートル。
3 3月25日	第3セクター「鳥羽小浜開発株式会社」の臨時総会が開催され、平成11年3月31日を「解散日」として決議。同年10月7日に登記閉鎖が行われた。
3 3月 - - 日	財団法人三重ビクターズ推進機構から伊勢市・鳥羽市・志摩郡・度会郡を調査対象にした『伊勢志摩地域広域イベント実施に向けての提言』が出される。
6 6月19日	鳥羽水族館の情報発信戦略として携帯端末用「iモードサイト」がオープンされる。
7 7月23日	近鉄鳥羽駅の改良工事が竣工する。
1 10月 1日	「九鬼嘉隆400年祭」事業が6ヶ月間にわたって実施される。400年祭事業の一環で、荒俣宏著『鳥羽ミステリ紀行～どおまんせいまん奇談』が発行され、総額1000万円(548本)の商品が当たるクイズも行われる。
1 10月11日	鳥羽朝市実行委員会による“朝市～鳥羽しおさい市”がマリパーク周辺で開催される。以後、毎月第2、第4土曜日に開催される。
1 12月18日	桃取町・答志町・和具の三町が一体となって、水産業と観光業の連携や生活基盤の改善、漁村文化・離島文化の保全継承など、自立的な答志島の活性化を推進することを目的に「答志活性化21委員会」を発足させる。
<b>平成12(2000)年</b>	
1 1月 8日	鳥羽ガイドボランティアの会が発足する。
3 3月 - - 日	鳥羽志摩地域中部国際空港海上アクセス促進協議会による『鳥羽志摩地域海上アクセス運行事業計画』がまとめられる。
4 4月10日	伊勢志摩国立公園の保護と活用を図る「鳥羽ビジターセンター」がリニューアルオープンする。
4 4月19日	樋の山の中腹「扇野の里・扇芳閣」の敷地内にピオトープ“めだかの学校”が開校する。幸せの鐘、足湯、水琴窟、藤棚など誰でも気軽に立ち寄り、散策できる新しい名所となる。
4 4月25日	三重交通(株)が“伊勢・二見・鳥羽周遊バス(通称・キャンパス)”の運行を開始。鳥羽～二見～伊勢の広域的な二次交通手段として計画され、事業の立ち上げ時には2市1町が支援する。
6 6月10日	「21Cの伊勢・鳥羽・志摩～生活者の視点で考える交通網政策とまちづくり」をテーマにした地域振興セミナーが開催される。
7 7月12日	大阪中央郵便局のお客さまルームを会場に「海女文化の国・青都とば ふるさと観光物産展」が2日間にわたって開催される。
7 7月20日	「鳥羽恐竜博2000」が9月3日まで鳥羽水族館本館跡地で開催される。鳥羽竜と同類で、今世紀最大の恐竜全身骨格「ディプロドクス」も公開がされる。
7 7月22日	鳥羽旅館事業協同組合による“ワンコイン企画で遊ぼう・毎日が夏祭り～サマーロングロングフェスティバル”が約1ヶ月間の日程で開催される。
1 10月 1日	日本で初めてのパラシューティング世界選手権を含む“第25回世界パラシューティング世界選手権伊勢志摩大会・みえスカイフェスタ2000”が22日間の日程で開催される。
1 10月12日	池上三六三重県新産業創造課長を講師に、鳥羽観光魅力アップ集会「本物指向の観光地づくり、人づくりを目指して」が開催される。
1 10月20日	答志島を活性化させる第1回研究会が、三重県南勢志摩県民局長を交えて答志老人憩いの家で開催される。5回の研究会が開催され、翌年3月末には『答志島における離島振興策の調査研究報告書』が作成された。
1 11月 5日	近畿自然歩道「菅島自然遊歩道(菅島漁港～しろんご浜～菅島灯台～菅島集落)」が完成。竣工式が行われる。
1 11月29日	リゾート法に基づいて南鳥羽地域の開発計画を進めてきた(株)志摩東京カウンティが株主総会を開き精算事務に入ることを決議する。
- - 月 - - 日	答志島の歴史・文化・伝統行事を生かした誘客事業“第1回・答志島まるごと体験フェスタ”が開催される。



	パールロード沿線の誘客宣伝と観光活性化を目的に“第1回南鳥羽海の体験まつり”が開催される。
<b>平成13(2001)年</b>	
1月--日	鳥羽商工会議所による『鳥羽エコミュージアム構想基本計画』が策定される。 近畿自然歩道「朝熊山金剛証寺へのみち(松尾町～河内町庫蔵寺～伊勢市金剛証寺)」7.8kmが完成する。
2月9日	浦村町の辻本徳男氏が古稀の記念として市の木「ヤマトタチバナ」の苗木1万本を市に寄贈する。
2月11日	鳥羽花と緑の育樹会が、市街地の魅力を高めようと日和山に白梅17本、紅梅7本を植栽する。
2月27日	伊勢志摩地区広域市町村圏協議会の平成13年度知事陳情項目にミニ新幹線構想の推進を可決する
3月19日	三重県大型化石発掘調査団による『鳥羽の恐竜化石～三重県鳥羽市産恐竜化石調査研究報告書』が三重県立博物館から発行される。
3月--日	『第4次鳥羽市総合計画～笑顔と感動にであう鳥羽(まち)』が策定される。 『県指定史跡鳥羽城跡保存管理計画書』が策定される。 鳥羽志摩地域中部新国際空港海上アクセス促進協議会による『鳥羽志摩地域海上アクセス運行事業計画』がまとめられる。 鳥羽一番街協同組合によって平成12年度組合等中小企業連携組織調査開発等支援事業報告書『夢と希望のもてる鳥羽1番街をめざして』がまとめられる。
4月19日	鳥羽地域三重新幹線推進協議会が設立される。
4月22日	鳥羽花と緑の育樹会が、市街地の魅力を高めようと樋の山に紅葉150本、桜20本を植栽する。
5月--日	エコミュージアム事業の一環として、石鏡町に海女小屋を再現。石鏡旬市が開催される。
5月10日	低迷を続ける伊勢志摩地域の集客交流の活性化を図るため、地域自らが「魅力ある観光地づくり」に取り組み推進組織として「伊勢志摩再生プロジェクト」が設置される。このプロジェクトから、伊勢志摩バリアフリー推進事業、伊勢志摩テーマ型観光推進事業、観光地景観形成マネジメント事業等が動き出すことになる。
6月23日	離島交流推進事業(国土交通省支援)による第1回エコツアーガイド養成講座が開かれる。 第1回 広島県大崎下島豊町御手洗地区の「ガイドボランティアの活動と組織づくり」 第2回 鹿児島県屋久島の「島の資源探し・エコツアーのノウハウ」 第3回 徳島県上勝町の「地元物産を活用した商品開発のノウハウと情報発信」
6月--日	鳥羽の歴史・伝統・文化と調和した歩くまちづくりと魅力ある商業環境の形成を図ることを目的に『鳥羽市中心市街地整備改善活性化基本計画』が策定される。
8月--日	鳥羽市観光協会・海と港町TOBA実行委員会から雑誌『海と港町TOBA』創刊号が発行される。
9月26日	市民相互の交流と観光客誘致を図ることを目的に、鳥羽市民の船運協同協議会が組織され、第1回「鳥羽・別府市民の船」が2泊3日の日程で実施される。
9月12日	エコツーリズムを推進する海島遊民くらぶ(有限会社オズ)が設立される。
9月14日	“真珠フェスタ in 鳥羽”が11月25日まで約2ヶ月間の会期で開催される。キャンペーンの一事業として「真珠婚さんいらっしーい!」を募集。応募総数は1000組を越え、内40組を招待。また、応募者の中から111組の夫婦で石楠花・真珠姫の植樹が行われた。以後毎月30日に開催される「真珠婚式」事業へと発展する。他に“鳥羽パールウオーク”、“ブルースカイウエディング”、“磯笛が聞こえる鳥羽ふるさと音の旅”、真珠 de ファッションなどのイベントが開催される。
10月20日	全国から130余名のクラフトマンが集まり、工芸作品の展示即売を行うを第1回鳥羽クラフト展が鳥羽市民の森公園で2日間にわたって開催される。
10月30日	環境省主催の「かおり風景100選」に答志島の“塩ワカメづくり”が選定される。
11月1日	鳥羽ガイドボランティアの会の事務所を鳥羽歴史文化ガイドセンターの1階に移転し、組織と活動拠点を強化。本格的なボランティアガイドの活動が開始される。
11月12日	学識経験者や各種団体が選任した代表9名による「菅島採石問題懇談会」の初会合が開催される。
<b>平成14(2002)年</b>	
1月5日	財団法人三重ビクターズ推進機構が管理運営してきたパールロードの“鳥羽展望台レストハウス”が閉鎖される。同月21日には、その再生利活用を図ることを目的に「鳥羽展望台レストハウス再生利活用検討委員会」が設置される。
1月24日	平成12年4月から活動してきた「伊勢志摩バリアフリーツアーセンター」がNPO法人として認可される。4月12日には鳥羽駅前ビル「一番街」の1階に事務所を開設。伊勢志摩地域における体の不自由な旅行者へのサポートと情報発信を本格的に開始する。
2月--日	エコミュージアム事業で岩田準一郎を活用した「鳥羽みなとまち文学館」の改修工事に着手する。 江戸時代創業の老舗旅館の女将さんを描いたノンフィクション『おかみはん・旅館戸田家物語』が現代書林から発行される。 近畿自然歩道「神島自然遊歩道(神島漁港～八代神社～神島灯台～観の哨～カルスト地形～古里

	の浜～神島集落」が完成する。
3月16日	真珠王御木本幸吉翁の残した言葉をテーマに、鳥羽の未来を考える人材を育成し鳥羽市の活性化を図ることを目的にした「地球塾」の開校式（オープニング）が鳥羽市民文化会館大ホールで行われる。塾長・鳥羽市長、塾頭・南山大学目崎茂和教授。
3月21日	エコミュージアムの一環として浦村まちづくり実行委員会が進めてきた“和歌の散策路”整備事業の歌碑2基が完成し、除幕式が行われる。
4月26日	ベストセラーになったエッセイ『十七歳』が鳥羽市を舞台に映画化。撮影開始を前に、今関よしあき監督やヒロイン役の滝裕可里さんらによる記者会見が開かれる。
4月27日	鳥羽まちづくり工房21が空き店舗対策事業として取り組んできた岩崎町の“てづくり工房きらり”が完成。オープニングセレモニーが開催される。
4月--日	ZTVによるケーブルテレビの鳥羽市本土地域全域放送が開始される。
5月16日	鳥羽カジノ構想検討委員会が発足する。
5月21日	商船三井客船株式会社の“にっぽん丸(21,903 t)”が鳥羽港に入港。御木本幸吉の行動から学んだ“赤いハンカチ”で客船を見送る事業が始まる。
5月--日	相差町の「石神さん」の社殿が完成する。
6月20日	伊勢志摩観光コンベンション機構の中に「伊勢志摩フィルムコミッション」が設立される。
6月--日	『伊勢志摩空間快適性向上整備計画～もてなしの原風景・伊勢志摩』が策定される。
7月12日	台風6号により、桃取漁港内に約620立方メートルにおよぶ大量の葦や木片が漂着。各漁協支所や地元住民等延べ600人、船舶98隻を動員。撤去に2日間を要した。愛知、岐阜、長野の各県に対する森林・河川の管理の徹底についても取り組みを強化しよう三重県知事に要望書を提出。
7月20日	南勢・志摩地方の物産を櫓こぎ船で伊勢に運んだ江戸・明治の「海の街道」を再現する、三重歴史街道事業が開催される。鳥羽港佐田浜でサッパ船に積み込み、海路で勢田川から河崎へ搬送。
8月9日	エコミュージアム事業で進めてきた、鳥羽みなとまち文学館「岩田準一と乱歩・夢二館」が鳥羽2丁目にオープンする。 地域資源の再発見を目的にした、2005年鳥羽市戦略プラン作成委員会による“答志島海岸線調査”が行われる。
8月26日	商船三井客船株式会社の“にっぽん丸(21,903 t)”が鳥羽港に入港する。
8月27日	日本クルーズ客船株式会社の“ばしふいっくびいなす(26,518 t)”が鳥羽港に入港する。 鳥羽カジノ構想検討委員会によるシンポジウムが開催され、日本カジノ学会理事長室伏哲郎氏等による講演が実施される。
8月31日	答志島活性化21主催による答志島1周17キロメートルのコースによる“第1回答志島シーカヤックマラソン大会”が開催される。
9月1日	広域での柔軟な事業展開を図り、地域の経済効果を高めることを目的に、伊勢・二見・鳥羽の2市1町による「伊勢二見鳥羽観光宣伝協議会」が発足する。
9月--日	近畿日本鉄道(株)が“伊勢・鳥羽・志摩スーパーバスポート まわりゃんせ”を発売。特急を含む伊勢志摩エリアでの近鉄線乗り放題、20数施設の観光施設及び伊勢湾フェリー等の割引が付き、大人9300円、小人5200円。利用期間は、乗車開始日から4日間。
10月--日	千葉県・幕張メッセで開催された「旅フェア」を契機に、山岳観光都市・長野県大町市と、海洋観光都市・鳥羽市の相互交流が開始される。
11月12日	株式会社「鳥羽自然動物遊園」(昭和55年設立)の解散が臨時株主総会で決議される。
11月15日	広域というスケールメリットを生かした観光産業の振興を図ることを目的に、伊勢志摩コンベンション推進機構を伊勢志摩観光コンベンション機構と改称する。
11月19日	郵船クルーズ株式会社の“飛鳥(28,856 t)”が鳥羽港に入港する。
12月--日	国土交通省から「グローバル観光戦略」が打ち出され、ビジット・ジャパン・キャンペーン(VJC)事業が動き出す。本市でも外客誘致や国際競争力をもった魅力ある観光交流空間づくりに向けた取組が始められる。
<b>平成15(2003)年</b>	
1月10日	構造改革特区の二次募集(内閣官房構造改革特区推進室)に、カジノ施設の建設と開設を目的とした観光産業特区を申請する。熱海市、珠洲市、大阪府の官民から同様の申請が出された。
1月28日	構造改革特区の第2次提案の各省庁回答で、カジノ関連特区については不可との回答が出される。
2月6日	鳥羽・伊勢・志摩の官民による「伊勢志摩地域・鳥羽市外国人観光客誘致促進協議会」が発足。特に中国の蘇州市・上海市をターゲットにしたインバウンド事業への取り組みが開始される。
3月--日	ZTVによる離島地域<答志島・神島・菅島・坂手島>のケーブルテレビ放送が開始される。 パールロードに“岩城湊～バイクミュージアム”が開館する。
4月1日	浦村町～磯部町の矢間の“パールロード・シーサイドライン”18.3kmが無料開放される。 (株)伊勢志摩ツアーズ、三重交通(株)、鳥羽志摩湯元会などによる、名古屋～鳥羽、名古屋～志摩の直通バス「鳥羽・志摩ライナーバス」(1日1往復)の運行が開始される。

4月 6日	第1回伊勢神宮奉納グランドゴルフ大会が、伊勢市の三重県営サンアリーナ周辺芝生広場で2日間にわたって開催され、以後毎年、鳥羽中央公園陸上競技場で開催される。
4月28日	石鏡地域のエコミュージアム事業として進めてきた、海女小屋・魚見小屋散策ルートが完成。披露会が開催される。
4月 - -日	三重県離島振興計画及び鳥羽市離島振興計画（平成15年度～平成24年度）が策定される。
4月 - -日	JTB、近畿日本ツーリストなど旅行代理店とタイアップした「真珠婚宿泊パック」商品が販売され、「真珠婚」がイベント事業から誘客の旅行商品として動き出す。 灯台130周年記念事業として、鳥羽・志摩・渥美の灯台を巡る「伊勢湾口きり灯台めぐり」が11月までの約6ヶ月間にわたって開催される。
6月 7日	スカイハウズ・ジャパンカップ2002～2003シーズンのファイナル戦が中央公園陸上競技場を会場に2日間にわたって開催される。以後、ディスクドックの日本一を決定する“ディスクドッグ・ジャパンカップ in 鳥羽”として毎年開催される。
7月12日	産官学民による三重県防災事業推進委員会が設立され、委員会内に大規模集客施設や観光地における避難対策を検討する専門委員会が設置される。
7月13日	平成9年から開かれてきた“九鬼水軍鳥羽サッパ競争”を廃止。和船の小早船（サッパ）を用いて櫓こぎ・櫂こぎの2種目でタイムを競う、第1回“鳥羽サッパ競漕まつり”を小浜湾で開催する。
7月30日	日本チャータークルーズ株式会社の“ふじ丸（23,235 t）”が「彩の国マリンセミナー1」の企画で鳥羽港に入港する。
8月12日	日本クルーズ客船株式会社の“ばしふいっくびいなす（26,518 t）”が「夏休み伊勢志摩クルーズ」の企画で鳥羽港に入港する。
8月26日	商船三井客船株式会社の“につぼん丸（21,903 t）”が「彩の国マリンセミナー2」の企画で鳥羽港に入港する。
8月 - -日	立教大学観光学部溝尾ゼミナール3期生による『伊勢・二見・鳥羽地域調査報告書』が出される。
10月 1日	駐名古屋大韓民国柳洲烈（ユジュヨル）総領事が来鳥し、鳥羽市長と対談。日韓の観光及び友好交流について意見交換が行われる。
10月28日	伊勢志摩地域・鳥羽市外国人観光客誘致促進協議会による第1回外客誘致プロモーション事業が実施される。5日間の日程で中国蘇州市・上海市を訪問。中国政府関係者との交流を始め、蘇州図書館・上海図書館で鳥羽・伊勢・志摩をPRする展示・説明会が開催される。
11月 8日	第1回「生き物文化誌学会学術大会」が秋篠宮を迎え、鳥羽市民文化会館を会場に開催される。香原立教大学名誉教授の「海女の世界・自然と文化」の記念講演の他、パネルディスカッション、ワークショップ、エクスカージョンなどが2日間にわたって行われた。
12月16日	市の木「やまとたちばな」を使った特産品開発とブランドイメージづくりを目的に、商工会議所料飲・土産・産業部会が法政大学出版局から図書『橘』を出版し、香りの研究家として知られる吉武利文氏を招いて講演会を開催する。
12月19日	観光振興を図るために国土交通省が実施する「観光なんでも鑑定団」（地域がエキスパートをつくる『2005年対応・観光立国モデル』調査・ワークショップ）に鳥羽市と浜松市が採択され、国土交通省中部運輸局企画振興部観光振興課による鳥羽市の第1回ワークショップが開催される。アドバイザーとして長野正孝武蔵工大客員教授、藤川友典日旅中部エンタプライズ旅行事業部長、杉本錬堂ヒーリングストーン代表の各氏が参画する。
12月 - -日	台風や豪雨時における離島への流木、漂着ゴミの処理支援について三重県知事等に要望を行う。
<b>平成16（2004）年</b>	
1月11日	日本クルーズ客船株式会社の“ばしふいっくびいなす（26,518 t）”が「新春の南紀・伊勢志摩クルーズ」の企画で鳥羽港に入港する。
3月 5日	日米文化交流促進支援事業“第10回ホノルルフェスティバル”に鳥羽市観光協会が参加。交流催事では「鳥羽物語」や「真珠婚」の紹介など、国際交流と誘客宣伝活動が繰り広げられた。
3月22日	産業、健康、医療、教育、文化などの諸分野で協力しあい相互発展につなげることを目的にした、鳥羽市と三重大学による相互友好協力協定の調印式が行われる。
3月 - -日	伊勢志摩再生プロジェクトによる『鳥羽駅周辺市街地景観ガイドブック』が策定される。
4月 8日	伊勢鳥羽志摩地域の観光産業のポテンシャルを活用。科学的な根拠に基づく健康づくり支援プログラムなどを提供する健康サービス事業を創出し、地域の活性化を図ることを目的に、市内経済・観光関係団体、三重大学、鈴鹿医科大学、医療機関など産官学民に「伊勢鳥羽志摩健康サービス推進協議会」が設立される。
4月10日	商船三井客船株式会社の“につぼん丸（21,903 t）”が「春の伊勢志摩クルーズ」の企画で鳥羽港に入港する。
4月30日	鳥羽水族館の累計入館者数が5000万人を突破する。
4月 - -日	鳥羽みなとまち文学館に乱歩館・鳥羽文学ギャラリーを増設する。 鳥羽4丁目の広野籐右衛門宅「角屋」の土地及び母屋・土蔵と古文書・民具など貴重な歴史資料

	が10代目広野氏から鳥羽市に寄贈される。
5月1日	三重県観光開発が開業40周年を記念して、伊勢志摩スカイラインの年間通行券「とおりゃんせ」を発売する。
5月9日	20年ぶりに鳥羽水族館のラッコが出産。一般公募により「メイ」と名付けられる。
5月31日	第59期本因坊決定戦7番勝負(張本因坊・王座×依田名人・碁聖)の第3局が2日間にわたって鳥羽シーサイドホテルで開催される。
6月1日	平成13年度に実施された2005年鳥羽市戦略プラン作成委員会ワーキンググループで提案され検討が続けられてきた“島の旅社(答志島)推進協議会”の設立総会が開催される。離島観光の新たな取り組みが動き出す。
6月21日	内閣府の地域再生計画に「地域資源を生かした観光みえの魅力増進計画」が認定される。鳥羽市からは「観光振興目的の航路等について輸送需要に応じたダイヤの設定」「地域再生マネージャー制度の導入」「路地や街路樹の美しいたずまいの保全・再生」「良好な景観形成の促進」が承認。
7月19日	日本チャータークルーズ株式会社の“ふじ丸(23,235t)”が「横浜花火大会と伊勢志摩クルーズ」の企画で鳥羽港に入港する。
7月29日	NPO法人伊勢志摩バリアフリーツアーセンターが国土交通省の公共交通活性化総合プログラム調査事業を受託。「伊勢・志摩バリアフリーツアー促進プログラム」を策定する第1回検討会が中部運輸局鳥羽海事事務所で開催される。(平成16年度～17年度事業)
8月19日	立教大学創立130周年事業として、東京都豊島区の東武百貨店池袋店で“江戸川乱歩と大衆の20世紀展”が開催される。鳥羽の乱歩資料の展示や物産展、鳥羽少年探偵団が展覧会場を訪問するなど立教大学との交流活動と誘客宣伝活動が6日間にわたって行われる。
8月31日	外客誘致の動きに合わせて、三重県及び2市町村と民間団体による「三重県外国人観光客誘致促進協議会」が設立される。この設立に合わせて鳥羽市を含む2市1町及び伊賀、東紀州、並びに県内観光関係事業者8団体で三重県観光連盟内に設置してきた「外客誘致委員会」は発展的解散となる。
9月14日	羽住栄一郎監督、玉山鉄二・堀北真希主演の映画『逆境ナイン』の2ヶ月間にわたるロケーションに先駆け、クランクイン・レセプションと映画の安全成功祈願祭が伊勢シティホテルで開催される。作品は、平成17年7月に全国公開がされた。
9月18日	東海、東南海地震に対する対応策が求められる中、安藤名古屋大学教授、郡司東京大学助教授、矢田新潟大学教授等を招いて「三重県の歴史地震と津波を考える」公開シンポジウムが鳥羽市民文化会館で開催される。
9月20日	大韓民国(慶尚南道)統営市との友好交流を図るため、鳥羽市観光協会の寺田会長をはじめ官民8名が訪韓。統営市長及び統営市の経済団体、在韓日本大使館との意見交換や情報交換を3日間の日程で実施する。
9月25日	地元の海の幸をPRする“第1回うまし国産水産まつり”が海の博物館を会場に開催される。
9月29日	宮川村集中豪雨により、桃取漁港・奈佐農地海岸に約2700立方メートルにおよぶ大量の流木が漂着。各漁協支所から延べ300人、船舶100隻を動員。撤去に7日間を要する。
9月--日	全国の名湯で明らかになった温泉の不当表示問題で、三重県の湯の山及び鳥羽市の一部でも同様の不当表示が発覚する。特に温泉を利用する場合は、温泉利用の許可申請を行い許可を取る必要があるが、この届け出を知らずに怠っていた施設が県内で38軒あるなどの報道がなされた。
10月13日	「スペシャルオリンピックス・海のトーチラン in 菅島」が開催される。同月17日には伊勢志摩地区の最終トーチランが市民の森公園で行われた。
10月18日	不当な客引き等をなくしてクレームのない観光地づくりを進めようと、「伊勢志摩地域不当行為等防止対策協議会」の第1回あり方検討会が開催される。
10月19日	「伊勢志摩地域・鳥羽市外国人観光客誘致促進協議会」が、5日の日程で第2回中国蘇州市・上海市でミッションを実施。愛知万博を入れた旅行商品を造成。商談会等が開催される。
11月22日	商船三井客船株式会社の“にっぽん丸(21,903t)”が「紅葉の伊勢路と小豆島クルーズ」の企画で鳥羽港に入港。横浜港を11月22日(いい夫婦の日)に出港することから、特別バージョンとして“真珠婚クルーズ”が組み込まれ、船内では桂三枝師匠をホストに真珠婚ウエルカムステージが開催される。
11月24日	関係市町村、漁協を含めた「流木・ゴミ対策協議会」の設立を南勢志摩県民局水産室長に要請する。
11月29日	国土交通省主催の第1回中部ブロック地域づくり交流連携会議が二見町を会場に開催される。
11月--日	『三重県観光振興プラン-観光構造の変革、そして観光文化の創造をめざして』がまとめられる。相差町春雨記念公園に展望台(エコミュージアム事業)が完成する。
12月1日	総務省の地域再生マネージャー事業に採択され、離島観光の活性化に向けた取組が開始される。
12月16日	島人と三重大学の協力による健康づくりの旅“島人がもてなすウエルネスの旅”が2泊3日のプログラムで実施される。糖尿病や血糖値が気になる人のツアーとして、杉田三重大学助教授、住田三重大学附属病院講師の特別プログラムも組み入れられる。
--月--日	「答志島体験学習の宿協同組合」設立。修学旅行等離島での受入体制を整備。

平成17(2005)年	
1月26日	財団法人地域活性化センターが実施する平成16年度地域づくり総務大臣表彰に、人材育成に視点を置いた「地球塾」が選定され、東京・グランドアーク半蔵門で表彰式が行われた。
1月29日	伊勢志摩を愛する有志によるローカルヒーロー“観光戦隊イセシマン”が活動を開始する。
2月10日	伊勢湾フェリーの新航路「鳥羽～常滑航路」の運行が開始される。これまでの「鳥羽～師崎航路」は2月9日に廃止された。
2月17日	中部国際空港の開港にあわせて、三重交通(株)による鳥羽駅～(伊勢湾フェリー)～中部国際空港ターミナル間のリムジンバスが運行を開始する。 中部国際空港の開港にあわせて鳥羽市観光協会によるPR事業“真珠婚旅行in鳥羽”が開催される。サンタバーバラ市、香港、札幌、福岡から11組が参加。北海道放送による同行取材も行われる。
2月20日	中国蘇州市の観光局長やメディア関係者が4日間の日程でファミトリップで来鳥。鳥羽・伊勢・志摩の観光関係者や行政のほか、三重県知事、中部運輸局長との懇談会も行われる。
2月--日	中部経済連合会が提案書『伊勢志摩地域の観光再生に向けて』を発表する。
3月6日	ドイツの運行会社ハパックロイド・クルーズ社の“コロンバス(15,000t)”が鳥羽港に初入港する。
3月12日	独立行政法人・農業生物系特定産業技術研究機構果樹研究所の吉田俊雄氏を招き「やまとたちばな歴史文化セミナー」とヤマトタチバナを使ったアイスクリームやシャーベット、ドリンクなどの試食試飲会が開かれる。
3月--日	NPO法人伊勢志摩バリアフリーツアーセンターから伊勢・鳥羽・志摩のバリアフリーアクセスガイド『伊勢志摩へ行く。ばりふり手帖』が刊行される。 鳥羽市ホームページの新しい観光サイトが完成。NPO法人伊勢志摩バリアフリーツアーセンターに依託し、「見る・遊ぶ」「食べる」「宿を探す」「まつり・イベント」「鳥羽の物産」「バリアフリー」「旅のQ&A」などコンテンツを含めた再構築が完了し、情報発信を開始する。
4月1日	地域の歴史・文化・自然環境等の特性を活かした個性あふれるまちづくりを推進する「まちづくり交付金」事業に着手する。平成21年までの5カ年事業として『都市再生整備計画(佐田浜・岩崎周辺地区)～伊勢と志摩の国境の川、妙慶川を中心とする歴史回遊軸と離島文化の拠点となる新たな港づくりの整備』計画が交付金事業として認可される。 “伊勢・二見・鳥羽周遊バス(通称・キャンバス)”6台を、3カ年で車椅子対応の低床バスに更新する国土交通省支援事業に着手する。
4月2日	護岸改良に伴う遊歩道整備“かもめの散歩道”が完成しネームプレートの除幕式が行われる。日本産業デザイン振興会が主催する建築・環境デザイン部門で2005年度グッドデザイン賞を受賞。
4月4日	伊勢志摩観光コンベンション機構が企画し、三重県観光販売システムズ管理、三交トライバル株式会社が運行する「みえ・美し国シャトル(バス)」が開始される。名古屋と伊勢・鳥羽・志摩を低価格の直通バスで結び、新しい観光客層を掘り起こす取り組み。1日1往復。大人往復3800円、子供1900円。
4月5日	ドイツの運行会社ハパックロイド・クルーズ社の“オイローパ(28,437t)”が「大阪/シンガポール」の企画で鳥羽港に初入港する。
4月20日	第3回伊勢志摩地域・鳥羽市外国人観光客誘致促進協議会の訪中(蘇州・上海)ミッションを4日間の日程で実施する。蘇州観光祭への参加を始め中国エージェントとの商談会が行われた。
5月14日	中国上海・蘇州市の旅行会社がファミトリップで来鳥。商品造成のためのルート視察が行われた。
5月15日	鳥羽水族館開館50周年記念式典が挙行される。
5月16日	中国蘇州市副市長ほか、蘇州市政府関係者が来鳥する。8月には、蘇州市少年宮合唱団27名が来鳥し、市内の一般家庭でホームステイが行われた。
6月11日	愛知万博の開催に合わせた誘客宣伝活動が展開される。鳥羽市観光協会による「愛・地球博“世界真珠婚式”」を長久手会場EXPOホールで開催。456組の応募の中から選ばれた国内22組と、オランダ、韓国、中国、ブラジルから各1組の26組の真珠婚夫婦を招き、桂三枝匠師をホスト役に真珠のふるさと「真珠婚のまち」をPRする。
6月17日	内閣府の地域再生計画に鳥羽市から提案した「豊かな水産・観光資源に恵まれたまち・港でつなげる地域防災の輪」が認定される。
6月22日	角川映画製作、田崎竜太監督の「小さき勇者たち～ガメラ」の約4週間にわたるロケーションが始まる。相差町の鯨崎や神島町では地元住民もエキストラとして参加。平成18年4月29日から全国公開がされる。
7月1日	経済産業省が公募した平成17年度「サービス産業創出事業」に伊勢鳥羽志摩健康サービス推進協議会の内部組織である、伊勢鳥羽志摩交流フロントコンソーシアムの「20年に一度の伊勢神宮ご遷宮に向けた“心と体のリニューアル交流プラットフォーム”形成プロジェクト」事業が集客交流調査事業に採択される。全国からの応募は374件。人工透析者を中心とした生活習慣病に対する旅

	行商品造成調査事業が開始される。
7月 8日	伊勢・鳥羽・志摩の広域連携事業“伊勢志摩キャンペーン”実行委員会設立総会が開かれる。
8月 1日	「伊勢・志摩バリアフリーツアー促進プログラム」策定事業の一環として、近鉄鳥羽駅を中心に駅を利用する障害者、車椅子利用者、高齢者、赤ちゃん連れの親子などの介助・案内・誘導を行う“駅ボラ”実験事業が1ヶ月間にわたって開始される。
8月22日	外客誘致法の改正にあわせて、『鳥羽市地域観光振興計画』を策定する。
8月29日	愛知万博のパビリオン中国館蘇州WEEK開幕式が行われ、鳥羽商工会議所会頭、鳥羽市長等が参列。鳥羽と蘇州との友好交流と相互の観光客誘致事業について交流を深める。
9月 1日	鳥羽商工会議所を『鳥羽市地域観光振興計画』を推進するATAに認定される。
9月26日	第1回「とばみなとまちづくり市民協議会」が開催される。
9月29日	精神的なストレス、肥満、運動不足、環境問題への意識の高まりと共に“健康”に対する関心が高くなってきていることから、三重大学、東京大学、早稲田大学等に依頼し“リラックス促進ツアーのための基礎調査研究”が開始される。実験事業として“第1回ハイテク温泉健康塾”が鳥羽シーサイドホテルで開催される。
9月30日	ATA鳥羽商工会議所が提案した「中部国際空港と連携した国際海洋観光都市づくり」が、国土交通省の観光ルネッサンス事業に採択される。全国で13団体が採択。
10月 1日	伊勢志摩観光コンベンション機構を中心に、伊勢・鳥羽・志摩地域の広域連携誘客宣伝事業として“伊勢志摩キャンペーン「美まし国まいろう」”の事業が始まる。特に観光客が減少する9月～3月の誘客と、平成25年の式年遷宮に向けた取り組みとして、伊勢・鳥羽・志摩の3市及び三重県、近畿日本鉄道、3市の観光協会、商工会議所など官民が連携。各種メディアを活用したPR、キャラバン活動、1000万円ビッグプレゼントなど多彩な活動が展開される。 合歡の里が自社所有のサロンクルーザー「パールクイーン50号」(18t)を使い“セントレア～御木本真珠島～合歡の里”を結び、新プライベート航路を開設する。運行時間約60分。
10月 2日	“第1回観光地映画祭 in 鳥羽・『潮騒』フェスティバル2005”が、東宝・ホリプロダクションの協力を得て開催される。第4作・第5作の撮影監督萩原憲治氏の基調対談、ホリプロ取締役執行役員鈴木元之氏等を交えたパネルディスカッション、山口百恵・三重等友和主演の第4作の上映、現地『潮騒』の神島を歩くエキスカッションなどが2日間にわたって行われた。
10月 3日	商船三井客船株式会社の“にっぽん丸(21,903t)”が「秋の伊勢志摩クルーズ」の企画で鳥羽港に入港する。
10月11日	国崎旅館組合を中心に「国崎の活性化を考える会」が設立され、アワビ、イセエビなど国崎の旬の食材を使った旅行商品やまちづくりなどを議論する第1回目の会議が開催される。
10月18日	多摩美術大学の教授で『伊良子清白(月光抄、日光抄)』の著作をもつ平出隆氏を招いたまちづくり講演会「伊良子清白と鳥羽」が開催される。
11月 9日	伊勢志摩地域・鳥羽市外国人観光客誘致促進協議会による「外国人観光客誘致促進セミナー」が開かれる。講師は小野秀一郎氏、テーマは「外国ネット市場へのプロモーション戦略」。
11月11日	文化庁が公募した『わたしの旅100選』に「映画が伝える伊勢志摩の思い出～名作映画の舞台を感じる旅」が選定される。行程2泊3日。1日目『浮草』志摩市、2日目『潮騒』鳥羽市、3日目『弥次喜多道中記』伊勢市。
11月18日	郵船クルーズ株式会社の“飛鳥(28,856t)”が鳥羽港に入港する。
11月22日	大規模集客施設、観光地における避難体制に関する調査研究事業・モデル地区成果報告会がカモメホールで開催される。 内閣府の地域再生計画に鳥羽市と三重県で提案した「バリアフリーの視点で取り組む観光地・伊勢志摩再生計画」が認定される。
11月 - -日	エコミュージアム事業の一環として、相差町の菅崎園地に「春雨展望台」が完成する。 海の博物館が『新建築創刊80周年 日本の建築空間』で「日本の建築空間100選」に選定される。
- -月 - -日	三遠南信・伊勢志摩広域観光交流連携協議会による『三遠南信・伊勢志摩広域観光交流連携協議会活動方針』が策定される。 鳥羽商店会協同組合から鳥羽市出身の歌手、鳥羽一郎氏の名前にちなんだ本格麦焼酎「壱八壱六」が発売される。醸造は麦焼酎発祥の地、長崎県壱岐市。
<b>平成18(2006)年</b>	
1月 2日	浜辺の漂着物や流木などを素材に利用したアート作品“第1回海はひろいな大賞”の公募展が海の博物館で開催される。
1月 8日	日本クルーズ客船株式会社の“ばしふいっくびいなす(26,518t)”が「新春の伊勢志摩クルーズ」の企画で鳥羽港に入港する。
1月25日	宿泊施設、観光施設の従業員を対象に、外国人観光客に対するコミュニケーション、観光案内ができる「サービス業のための英会話初級講座」が開催される(観光ルネッサンス事業)。

2月 1日	「伊勢・鳥羽・志摩スーパーパスポート“まわりゃんせ”」に市営定期船が参画する。
2月 2日	地域産業活性化委員会による第1回循環型社会システム作業部会が開催される。
2月21日	漂流・漂着流木・ゴミの処理について東海市長会の議案として採択。国への要望を行う。
2月23日	伊勢志摩バリアフリーツアー促進フォーラムが、扇芳閣、答志島、伊勢神宮を会場に2日間にわたって開催される。
3月 2日	旧広野邸住宅が国の登録有形文化財に指定される。7月13日にはプレートの除幕式が行われる。
3月 4日	日本チャータークルーズ株式会社の“ふじ丸(23,235 t)”が「尾道ノ鳥羽クルーズ」の企画で鳥羽港に入港する。
3月11日	鳥羽市観光協会が第12回ホノルルフェスティバルでハワイ州知事、ホノルル市長、同フェスティバル財団からベスト貢献証を授与される。
3月14日	ドイツ運行会社のフェニックス・レイゼンによる“アマディア(旧・飛鳥 28,856 t)”が「アジア中東クルーズ」の企画で鳥羽港に入港する。
3月15日	環境省中部地方環境事務所と連携した「鳥羽市エコツーリズムシンポジウム」が開催される。
3月20日	ホスピタリティの重要性を理解してもらうために、国土交通省の観光カリスマ山田桂一郎氏を講師に第6回「サービス業のための接客セミナー」が開催される(観光ルネッサンス事業)。
3月31日	財団法人三重ビクターズ推進機構が自己破産の申立てを行う。財団が破産したことから鳥羽展望台等の事業についても平成17年度限りで廃止。所有するパールロード沿線の土地についても破産管財人による処分手続きが開始される。
3月 - - 日	『第4次鳥羽市総合計画・後期基本計画～笑顔と感動にであう鳥羽(まち)』が策定される。中部運輸局が観光地におけるバリアフリー化の推進に向け、2カ年事業でNPO伊勢志摩バリアフリーツアーセンターと協働で進めてきた『伊勢志摩バリアフリーツアー促進プログラム報告書』がまとめられる。
4月 1日	伊勢志摩観光コンベンション機構を社団法人に改組。新機構が設立される。首都圏の修学旅行営業担当者を招聘。受入宿泊施設の視察を始め、答志・菅島でエコツアーを体験。ほぼ20年ぶりに首都圏から伊勢・鳥羽・志摩への修学旅行が動き出す。伊勢、鳥羽、二見の2市1町で組織してきた「伊勢二見鳥羽観光宣伝協議会」を発展的に解消し、伊勢、鳥羽、志摩の3市による「伊勢鳥羽志摩観光連絡協議会」を設置、活動を開始する。
4月 3日	商船三井客船株式会社の“にっぽん丸(21,903 t)”が「春の屋久島クルーズ」の企画で鳥羽港に入港する。
4月14日	桃取町漁港と奈佐農地海岸に約350立方メートルの流木・ゴミが漂着し、撤去に2日間を要する。
4月16日	東京大学篠原教授、同内藤教授、西村ワークヴィジョンズ代表を招いて「鳥羽みなとまちづくりシンポジウム」がカモメホールで開催される。
4月20日	第4回伊勢志摩地域・鳥羽市外国人観光客誘致促進協議会の訪中ミッションを4日間の日程で実施
4月25日	国内・国外からの学生団体などを伊勢志摩地域に誘致することを目的に「伊勢志摩学生団体誘致委員会」を発足。鳥羽・伊勢・志摩・南伊勢町の3市1町及び各自治体の観光協会、商工会議所、宿泊施設、観光施設、漁協、旅行会社等55団体が参加。事務局は(社)伊勢志摩観光コンベンション機構。伊勢志摩でしか味わうことのできない自然や食材、生活文化や歴史、産業などの観光資源を活用した体験や見学プログラムを提案。関東地域の中学校、関西・東海・中部地域の小学校を対象にしたプロモート活動が動き出す。
5月12日	島の旅社推進協議会による“浮島自然水族館のオープニングセレモニー”が野呂三重県知事等と交えて開催される。浮島は答志島桃取町の地先にある無人島で、同社がエコツアーのフィールドとして準備を進めてきた。
5月17日	昭和56年にモスクワ動物園から鳥羽水族館に入館したバイカルアザラシが25周年を迎え、国内での長期飼育記録を更新する。
5月21日	日中21世紀交流事業による中国山東省、江蘇省などの高校生82人が来鳥。御木本真珠島や伊勢神宮を訪問する。
5月23日	フランスのミシュラン社による観光地調査が2日間にわたって実施される。
5月25日	国崎の活性化を考える会による“アワビの肝の塩辛”“ヒジキご飯”など郷土食材を使った春・夏の限定商品「国崎のあわび御膳」が発表される。
5月29日	第61期本因坊決定戦7番勝負(高尾本因坊×山田九段)の第2局が2日間にわたって鳥羽シーサイドホテルで開催される。
5月30日	三重県市議会議長会で、流木等漂着ゴミ対策について議案上程。鳥羽市議会議長が提案説明を行う。
5月 - - 日	三重県主催の環境にやさしい取り組みや先進的な活動を顕彰する「第4回日本環境経営大賞」の環境プロジェクト賞に、生ゴミを肥料などに変えるシステムを構築した戸田家が受賞する。
6月13日	アフリカマナティの飼育10年目を迎える。国内での飼育は鳥羽水族館だけで、日本一の飼育記録を更新する。
7月 1日	志摩市磯部町の矢～同阿児町鷓方間の奥志摩ライン5.5キロメートルが無料化され、鳥羽市から志摩市に至る“パールロード”が全線無料開放される。

7月14日	岩崎町内会が主催する夜間の岩崎を彩る“第1回バンブー・イルミネーション in 岩崎”の点灯式が行われる。
7月16日	石鏡町民の実行委員会による“第1回心太(ところてん)食うかやーい”のイベントが石鏡漁港周辺を会場に開催される。
7月20日	名古屋市中川文化小劇場でNPO法人伊勢湾フォーラム主催の「伊勢湾シンポジウム2006」が開催され、鳥羽市と愛知県一色町、南知多町の離島7島を活用した“七福・理想島”の提案が行われ論議が交わされた。
7月28日	第10回を記念する鳥羽ビルフィッシュトーナメント国際大会が3日間にわたって開催される。
7月 - - 日	静岡大学が発行する『経済研究 12巻1号』に「鳥羽の観光ヒアリング調査報告」が掲載される。
8月 5日	市民による実行委員会方式で「第1回キャンドルイン鳥羽海灯(うみあかり)」が開催される。かもめの散歩道を中心に8500本の蠟燭が点灯された。
8月10日	観光ルネッサンス事業として進めていた江戸川乱歩の作品等を集めた土蔵“幻影城”が、鳥羽みなとまち文学館内にオープンする。
8月25日	中国蘇州市の少年宮の子供達が教育旅行として来鳥。市内でホームステイが行われ、旅行の内容は帰国後蘇州テレビでも放映された。
8月 - - 日	浦村町の新鮮な食材を消費者にとどけ、まちの活性化につなげようと「麻生の浦会」が発足。毎月第1、第3日曜日に浦村町公民館前を会場に“朝市”が開催されることになる。
9月13日	平成10年11月に三重県庁内に設置された「河川と海の流木等ゴミ対策連絡調整会議」を廃止し、「流木・ゴミ対策推進会議」が設置される。推進会議内には新たに、「発生抑制部会」と「処理対策部会」が置かれた。
9月19日	市内の宿泊施設観光関係使節の従業員を対象にした、観光ルネッサンス事業「サービス介助士2級検定取得講座」が2日間の日程で開催される。 伊勢志摩学生団体誘致委員会による横浜市中学校長会(146校)を対象にした、教育旅行誘致のミッションが実施される
9月22日	伊勢志摩キャンペーンの名古屋圏マスコミキャラバン及び大阪圏マスコミキャラバンが行われる。このキャラバン活動を皮切りに、上本町・難波・名古屋・京都の各駅や首都圏でのPRキャラバンが展開される。
9月26日	鳥羽市議会9月議会が閉会。新税の入湯税を含む「鳥羽市税条例」の一部改正案が可決される。
10月 1日	平成18年度「伊勢志摩キャンペーン」が始まる。1日近鉄上本町・難波駅、7日近鉄名古屋駅、13日～14日東京駅一番街北プラザ、22日近鉄阿部野橋駅でオープニングPRキャラバン活動を展開。6ヶ月間にわたって各種メディアを通じた誘客宣伝事業と、伊勢鳥羽志摩地域の宿泊施設を対象にした「インターネット集客カレッジ」の開催など受入体制の強化が図られる。 国崎の活性化を考える会による“サザエのどぼ漬け”“せんげん汁”など郷土食材を使った秋・冬の限定商品「国崎の伊勢えび祝膳」が発売される。
10月 2日	NPO法人地域活性化センターが運営するプロジェクト「恋人の聖地」に神島が選定。神島灯台前に設置された記念プレートの除幕式が行われる。
10月 4日	市内宿泊施設の若女将でつくる「若女将の会・うめの蕾会」が発足する。
10月 5日	伊勢志摩学生団体誘致委員会による川崎市中学校長会を対象にした、教育旅行誘致ミッションが実施される。
10月 6日	鳥羽ガイドボランティアの会が、環境省自然環境局長賞を受賞。表彰式が行われる。
10月 7日	御食国若狭小浜食育・食文化まつり「第1回・御食国サミット」に鳥羽市が参加する。
10月11日	宿泊施設、観光施設の従業員等を対象に、外国人観光客に対するコミュニケーション、観光案内ができる「サービス業のための英会話講座」が開催される(観光ルネッサンス事業)。
10月16日	第1回「鳥・食の文化祭～我が家の一品から鳥の一品へ」が答志町老人憩の家で開催される。「結納」の祝膳のほか、神島、答志島、菅島、坂手島から300点を超える家庭料理が披露された。
10月30日	相差町に「海女小屋・相差かまど」(観光ルネッサンス事業)が完成し、披露式典が行われる。
10月 - - 日	観光ルネッサンス事業による『鳥羽市国際海洋観光都市マーケティング調査報告書』が発行される。
11月 1日	鳥羽磯部漁業協同組合といせしま森林組合による「豊かな森林づくり・海づくり協定」が締結され、「漁民の森づくり」活動が開始される。 伊勢志摩国立公園制定60周年記念と、第48回自然公園大会を通じて自然の保全と活用を図ることを目的に、ガイドブック『伊勢志摩ウオーキング60』が発行される。
11月 8日	第48回自然公園大会が開催される。市内でも各種ウオーキング等、記念イベントが開催される。
11月14日	東京八重洲口地下街を会場に、伊勢鳥羽志摩をPRする首都圏キャラバンが実施される。
11月27日	伊勢鳥羽志摩健康サービス推進協議会主催による「健康交流フォーラム～健康交流とおもてなしバリアフリー」がカモメホールで開催される。田口寛三重大学教授、大森久三重県観光局長の基調講演の後、パネルディスカッションが行われる。
11月28日	ホスピタリティの重要性の理解と接客技術を向上させるための第7回「サービス業のための接客セミナー」(観光ルネッサンス事業)が開催される。
12月22日	ヤマトタチバナを原材料とした匂い袋「非時香果(ときじくのかぐのこのみ)」の商標登録される。



- - 月 - - 日	J R東海が、“伊勢路フリー切符”を発売。愛知・岐阜・三重の路線とタクシーが利用可能。鳥羽～名古屋間大人 7500 円、2 人用 9500 円、3 人用 11500 円、4 人用 13900 円。友好期間 3 日間。料金の中にタクシー乗車券 6 0 0 0 円を含む。 『鳥羽みなとまちづくりレポート～鳥羽城蹟・旧城下町遺構を活かした都市観光まちづくりと歩行者回遊ネットワーク整備に関する調査報告書』が策定される。
<b>平成 1 9 ( 2 0 0 7 ) 年</b>	
1 月 7 日	日本クルーズ客船株式会社の“ばしふいっくびいなす(26,518 t)”が「新春の伊勢志摩クルーズ」の企画で鳥羽港に入港したが強風のため停泊が出来ず、急遽名古屋港に向け出港する。
2 月 6 日	環境省の第 2 回エコツーリズム大賞の特別賞を「海島遊民クラブ」が受賞。授賞式が行われる。
3 月 2 日	美しい日本の歴史的風土 1 0 0 選実行委員会(国土交通省、文化庁等後援)が公募した「美しい日本の歴史的風土 1 0 0 選」に、“港町鳥羽の歴史的文化遺産”が「準 1 0 0 選」に選定される。
3 月 7 日	鳥羽市温泉振興会の設立総会が鳥羽商工会議所力モメホールで開催される。
3 月 1 0 日	鳥羽の魅力をお客様にお伝えするマニュアル本『鳥羽のおもてなし虎の巻』が発行される。
3 月 2 2 日	郵船クルーズ株式会社の“飛鳥(50,142 t)”が「春の伊勢志摩クルーズ」の企画ツアーで鳥羽港に初入港する。
3 月 2 4 日	第 2 回「島・食の文化祭」(あなたが主役・島の味～ふるさとの味を子や孫に伝えたい)が開催される。「お七夜・初織」の祝膳等、神島、答志島、菅島、坂手島から 2 5 0 点の料理が披露された。
3 月 2 7 日	ブルネイ・ダルサラーム国の第 1 次資源産業省観光局長等一行が来鳥し、市長及び市内観光関係団体との意見交流が行われる。
3 月 3 1 日	伊勢湾フェリー株式会社の「鳥羽～常滑」航路が廃止される。 鳥羽恐竜研究振興会から『なみうちぎわのロマン - 鳥羽竜化石発見から 1 0 年』が発行される。
4 月 1 日	近畿日本鉄道と西日本旅客鉄道などによる「岡山～伊勢志摩地区」、「広島市内～伊勢志摩地区」の周遊券“新幹線&まわりゃんせ”が発売される。 三重交通の定期観光バスを「美し国周遊バス」として 2 コースから 1 0 コース 1 6 プランに拡大、観光タクシーは「美し国タクシー」として名古屋、京都、大阪から出発するプランがつけられる。 伊勢志摩観光コンベンション機構が企画し三重県観光販売システムズ管理する、名古屋～伊勢～鳥羽～志摩間「みえ・美し国シャトル(バス)」を、「美し国エクスプレスバス」と改称。鳥羽～志摩間はこれまでの国道 1 6 7 号線を走るルートからパールロードを走るルートに変更される。
4 月 1 8 日	第 5 回伊勢志摩地域・鳥羽市外国人観光客誘致促進協議会の訪中(蘇州・上海)ミッションを 4 日間の日程で実施。日本企業の報奨旅行誘致と教育旅行誘致に重点が置かれた。
4 月 2 5 日	樋の山の「めだかの学校」に“万華鏡のある音楽人形館”がオープンする。国内外から集めた 4 0 0 0 点を超える人形を展示。オープニングを兼ねて D O R A によるジャズコンサートが開催された。
4 月 2 6 日	観光ルネッサンス事業による「相海女文化資料館」が完成し披露式典が行われる。
4 月 - - 日	フランスのミシュラン社が発行するガイドブック「新シリーズの実用ガイド」の日本版が初めて刊行される。伊勢志摩は、鎌倉・金沢・長崎などと並んで二つ星に選定される。また、市内施設ではミキモト真珠島が二つ星に選ばれた。
5 月 7 日	第 6 5 期将棋名人戦 7 番勝負(森内名人×郷田九段)第 3 局が 2 日間にわたり戸田家で開催される。
5 月 1 1 日	第 6 2 回式年遷宮のお木曳き行事一日神領民「鳥羽の日」として、鳥羽市民が「お木曳き」に参加。伊勢市宮町交差点から外宮北御門まで約 8 0 0 メートルを曳いた後、特別参拝が行われた。
5 月 1 8 日	本市の中長期的な観光基本計画を策定するため、鳥羽市観光協会や鳥羽商工会議所など市内の観光関係団体、立教大学・近畿日本鉄道・中部国際空港・リクルートなど学識経験者や市外観光関係・メディア関係者、国土交通省中部運輸局・環境省・三重県観光局など 1 9 名の委員と 4 名のアドバイザーによる「鳥羽市観光基本計画策定委員会」が設置され、第 1 回委員会が開催される。
5 月 3 1 日	答志漁港に市営定期船の浮き桟橋が完成。島民・観光関係者から強い要望が出ていた潮の干満による乗降の不便さが解消される。
7 月 5 日	鳥羽の魅力を伝えるマニュアル本『鳥羽のおもてなし虎の巻～南鳥羽編』が発行される。
7 月 1 1 日	畔蛸岩牡蠣協同組合が伊勢神宮(内宮)に“畔蛸岩牡蠣”を奉納する。
7 月 1 6 日	台風 4 号による流木、枯れ草、木片等 3 3 0 立方メートルが桃取漁港内や奈佐農地海岸に漂着。地元漁民等が 2 日間をかけて撤去。三重県に対し現況確認と対策支援を要請する。後日、三重県知事に対しても、発生源対策や広域での処理支援策の確立を要望書として提出する。
7 月 3 1 日	横浜港を 3 0 日に出港した「夏の鳥羽クルーズ」“飛鳥”が鳥羽港に入港。オプションツアーの「真珠婚」の挙式や、市民船内見学会、鳥羽商船学校を卒業し“飛鳥”で勤務する航海士と鳥羽商船在校生との懇談会も実施される。
8 月 1 日	伊勢志摩学生団体誘致委員会による第 1 回首都圏(東京都内、川崎市)公立中学校セールスキャラバンを 3 日間の日程で実施する。
8 月 2 5 日	日本クルーズ客船株式会社の“ばしふいっくびいなす(26,518 t)”が「夏の伊勢志摩・南房総クルーズ」の企画で鳥羽港に入港する。

8月28日	伊勢志摩学生団体誘致委員会による第2回首都圏（東京都内、川崎市）公立中学校セールスキャラバンを3日間の日程で実施する。
8月30日	岐阜県高松市、三重県鳥羽市、静岡県浜松市の三地域と国土交通省中部運輸局の連携による“中部縦断再発見観光ルート開発事業”に着手。5日間の行程で中国大連市、瀋陽市を訪問し観光説明会及び商談会を実施。中部国際空港、能登空港、将来的には富士山静岡空港を出入国の起点とする外客誘致活動を展開する。
9月1日	環境庁が全国7県11ヶ所で行う「漂流・漂着ゴミに係る国内削減方策モデル調査」に鳥羽市答志島桃取東地先海岸（奈佐の浜周辺）が採択され、第1回地域検討会が開催される。
9月28日	答志島架橋建設促進協議会の設立総会が鳥羽磯部漁協桃取町支所で開催される。
9月29日	音楽人形館オープン後、初めての“カントリーライブ in めだかの学校”がジャズバンド・ロンサムランブラーズを招いて開催される。
9月29日	近鉄特急伊勢志摩ライナーで“恋の妙薬”やチラシの配付など、伊勢志摩キャンペーンの誘客宣伝活動が始まる。文化会館では『潮騒』第2作の上映や女優の宮崎美子さんのトークショー等、オープニングイベント「潮騒フェスティバル2007」が2日間にわたって開催された。
9月--日	中小宿泊施設の魅力的な着地型旅行（宿泊）商品をタイムリーに提案していくことを目的に、ルームバンクシステムを使ったインターネット予約システムを伊勢志摩観光コンベンション機構のホームページに構築する。 「真珠婚のまち・鳥羽」をアピールするイメージソング『夫婦であ・り・が・と・う』のCDが製作される。作詞：ごのくちのりこ氏、作曲：橋本博之氏、発行：鳥羽市観光協会。
10月1日	平成19年度伊勢志摩キャンペーンが開始される。 マリアナ諸島、グアム島、パラオ島など19日間の旅程で航海中のフィンランド船籍の客船“ハンセアティック号（8378t）”が鳥羽港に初入港。歓迎式が行われる。 漁港建設工事の作業船により神島海底送水管が破損。神島町で19日間にわたる断水となる。 レストラン・クッカーニャでハンバーガー「とばーがー」のモデルテスト販売が行われる。
10月2日	鳥羽市観光協会と鳥羽市婦人会連絡協議会が中心となり、郷土舞踊“鳥羽物語”の普及などを目的にした「鳥羽物語倶楽部」の発足式がカモメホールで行われる。
10月27日	和歌の里散策路事業が進められてきた浦村町に4基目の歌碑が完成。除幕式が行われる。
10月--日	鳥羽商工会議所による『鳥羽市国際海洋観光都市マーケティング調査報告書』がまとめられる。
11月2日	鳥羽花と緑の育樹会が、特産品開発の資源としても注目される“ヤマトタチバナ”の苗木200本を浦村みかん園跡地に植樹する。
11月4日	鳥羽商店会協同組合による“第15回やったらんかい嘉隆まつり”が開催される。15年間、毎年開催されてきた本事業は、今回をもって休止となる。
11月11日	文部科学省主催の「自然と暮らす人々と学ぼう。海編第1回」が大杉谷自然学校と島の旅社が参画して答志島をフィールドに開催される。
11月15日	平成19年度の観光ルネッサンス事業の一環で常夜灯3基が中心市街地に設置され、JR鳥羽駅前関係者を招いた完成セレモニーが開催された。
11月17日	浦村町スズケフチ地内で鳥羽磯部漁協といせしま森林組合の協力による「漁民の森づくり」が行われる。コナラ、アラカシ、スダジイ、タブノキ、クヌギ、ヤマザクラ、ヤマモモ、クロガネモチなど500本の植樹が行われた。 安楽島町の二地浦から岩倉町の丘陵地にまたがる大規模開発計画に対し、環境破壊などを理由に、事業に反対する市民団体「安楽島の海を守る会」が発足する。
11月18日	海島遊民クラブが環境省主催の「第3回エコツーリズム大賞」の優秀賞に選ばれ、神戸市で表彰式が行われる。
11月20日	大里通りから本町通りに抜ける「みなとまち文学館」のアプローチ棟が完成し内覧会が開かれる。 地元食材の理解を深め、食育教育と地産地消につなげる取り組み「キッズクッキング」が、鳥羽小学校4年生の児童を対象に、若女将の会と鳥羽磯部漁協を中心に開催される。鳥羽産のキス・ハマチ・タイ・ワカメ、鳥羽で製造された煮干し・醤油・味噌を使用。
11月24日	中部運輸局主催のファミトリップ（YOKOSO JAPAN トラベルマート2007）で中国・フランス・アメリカ等エージェンツ関係者が来鳥。ミキモト真珠島、鳥羽水族館を視察後、アクアビラ伊勢志摩に宿泊。翌日、高山市へ向かった。
11月28日	伊勢志摩健康サービス推進協議会による“健康ツーリズムセミナー”が開催され、「イメージの中の伊勢志摩観光史」、「ヘルスツーリズムの現状と今後」等の講演が行われる。
12月13日	鳥羽市観光基本計画策定委員会によって議論が重ねられてきた『鳥羽市観光基本計画（案）』が取りまとめられ、村上和夫委員長（立教大学教授）から鳥羽市長に答申が行われる。
12月26日	京都薬科大学附属薬用植物園の後藤勝実氏を講師に、新年を鳥羽で過ごす宿泊者をもてなそうと、若おかみでつくる“うめの蕾会”のメンバーなどが参加して「とそ」づくりが行われる。「とそ」は本来、屠蘇散（とそさん）と呼ばれる数種類の薬草を酒に浸して飲み、長寿などを願うもので、今回は「市の木・やまとたちばな」も使用された。
12月--日	妙慶川の改修工事で「相橋」の南北詰めから、江戸時代と思われる鳥羽城の石垣が発見される。

## 【主な参考文献】

- 『鳥羽の観光50年～鳥羽市観光協会50周年記念誌』鳥羽市観光協会50周年記念誌編集委員会編 昭和55年 鳥羽市観光協会発行
- 『明治・大正・昭和 鳥羽のこぼれ話』尾田寛光著 平成3年 尾田寛光発行
- 『鳥羽市史 下巻』鳥羽市史編さん委員会編 平成3年 鳥羽市役所発行
- 『伊勢志摩国立公園20年史』伊勢志摩国立公園20年史編集委員会編 昭和43年 伊勢志摩国立公園協会発行
- 『御木本真珠島のあゆみ』上井兼尚編 昭和54年 御木本真珠島発行
- 『御木本真珠島100年史』御木本真珠島100周年合同編纂委員会編 平成6年 株式会社ミキモト発行
- 『鳥羽水族館開館40周年記念誌』鳥羽水族館企画室編 1996年 鳥羽水族館発行
- 『鳥羽水族館開館50周年記念誌』鳥羽水族館編 2005年 鳥羽水族館発行
- 『近畿日本鉄道社内誌 ひかり '70 5』近畿日本鉄道広報部編 昭和45年 近畿日本鉄道株式会社発行
- 『創業90周年記念 最近10年のあゆみ』近畿日本鉄道株式会社編 平成12年 近畿日本鉄道株式会社発行
- 『三重交通 最近10年のあゆみ』三重交通社史編纂委員会編 昭和59年 三重交通株式会社発行
- 『伊勢湾フェリー25年の歩み』伊勢湾フェリー(株)25年史作成委員会編 平成元年 伊勢湾フェリー(株)発行
- 『名鉄海上観光船70年のあゆみ』名鉄海上観光船株式会社編 平成8年 名鉄海上観光船株式会社発行
- 『海の博物館～海を知り海を愛する心を育てよう』財団法人海の博物館編 2004年 海の博物館発行
- 『鳥羽商工会議所報(月刊誌)』鳥羽商工会議所編 鳥羽商工会議所発行
- 『伊勢神宮』所功著 2003年 講談社発行
- 『検証・ゴジラ誕生』井上英之著 1994年 朝日ソノラマ発行
- 『太平洋新国土軸の創造に向けて』太平洋新国土軸構想推進協議会編 平成14年 太平洋新国土軸構想推進協議会発行
- 『ゴードン・スミスの日本仰天日記』リチャード・ゴードン・スミス著 荒俣宏(等)翻訳 1993年 小学館発行
- 『鳥羽市議会会議録』鳥羽市議会事務局編 昭和30年～平成19年 鳥羽市発行
- 『昭和17年 鳥羽町勢要覧』鳥羽町役場編 昭和18年 鳥羽町役場発行
- 『朝日新聞』、『伊勢新聞』、『中日新聞』、『毎日新聞』、『読売新聞』の各紙紙面及び各種『雑誌』、『パンフレット』等。

## 【編集後記】

今回『鳥羽市観光基本計画』を策定するにあたり、観光地鳥羽の歴史を検証しておく必要があるとの意見が出されたことから、「略年表」を作成した。これまでに観光史としてまとめられたものは、昭和55年に鳥羽市観光協会が発行した『鳥羽の観光50年～鳥羽市観光協会50周年記念誌』があるのみで、年表を作成するには史料が少なく、多くの項目は一次史料まで確認をするには至らなかったため、特に「月日」については疑問が残るものも少なくない。しかしながら、今後、再調査をするときの資料とも考えて、あえて記載をさせていただいた。活用にあたっては充分留意をお願いしたい。

年表作成にあたっては、上記の参考資料以外にも多くの資料を活用させていただいたが、年表の文章はそれぞれの参考資料からそのまま転用させていただいたものが多い。編著者の皆様方には、何卒ご容赦をいただきたくお願いを申し上げますと共に、関係各位にはこの場をお借りしてお厚くお礼を申し上げます。

この年表では、観光に直接関わる事項を中心に編集をしたが、観光を考える上で関わりの深い、交通・通信・保安・公衆衛生などについても大きな動きを列記した。

最後に、観光と深く関わる特記すべき重要な事柄が欠落しているものも数多くあると思われるが、それらの史実が明らかになる毎に追記をし、『観光史年表』として完成をさせていきたい。また、温故知新ではないが、歴史の流れと先人の取り組みを調査し学ぶことで、今後の観光地鳥羽のあるべき姿を考察する資料として活用を図っていきたく考えている。